

福岡県の近世窯業関係遺跡

福岡県文化財調査報告書 第284集

2024

福岡県教育委員会

序

安土桃山時代末期、文禄・慶長の役に伴い、朝鮮半島から九州に渡來した多くの陶工たちによって、九州各地で国焼が興りました。この陶工たちによる新たな焼物技術の導入は、我が国の陶磁器の歴史にも大きな影響を与えました。

現在の福岡県域においては、筑前では黒田氏が高取焼を、豊前では細川氏が上野焼を興します。これらの窯は江戸時代初頭の茶人名である小堀遠州が指導した遠州七窯としても有名です。筑後では、江戸時代初頭に田中氏の下で蒲池焼が興り、その後、久留米藩・柳河藩の下で、藩窯のみでなく、様々な民窯で焼物が焼かれました。

明治時代の廢藩置縣により、多くの藩窯は廃窯に追い込まれますが、民窯として継続する窯もありました。特に小石原焼は、大正時代に柳宗悦、バーナード・リーチらによる民藝運動で高く称賛されたことで有名です。

福岡県教育委員会では、江戸時代以降に焼物が焼かれた場所を、近世窯業関係遺跡として捉え、現状を把握するために、令和2年度から緊急分布調査を開始し、4年にわたる調査を終えて、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

焼物は現在の私たちの生活に欠かせない日用品であり、我が国における茶の湯文化の発展に大きく寄与してきました。その焼物を生産した窯跡について、今後、文化財として保存・活用していくなど、適切な保護の推進を図っていくことで、本県の特色ある焼物の歴史を後世に残していくことができます。

近世窯業関係遺跡の調査や報告書の作成において、地元自治体を始め多くの方々に御支援・御助力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 吉田 法稔

例　言

1. 本書は、令和2～5年度に国庫補助を受けて福岡県教育委員会が実施した福岡県内の窯業関係遺跡に関する調査報告書である。
2. 調査にあたっては福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会を設置し、その指導のもとに現地調査や資料作成等を行った。
3. 本書における「窯業関係遺跡」は、焼物＝窯業に関わる構造物や痕跡並びにそれらが埋蔵されている場所を指している。主として近世を対象とするが、近代に続き操業された窯で遺跡となっているものも含めた。
4. 本書においては、窯跡等が近世の江戸時代を中心とすることもあり、原則として内容について言及する際には旧国や藩ごとに示した。現在の福岡県域は明治9年（1876）8月21日に確立したが、江戸期には、筑前に福岡藩・秋月藩のはか対馬府中藩領、中津藩領、幕府御料があり、筑後には久留米藩・柳河藩や下手渡藩（三池藩）、豊前には小倉藩・小倉新田藩・豊津藩・中津藩の一部などがあった。
5. 調査は、当該地区の市町村の協力のもとに実施した。また掲載した出土遺物は九州歴史資料館及び各市町村に保管されており、遺物実測図に所蔵先を明記した。
6. III-2の重点調査の報告に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図を編集・加工したものである。
7. 本調査・報告に係る参考文献は、巻末にまとめて掲載した。
8. 本書に掲載した発掘調査の遺構写真・遺構実測図は、参考文献に掲げる報告書等から再録したものである。ただし、上畠窯跡実測図は新たに岡垣町教育委員会から提供を受けた。現況写真は、明示したもの以外は事務局で撮影したものである。
9. 本書は、I・IIは伊崎俊秋・岸本圭・坂本真一、IIIは岸本・坂本、遠藤啓介が執筆した。IVの1・2は坂本、3は酒井芳司、4は岸本、Vは坂本が担当し、編集は坂本が行った。

目 次

Iはじめに.....	1
1.調査に至る経過	1
2.調査の経過	2
3.調査の組織	6
II福岡県の近世窯業遺跡に関する調査.....	7
1.福岡県の近世窯業の概要	7
2.福岡県の近世陶磁の把握	8
3.福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査	10
4.近世窯業遺跡の史跡指定等	13
5.皿山の地名	15
III福岡県近世窯業関係遺跡調査.....	17
1.第一次調査（悉皆調査）.....	17
2.第二次調査（重点調査）.....	17
3.各遺跡の詳細	18
表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡.....	20～45
表2 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 関係遺跡.....	46・47
IV総括.....	139
1.調査成果	139
2.福岡県における近世の窯跡と窯道具について	141
3.文献史料調査の成果と課題	150
表3 歴史史料調査.....	152～163
4.窯跡の保存と活用	164
Vおわりに	167
○福岡県の窯業関係事象年表.....	168
○参考文献.....	172

I はじめに

1. 調査に至る経過

埋蔵文化財の保護にあたっては、その把握と周知が重要であり、このことは文化財保護法第95条に規定されている。埋蔵文化財は土地に埋蔵されているという性格上、把握にあたっては試掘・確認調査等の成果を反映させ、より精度を高めていく必要がある。福岡県教育委員会では、これまで昭和51～55年度（1976～1980）に『福岡県遺跡等分布地図』16冊を刊行し、県内の埋蔵文化財包蔵地の周知化を行った。それ以降、各自治体が主体となり、更なる分布調査や試掘・確認調査の積み重ねにより、埋蔵文化財包蔵地地図の精度を高めてきた。

埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については国による考え方が示されている。文化庁に設置された「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」（平成6年（1994）10月設置）は、平成10年（1998）6月に「埋蔵文化財の把握から開発事前の発掘調査に至るまでの取扱いについて」の報告を行った。これは文化庁記念物課（現文化財第二課）埋蔵文化財部門が所管するもので、この中で、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲は「全国に共通する原則としては、当面、次のとおりとするのが適切と考えられる」とした。

- ①おおむね中世までに属する遺跡は、原則として対象とすること。
- ②近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができること。
- ③近現代の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができること。

この報告は同年9月29日付で「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」として各都道府県教育委員会教育長宛てに通知・周知された。この「平成10年通知」をもって、条件付きながら近世の遺跡は「地域において必要なものを対象とすること」となり、さらには近現代の遺跡についても調査対象とできるようになった。また、埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会でも、「九州地区埋蔵文化財発掘調査基準」を定め、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については文化庁の考え方軸を一にしている。

そして、文化庁記念物課が監修した『発掘調査のびき—集落遺跡発掘編一』（2010年5月）において、「埋蔵文化財は、…文字や記録のない先史時代はもとより、古代や中・近世さらには近・現代においても、文献史料だけからでは知ることのできない歴史や文化を明らかにする手がかりとなるものである」（p2）とされた。さらには同書第Ⅲ章第1節「2 埋蔵文化財包蔵地の範囲」において、「近世以降の遺跡の扱い」は「各地方公共団体では、今日的な観点から、埋蔵文化財として扱う範囲について再検討し、適切な保護措置をとることが求められる」（p51）としている。

埋蔵文化財の周知化は、各自治体の取組を主体とする一方、「地域において必要なもの」や「地域において特に重要なもの」という視点は、市町村域を越え、県内を俯瞰した評価が必要となる。そこで福岡県教育委員会では、遺跡の性格に応じた県内遺跡の詳細分布調査を進めてきた。平成24～28年度（2012～2016）『福岡県の中近世城館跡』（I）～（IV）、平成29～令和元年度（2017～2019）『福岡県の戦争遺跡』の調査及び報告書の刊行がこれに該当する。

近世窯業関係遺跡については、昭和30年（1955）に福智町釜ノ口窯跡、昭和54年（1979）直方市内ヶ磯窯跡を始めとし、早い段階から発掘調査が行われており、地域において必要なものとして扱われてきた。特に、北九州市菜園場窯跡、東峰村釜床1号窯跡、一本杉2号窯跡は発掘調査の結果、重要な価値

が見出され、県指定史跡（菜園場窯跡は移設保存したため県指定有形文化財（考古資料））として保護されている。福岡県内には近世初期から現在まで高取焼、上野焼を始めとした窯が操業しているが、その全容を把握するまでには至っていなかったため『福岡県の近世窯業関係遺跡』として調査することとした。当初は令和2年度（2020）から4年度（2022）の3ヵ年事業としたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出等により現地調査や委員会開催ができず、調査期間を令和5年度（2023）まで延長することとした。

2. 調査の経過

a. 福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

まず、窯業遺跡を調査するにあたり、その基本方針を定め、福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会に諮った上で、その方針に則って実施していくこととした。基本方針は次のとおり定めた。

福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

1 必要性と目的

福岡県内では、高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では、小石原焼が重要無形文化財に指定され、技術の保持者として福島善三氏が認定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

現在、このような窯業を始めとした、近世以降の生産遺跡は、各自治体にとって重要と考えられるもののみが記録保存調査の対象となっている。これらの遺跡は、県内における位置付けが十分になされていないものが多いことから、歴史上又は学術上重要なものがあるにもかかわらず、近年の開発により把握されないままに消滅したものもあると考えられる。

このため、福岡県教育委員会において、県内の近世以降の窯業関係の生産遺跡について悉皆調査を行い、現状の把握及び評価を行うことで、適切な保護の推進に資するものとする。また、それらの調査を通し、地域の歴史を掘り起こすことで、新たな地域の魅力の創出にも繋がると考えられる。

2 対象・範囲

調査の対象は、江戸時代に営まれた陶磁器等の窯跡とする。その他、陶磁器に関連する生産関連遺跡（陶土・粘土等の原料採掘遺跡、工房跡など）も対象とする。

3 組織・体制

- (1) 調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務とする。
- (2) 調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会設置要項」を定める。

4 スケジュール

令和2年度：既存情報の把握、整理

令和3年度：一次調査（悉皆調査：基礎的な情報収集と整理）

　　二次調査（重点調査：重要遺跡の詳細調査）

令和4年度：二次調査（重点調査：継続調査）

令和5年度：二次調査（重点調査：補足調査）

調査内容に基づく成果報告書の作成

5 調査結果の取扱い

- ・調査の成果は調査報告書として刊行し、県内の文化財関係機関や図書館に送付して幅広く閲覧に供する。
- ・地域にとって必要なものについては、文化財保護法第95条に基づき、「埋蔵文化財包蔵地」に決定して保護の対象とし、周知の徹底を図る。
- ・重要な遺跡については、国、県又は市町村による史跡指定や登録による保護を推進する。

b. 第一次調査（悉皆調査）と調査指導委員会

令和2年度は事務局で協議を行い、「福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針」を定め、九州歴史資料館において、諸文献等を参照して基礎となる一覧表を作成した。この一覧表は、県内に所在する近世～近代（明治時代）の窯跡について書籍・県・市町村誌類や関係論文から情報を収集し、遺跡・関係構造などを取り上げたものである。その内訳は、各旧国における陶磁器窯跡地名表（調査表1）に、筑前50件余、筑後30件余、豊前20件余を掲載した。窯業関係施設等の地名表（調査表2）は、参考事例として5件程載せたのみであった。それに参考文献一覧表を加えた。

この調査表1・2について、令和2年9月24日付2教文第1639号で「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」の文書を県内60の自治体に送付し、11月末を締切として加除修正を依頼した。各窯跡については、県内を筑前・筑後・豊前の旧国名毎に分け、筑前50件、筑後31件、豊前22件の合計103件を確認した。また近世窯業関係遺跡に関わる、陶土の採取地や陶磁生産の作業場所、販売・管理をする施設、神社・記念碑・墓地などを対象とした関係遺跡としては、筑前16件、筑後5件、豊前4件の合計25件を確認した。

その成果をもとに、令和3年1月19日に第1回の福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会（以下、委員会という）を開催する運びとなったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による非常事態宣言が発せられたこともあり、オンラインによる会議開催となった。委員長に大橋康二委員を選出し、福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針のもと調査を進めていくことやスケジュール等についての説明を行い、意見をいただいた。

令和3年度第2回委員会は東峰村で開催し、釜床1号（県指定）・2号窯跡、一本杉1号・2号（県指定）窯跡を視察した。委員会では新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出により、重点調査が遅れているため、スケジュールを1年延長（令和5年度まで）することと重点調査のリスト内容



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第5回近世窯業関係遺跡調査指導委員会

について了承を得た。また陶片だけではなく、窯道具の実態を調べる必要について、意見をいただいた。

令和4年度は委員会を2回開催した。第3回委員会は福智町で開催し、直方市永満寺宅間窯跡、福智町皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡を視察した。委員会では現地調査で位置が特定できない窯跡については、古地図等を確認するように指摘を受けた。また窯跡の時期については、文献等の記録と異なる場合があるので確認が必要との指摘を受けた。第4回委員会はみやま市で開催し、筑後市赤坂焼窯跡、みやま市二川焼窯跡を視察した。委員会ではできるだけ現地の窯の有無を確認するよう指摘を受け、令和5年度刊行の調査成果報告書についても指摘を受けた。

令和5年度は第5回委員会を須恵町で開催し、須恵町立歴史民俗資料館及び須恵町立美術センター久我記念館所蔵の須恵焼資料を実見した。委員会では報告書の内容について協議した。

委員会一覧

名 称	日 時	場 所
第1回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和3（2021）年1月19日	福岡県庁4階会議室（オンライン）
第2回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和3（2021）年12月3日	東峰村小石原廃舍第1会議室
第3回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和4（2022）年5月17日	福智町中央公民館2階研修室
第4回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和4（2022）年12月27日	みやま市まいびア高田第1会議室
第5回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和5（2023）年11月10日	須恵町アザレアホール会議室

c. 第二次調査（重点調査）

第一次調査を基に、福岡という地域の特質を示す遺跡と遺構の残りが極めて良く、保存して価値を伝えるのに適した遺跡という2つの選定基準に基づき、特に重点的に調査をしなければならない場所を24件選定した。その内訳は高取焼関係9件、上野焼関係3件、地域窯として筑前4件、筑後5件、豊前4件である。すでに発掘調査で遺跡の内容が明らかな遺跡については、重点調査から除外している。

重点調査では、遺跡の位置の特定・現状の把握・写真撮影等の記録の作成を行い、調査に当たっては原則として当該市町村の文化財担当者とともに現地確認を行った。重点調査は、第2回委員会時に調査候補リストを上げるために、4月の東峰村の小石原焼関係から着手した。まず県指定史跡である小石原窯跡群の金釜1号窯跡と一本杉2号窯跡の現況の確認と窯跡に隣接する天照太神宮から始めた。同年8月には、上野焼のある福智町の皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡の現況確認を行った。同年12月には東峰村で第2回委員会を開催し、そこで調査候補リスト25件について、委員会で了承を得て、1月には朝倉市淨満寺窯跡、野鳥窯跡、2月には香春町田香焼窯跡の調査を行った。令和4年度はさらに重点調査を進め、特に筑後地域で筑後市2件、八女市5件、みやま市1件、豊前地域でみやこ町2件、上毛町1件の調査を行った。これら地方窯以外にも小石原焼関連で東峰村7件も調査を行った。令和5年度は報告書を作成する過程で、委員会時に指摘された瓦窯の調査として東峰村の奥畠瓦窯跡、嘉麻市から新たに情報提供のあった野口窯跡と事務局で必要と判断した福岡市の野間焼窯跡と関連遺構、大牟田市の黒崎焼窯跡、須恵町の役所新窯跡と昨年度確認できなかったみやこ町の乙子焼窯跡を追加調査した。

d. 調査経過一覧

令和3～5年度の3年間の調査経過について、前述したことも含めて列記する。

令和3年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月13日	朝倉郡東峰村	釜床1号窯跡 天照太神宮 小石原伝統産業館	窯跡と関連遺跡の確認 小石原焼の展示観察
4月23日	朝倉郡東峰村	一本杉窯跡 十文字窯跡	十文字窯跡のみ窯跡未確認
8月5日	田川郡福智町	釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 岩屋高麗窯跡	岩屋高麗窯跡のみ窯跡未確認
12月3日	朝倉郡東峰村	釜床1号窯跡 天照太神宮 一本杉窯跡 陶神(石碑)など	第2回委員会時の視察
1月28日	朝倉市	淨満寺窯跡 野鳥窯跡	野鳥窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集
2月25日	田川郡香春町	田香焼窯跡 陶工の墓 香春町歴史資料館	窯跡と関連遺跡の確認

令和4年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月8日	筑後市	赤坂焼窯跡 赤坂神社 坂東寺焼窯跡	坂東寺焼窯跡のみ未確認だが、石碑を確認
4月22日	朝倉郡東峰村	釜床2号窯跡 中野上の原窯跡 火口谷1号窯跡	釜床2号窯跡の場所と高取八山夫妻の墓を確認
4月27日	八女市	星野十龍焼窯跡 鹿子生焼窯跡 池の本焼窯跡	星野十龍窯跡の場所と鹿子生焼窯跡の消滅を確認 池の本焼窯跡のみ未確認
5月17日	田川郡福智町	釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 永満寺宅間窯跡 岩屋高麗窯跡	第3回委員会時の視察
5月27日	朝倉郡東峰村	池の窯跡 大明神窯跡 旧上組・旧下組窯跡	大明神窯跡と旧上組・旧下組窯跡は未確認
6月9日	京都郡みやこ町	乙子焼窯跡 錦原皿山窯跡	窯跡未確認
6月15日	八女市	本星野焼窯跡 釧形焼窯跡 (再調査) 池の本焼窯跡	窯跡の確認
7月1日	朝倉郡東峰村	(再調査) 大明神窯跡 旧上組・旧下組窯跡	大明神窯跡のみ未確認
12月4日	みやま市	二川焼窯跡【富重窯・角窯】	窯跡の確認
12月14日	嘉麻市	黒田窯跡	窯跡の確認
12月27日	みやま市	二川焼窯跡【富重窯・角窯】	第4回委員会時の視察
2月14日	朝倉郡東峰村	金敷様裏窯跡	3号窯跡のみ確認し、1・2号窯跡は未確認
2月20日	築上郡上毛町	唐原焼窯跡	窯跡の確認
3月17日	みやま市	(再調査) 二川焼窯跡【角窯】	窯跡の確認

令和5年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月12日	朝倉郡東峰村	奥畠瓦窯跡	窯跡の確認
4月21日	嘉麻市	黒田窯跡 野口窯跡	野口窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集
5月2日	福岡市 糟屋郡須恵町	野間焼窯跡 山王神社 陶工の墓 役所畑新窯跡	窯跡と関連遺跡の確認
6月14日	京都郡みやこ町	乙子焼窯跡	窯跡の確認
8月17日	大牟田市	黒崎焼窯跡	窯跡の確認
11月10日	糟屋郡須恵町	須恵焼窯跡【福岡藩御用窯跡】 役所畑新窯跡	第5回委員会時の視察
11月29日	八女市	男ノ子焼窯跡	窯跡の確認

3. 調査の組織

福岡県窯業関係遺跡調査指導委員会では委員を3人に委嘱した。また、4か年の窯業遺跡に関する調査において、市町村の文化財担当者のみならず、関係諸機関、土地所有者など実に多くの方々に御協力・御支援をいただいた。関係者を含めて下記に列記し、深く感謝いたします。

○福岡県窯業関係遺跡調査指導委員会

委員長：大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館名譽顧問）

委 員：辻田淳一郎（九州大学大学院人文科学研究院准教授）

宮地英敏（九州大学附属図書館記録資料館准教授）

〔事務局〕

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
〔福岡県教育委員会〕				
教育長	城戸秀明	吉田法稔	吉田法稔	吉田法稔
副教育長	木原 茂	寺崎雅巳	上田哲子	上田哲子
教育監	寺崎雅巳	合屋伸一	深瀬信也	山本博康
教育総務部長	上田哲子	上田哲子	松永一雄	松永一雄
文化財保護課長	綾部耕士	明永好弘	明永好弘	比山裕隆
同 参事			田上 稔	
同 参事兼課長技術補佐	田上 稔	田上 稔		杉原敏之
同 課長技術補佐			杉原敏之	（古跡調査・文化財収集）
同 企画・埋蔵文化財係長	杉原敏之	杉原敏之		大庭孝夫
同 企画・埋蔵文化財係	宮地聰一郎	宮地聰一郎	大庭孝夫	岡田 諭
	大庭孝夫	大庭孝夫	城門義廣	城門義廣
	城門義廣	城門義廣	出見優人	出見優人
〔九州歴史資料館〕				
館長	吉田法稔	城戸秀明	城戸秀明	城戸秀明
副館長	安永千里	安永千里	吉村靖徳	吉村靖徳
学芸調査室学芸研究班		酒井芳司	酒井芳司	酒井芳司
		遠藤啓介	遠藤啓介	遠藤啓介
文化財調査室長	吉村靖徳			
埋蔵文化財調査室長		吉村靖徳		吉田東明
文化財調査室長補佐	伊崎俊秋			
同 文化財調査班長	森井啓次	森井啓次	森井啓次	進村真之
同 文化財調査班		小川泰樹	小川泰樹	岸本 主
	坂本真一	坂本真一	坂本真一	坂本真一

現地調査その他でお世話になった方々（敬称略：順不同）

中島主（朝倉市教育委員会）、嶋田光一（飯塚市教育委員会）、大津諒太（うきは市教育委員会）、中村涉・宮本博喜・前崎智行（大牟田市）、朝原泰介（岡垣町教育委員会）、尾方楨莉・舌間悟（嘉麻市教育委員会）、野村憲一・石嵩伸（香春町教育委員会）、福永将大（九州大学総合研究博物館）、水原道範・小澤太郎（久留米市）、矢野和昭（上毛町教育委員会）、山下啓之（須恵町教育委員会）、日高正幸（元東峰村教育委員会）、内野嗣昭（東峰村教育委員会）、太田富隆、高取焼宗家、高取八仙、柳瀬眞一、田村悟（直方市教育委員会）、佐々木四十臣・佐藤好英（福岡県文化財保護指導委員会）田上勇一郎（福岡市）、井上勇也・小池史哲（福智町教育委員会）、木村達美・中尾克則（みやこ町教育委員会）、猿渡真弓・瓜生建（みやま市教育委員会）、角弘恵、伊崎俊秋（八女市岩戸山歴史文化交流館）、埴佳克・江頭俊介（八女市教育委員会）、谷川雅啓、平岡邦幸

II 福岡県の近世窯業遺跡に関する調査

1. 福岡県の近世窯業の概要

福岡県は明治9年(1876)に筑前国・筑後国・豊前国6郡をもって成立した。この三国には、それぞれ藩によって経営された、あるいは藩への献上品を焼いた窯がある。筑前福岡藩の高取焼、豊前小倉藩の上野焼、筑後久留米藩の坂東寺焼等、筑後柳河藩の蒲池焼が該当する。以下に旧国単位で近世窯業を概観する。

日本の近世窯業の発端は、文禄・慶長の役によってもたらされた陶工の技術にある。本県では筑前の高取焼と豊前の上野焼がそれに該当し、文献上で高取焼が八山、上野焼が尊楷の手によるものとされる。高取焼については、永満寺宅間窯に始まり、内ヶ磯窯で本格的な操業が行われる。八山が帰國を願い出たことにより、藩主から蟄居を命ぜられ山田窯に移るが、その後、許しを得て白旗山窯で生産を行う。後に、窯を小石原駅の釜床窯に移し、更には現在の福岡市へ移し大鋸谷窯、東皿山窯で幕末の廃藩置県まで操業を続ける。これら高取焼は陶器を焼くものであったが、白旗山窯では試験的に磁器焼成がなされている。なお、永満寺宅間窯に近い黎明期のものとして上畠窯・千石窯が挙げられるが、操業期間は短期間の可能性が高い。

筑前秋月藩では18世紀以降に城下の淨満寺窯・野鳥窯で陶器生産が行われた。

筑前の民窯としては、高取家中から小石原地区で主に日用品を焼く系譜が成立し、この延長に現在の小石原焼がある。一番古く位置付けられるのが一本杉窯であり、その後、中野上の原窯、火口谷窯、金敷様裏窯へと続く。大分県日田市の小鹿田焼もまた18世紀初頭に小石原から技術が伝えられたものである。中野上の原窯では肥前陶工を招き、磁器生産に着手するが、材料の問題で生産は続かなかった。その後の筑前における磁器生産は、須恵焼窯で宝曆年間に本格的な窯が築かれ、以後藩窯と民窯を繰り返し変遷しながら、かなりの生産量を誇ったとみられる。

筑前の福岡地区にも18世紀以降に高取焼の流れを汲む西皿山窯のほか、能古焼や野間焼等の民窯が営まれた。また、遠賀川上流域の嘉穂地域にも黒田焼等の民窯が複数営まれた。

豊前上野焼が本格的に焼かれた最初の窯は釜ノ口窯である。開窯年代は明らかでないが、細川氏が小倉城に入城した慶長8年(1603)以降とされる。釜ノ口窯は細川氏の肥後転封により閉窯したとされ、その後は皿山本窯に移り、小笠原氏の下、幕末の廃藩置県までの長期に渡り操業された。小倉藩のお業

しみ窯として小倉城下に菜園場窯が営まれた。上野焼の陶工は田香焼等の多くの民窯に移った記録が残されている。

豊前豊津地域にも乙子焼窯・錦原皿山窯等がみられるが、藩の獎勵策に基づくものと考えられる。

筑後国では田中吉政が入国後、蒲池焼を開かせたと伝えられる。元和6年（1620）の田中家改易後、柳河藩は立花宗茂が復帰、久留米藩には有馬豊氏が転封される。久留米藩は坂東寺焼を開窯した。久留米藩のお楽しみ窯としては、柳原焼と東野亭焼がある。18世紀前半には朝妻窯で磁器が本格的に焼かれるようになった。19世紀になると陶器生産は赤坂焼を中心としたようである。

筑後の特色として、茶の生産との関係で茶壺が多く焼かれた点が挙げられる。寛永9年（1632）や正保4年（1647）の記録に「黒木の焼き物」とあり、积水焼の可能性がある。矢部川を境として北は久留米藩、南は柳河藩に分かれると、八女地域の山中では本星野焼・星野焼・男ノ子焼等、茶の貯蔵器を中心に陶器生産が継続された。

また筑後地域では、肥前陶工により始められた二川焼、磁器・陶器の両者を焼いた一の瀬焼・黒崎焼等、民窯も多く営まれた。

県内の近世窯業は廢藩置県により藩の支援が失われた段階で、廃窯に追い込まれたものが多い。しかし、休止期間をおかず再興された地区も少なくない。特に大正～昭和期に展開した柳宗悦らによる民藝運動によって小石原焼や二川焼が注目されるようになり、多くの人々の関心を得こととなったことは有名である。小石原焼と上野焼は、前者は昭和50年（1975）、後者は昭和58年（1983）に経済産業大臣による伝統的工芸品の指定を受け、福岡県を代表する焼物と位置付けられている。

2. 福岡県の近世陶磁の把握

福岡県内の焼物や窯跡についてどのように把握されていたか、数多くの文献の中で『陶器講座』所収「日本諸古窯一覧」・『原色陶器大辞典』・『福岡県百科事典』及び『近世窯業遺跡データ集成』の4件について見ると、かなり多くの事例のあることがわかる。なかには鹿原を鹿原と間違えているものや、誤植・誤認のいずれとも不明の焼物名・窯名も見られ、現時点で確認できないものも幾つかある。しかしながら、今回の悉皆調査の調査表は、これらを参考にして作成した（市町村名は当時のまま記載）。

『日本諸古窯一覧』（『陶器講座』第7巻）（横河民輔；1935年12月：雄山閣）

筑前：石崎焼（筑前）、内ヶ磯窯（筑前内ヶ磯）、糟尾焼（筑前）、小石原焼（筑前小石原）、鹿原焼（筑前鹿原）、白旗山焼（筑前合屋）、須恵焼（筑前須恵）、宗七焼（筑前博多）、高取焼（筑前高取）、中野焼（筑前）、西皿山焼（筑前西新町）、野間焼（筑前野間）、博多瓦町窯（筑前博多）、東山窯（筑前）

筑後：赤石焼（筑後）、朝妻焼（筑後朝妻）、蔵敷焼（筑後）、久留米焼（筑後）、二川焼（筑後波瀬）、星野焼（筑後久留米）、水田焼（筑後）、柳川焼（筑後柳川）、柳原焼（筑後久留米）

豊前：上野焼（豊前上野）、鷹狩焼（豊前）、常山焼（豊前）、太郎助焼（豊前）、田香焼（豊前）、水町焼（豊前）

『原色陶器大辞典』（加藤藤九郎編；1972年10月：淡交社）

筑前：内ヶ磯窯・永満寺窯（直方市）、折尾窯（北九州市）、小石原焼〔中野焼〕・鼓村窯（小石原村）、鶴谷焼・鹿原窯・宗七焼〔博多焼〕・茶屋の山窯・西新町窯・西皿山窯・残島高取・野間焼・博多人形・東皿山・（福岡市）、白旗山窯（飯塚市）、須恵焼（須恵町）、高取焼、遠州高取、遠州七

窯、古高取、高取腰蓑、高取大海、高取松風・高取耳付、高取面茶碗、博多文琳、五十嵐次左衛門・新九郎・高取善十郎・八藏〔八山〕〔高取焼陶工〕、岡平藏〔博多人形陶工〕、新藤安平〔須恵焼〕
筑後：青木窯・朝妻焼・久留米焼・十三部焼・野中窯・日渡窯・柳原焼〔久留米市〕、赤坂窯・野町窯・坂東寺焼・水田窯〔筑後市〕、朝田窯〔浮羽町〕、今村窯・長岡窯〔鹿子生焼〕・积形焼〔黒木町〕、蒲池焼〔柳川市〕、黒崎焼〔大牟田市〕、姥ヶ懐窯・二川焼〔高田町〕、星野焼〔星野村〕、家長彦三郎〔柳川焼陶工〕、中尾米吉〔二川焼陶工〕

豊前：上野焼〔赤池町〕、香春窯〔香春町〕、(鳩軒)、小倉焼・水町焼〔北九州市〕、太郎介焼・田香焼〔大任町〕、豊前焼・上野喜蔵・十時甫快・十時甫紹・十時孫左衛門・渡久左衛門〔上野焼陶工〕

上記のほかに、小林賢一郎・黒田政憲・牟田久次・立花実山〔南方録〕といった福岡県の出身者もしくは所縁のある人などもみられる。

『福岡県百科事典』(1982年11月：西日本新聞社)

筑前：内ヶ磯窯跡〔直方市〕、小石原焼〔朝倉郡小石原村〕、須恵焼〔糟屋郡須恵町〕、千石焼〔鞍手郡宮田町〕、宗七焼〔福岡市博多区〕、高取焼・津屋崎人形〔宗像郡津屋崎町〕、博多人形〔福岡市博多〕、野間焼〔福岡市南区〕。なお、高取焼についてはその解説の中で上畠窯跡〔遠賀郡岡垣町〕、永満寺宅間窯跡〔直方市〕、内ヶ磯窯跡〔直方市〕、山田窯跡〔山田市〕、白旗山窯跡〔飯塚市〕、小石原鼓窯跡・小石原中野窯跡〔朝倉郡小石原村〕、大鍋谷窯跡〔早良郡田嶋村〕、龜原窯跡〔早良郡龜原村〕に触れられている。

筑後：赤坂人形〔筑後市〕、赤坂焼〔筑後市赤坂〕、朝田焼〔浮羽郡浮羽町〕、朝妻焼〔久留米市〕、一ノ瀬焼〔浮羽郡浮羽町〕、蒲池焼〔柳川市〕、坂東寺焼〔筑後市〕、二川焼〔三池郡高田町〕、星野焼〔八女郡星野村〕、水田焼〔筑後市〕、柳原焼〔久留米市〕

豊前：上野焼〔田川郡赤池町〕、豊前焼

これ以外にも、上野喜蔵や高取八藏・小島与一・中ノ子タミなどの個人及び窯道具・陶土・登窯といった用語についても取り上げられている。

『近世窯業遺跡データ集成』[福岡県] (1997年3月：国立歴史民俗博物館研究報告第73集)

(福岡県の地名表は副島邦弘が作成)

筑前：能古窯・西皿山窯・東皿山窯・今川高取窯・大鍋谷窯・宗七窯・野間窯・友泉亭窯〔福岡市〕、須恵窯〔須恵町〕、上畠窯〔岡垣町〕、犬鳴窯・朝谷窯〔若宮町〕、千石窯〔宮田町〕、白旗山窯〔飯塚市〕、内ヶ磯窯・永満寺宅間窯〔直方市〕、山田窯〔山田市〕、淨満寺窯・野鳥窯〔甘木市〕、小石原中野窯・鼓窯〔小石原村〕

筑後：柳原窯・朝妻窯・東野亭窯〔久留米市〕、田川窯〔三瀬町〕、坂東寺窯・赤坂〔三原〕窯・水田窯・野町窯〔筑後市〕、蒲池〔柳河〕窯〔柳川市〕、男ノ子窯〔立花町〕、黒崎窯〔大牟田市〕、二川窯〔高田町〕、今村窯・鹿子生窯・积形窯〔黒木町〕、星野〔十籠〕窯〔星野村〕、朝田〔一の瀬〕窯〔浮羽町〕

豊前：菜園場窯〔北九州市〕、釜ノ口窯・皿山本窯〔赤池町〕、岩谷高麗窯〔方城町〕、田香窯〔香春町〕、田香窯〔大任町〕

なお、『角川日本地名大辞典 40 福岡県』(1988年3月：角川書店)には、皿山の地名として福岡市南区があり、ほかに皿山公園〔須恵町〕・皿山町〔北九州市小倉北区〕が示され、また各地の地域産業

として次のようなことが掲載されている。

筑前：福岡市早良区の「御国焼と高取焼」に大鋸谷・鹿原東皿山窯・西皿山窯

直方市の「芸能と文化」の項に高取焼の窯跡

小石原村の「小石原焼の生産」

須恵町の「皿山焼」

筑後：筑後の「水田焼・坂東寺焼・赤坂焼」

星野村の「茶・金山・星野焼」

豊前：赤池町の「細川氏と上野焼」

大任町の「田香焼」

3. 福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査

a. 埋蔵文化財の把握

福岡県では、昭和 51 ~ 55 年度（1976 年 4 月 ~ 1981 年 3 月）に『福岡県遺跡等分布地図』16 冊を刊行した。それは北九州市・福岡市の両政令市を除く地域について、当時の福岡県教育庁の 16 か所の教育出張所の管轄範囲ごとに取りまとめたものであり、この時にリストアップされた遺跡数は、一部に天然記念物や社寺等を含む 17,169 か所であった。

遺跡の把握は埋蔵文化財の保護の基本であり、各地方自治体の根幹である市町村が主体となって、その後も銳意遺跡の把握に努めており、当然のことながら遺跡数は増加傾向にある。これらの遺跡数は、その大半が中世までの遺跡であり、近世、近代の遺跡は少ないものの、最近は少しずつ増加している。

現時点で福岡県の近世、近代の窯業関係遺跡として遺跡地図に掲載されている箇所（周知の埋蔵文化財包蔵地）は下記のとおりである。

筑前

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
直方市	永満寺宅間窯跡	県番号 050117 「高取焼窯跡（宅間窯）」 市番号 94 「永満寺宅間窯跡」
直方市	内ヶ磯窯跡	県番号 050118 「高取焼窯跡（内ヶ磯窯跡）」 市番号 55 「内ヶ磯窯跡」
遠賀郡岡垣町	上畠窯跡	県番号 390163 「上畠窯跡」 町番号 390163 「上畠窯跡」
宮若市	千石窯跡	県番号 410348 「千石窯跡」
宮若市	犬鳴窯跡	県番号 440255 「犬鳴窯跡」
飯塚市	白旗山窯跡	県番号 070335 「高取焼白旗窯跡」 市番号 414 「白旗山窯跡」 丘陵先端に 3 基
飯塚市	高取八山窯跡	市番号 431 「高取八山窯跡」 [消滅]
嘉麻市	山田窯跡	県番号 090013 「古高取山田窯跡」 市番号 2078 「古高取山田窯跡」 ※昭和 10 (1935) 年に一部、発掘。現在、ボタ山の下に埋没
嘉麻市	猪之鼻窯跡	市番号 2076 「猪之鼻窯跡」
嘉麻市	大庭夫婦の墓	県番号 090014 「大庭源太夫、夫婦の墓」

嘉麻市	黒田窯跡	市番号 2036
嘉麻市	野口窯跡	市番号 2169
糟屋郡須恵町	福岡藩磁器御用窯跡	町番号 290154
糟屋郡須恵町	役所烟新窯跡	町番号 290161
朝倉郡東峰村	皿山古窯跡	県番号 550015「皿山古窯跡」
朝倉郡東峰村	奥畠瓦古窯跡	県番号 550015「皿山古窯跡」 村番号 15 「奥畠瓦古窯跡」
朝倉郡東峰村	一本杉古窯跡	1号県番号 550061 村番号 44 2号県番号 550062 村番号 45
朝倉郡東峰村	十文字古窯跡	県番号 550058 村番号 46
朝倉郡東峰村	金敷様裏古窯跡	1号県番号 550058 村番号 54 2号県番号 550059 村番号 55 3号県番号 550060 村番号 56
朝倉郡東峰村	旧下組古窯跡	県番号 550055 村番号 59 [昭和32年頃まで操業した共同窯]
朝倉郡東峰村	大明神古窯跡	県番号 550056 村番号 68 [19世紀代と推定される窯]
朝倉郡東峰村	池ノ谷古窯跡	村番号 72
朝倉郡東峰村	旧上組古窯跡	県番号 550057 村番号 73
朝倉郡東峰村	火口谷古窯跡	1号県番号 550053 村番号 77 2号県番号 550054 村番号 78
朝倉郡東峰村	中野上の原古窯跡	県番号 550052 村番号 80
朝倉郡東峰村	釜床古窯跡	1号県番号 550050 村番号 95 2号県番号 550051 村番号 96
朝倉郡東峰村	採土場跡	村番号 42 ※陶土を採掘時に出た石などを円墳状に盛ったもので8か所ほどある
朝倉郡東峰村	陶神	村番号 76 ※祭日は10月10日。自然石で高さ133cm、幅60cm、厚さ46cm。 小石原工芸館跡地にあり
朝倉郡東峰村	火の神様	村番号 84 [石祠に祀られる]
福岡市	今川高取窯跡	市番号 2146 解除

筑後

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
久留米市	朝妻焼窯跡	県番号 030253「朝妻焼窯跡」
うきは市	一ノ瀬焼窯跡	県番号 620024「一ノ瀬古窯跡」 市番号 076 「隈上・朝田原遺跡群」の中に「一ノ瀬窯跡」あり
八女市	男ノ子焼窯跡	県番号 720146「男ノ子焼窯跡」
柳川市	蒲池焼窯跡	県番号 080082「蒲池焼窯跡」
みやま市	姥ヶ懐窯跡	県番号 800001「姥ヶ懐窯跡」 市番号 0172「姥ヶ懐窯跡」 ※窯は現存せず
みやま市	二川焼窯跡	県番号 800005 ~ 800008「二川焼窯跡」 市番号 0148 ①~④「二川焼窯跡」(①②は消滅、③④は現存)
大牟田市	黒崎焼窯跡	市番号 452「黒崎窯跡」

豊前

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
田川郡福智町	上野皿山窯跡	県番号 890014 「上野皿山窯跡」
田川郡福智町	釜ノ口窯跡	県番号 890015 「釜の口窯跡」
田川郡福智町	岩屋高麗窯跡	県番号 840002 「岩屋高麗窯跡」
田川郡香春町	田香焼窯跡	町番号 225 「田香焼窯跡」
京都郡みやこ町	乙子焼窯跡	町番号 910226 「乙子焼窯跡」
京都郡みやこ町	錦原皿山窯跡	県番号追加 920140 「石走り南遺跡」 町番号 920112 「石走り南遺跡」 ※帝釈天山麓に所在。近世の操業免許の記録あり。遺物出土
北九州市	菜園場窯跡 (愛宕遺跡)	市番号 2023 「愛宕遺跡」

b. 埋蔵文化財としての近世窯跡の調査

近世の窯跡等の遺跡として、これまでに埋蔵文化財としての調査対象となった事例は下記のとおりである。なお、明治・大正・昭和 20 年までの戦前期のみならず、文化財保護法が施行された昭和 25 年以降においても資料採集などの目的で個人的に調査された事例や発掘は無数にあったと思われるが、それらに関しては十分な把握はできていない。

筑前

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
内ヶ磯窯跡	直方市	〈第1次〉 1979年9月17日～12月6日 〈第2次〉 1980年9月10日～11月20日 〈第3次〉 1981年5月19日～6月23日 〈第4次〉 1995年8月24日～10月30日 〈第5次〉 1997年2月～3月31日 〈第6次〉 1997年5月6日～10月18日 〈第7次〉 1998年5月12日～1999年3月19日 〈第8次〉 1999年6月18日～2000年3月13日	直方市教育委員会 福岡県教育委員会
永満寺宅間窯跡	直方市	1982年11月15日～12月11日	直方市教育委員会
犬鳴窯跡	宮若市	〔1号窯〕〈第1次〉 1986年9月30日～11月15日 〈第2次〉 1987年4月14日～5月19日 〔2号窯〕 1987年5月7日	福岡県教育委員会
中野上の原窯跡	朝倉郡東峰村	〈第1次〉 1987年6月15日～7月18日 〈第2次〉 1989年9月22日～12月12日	小石原村教育委員会
白旗山窯跡	飯塚市	〔1号窯〕 1987年8月1日～9月2日 1990年1月10日～3月22日 〔2号窯〕 1988年8月1日～9月9日 1990年1月10日～3月22日 〔3号窯〕 1988年8月1日～9月9日	飯塚市教育委員会
火口谷窯跡	朝倉郡東峰村	〔1号窯〕〈試掘〉 1988年9月5日～10月1日 〈第1次〉 1993年8月2日～12月21日 〔2号窯〕 1995年9月20日～11月30日	小石原村教育委員会
能古焼窯跡	福岡市西区	1988年10月24日～12月2日	九州大学

釜床1号窯跡	朝倉郡東峰村	〈試掘〉1990年12月14日～1991年2月2日 〈第1次〉1991年9月1日～10月14日	小石原村教育委員会
金敷様裏3号窯跡	朝倉郡東峰村	1992年10月20日～11月27日	小石原村教育委員会
一本杉窯跡	朝倉郡東峰村	[1号窯] 1992年10月20日～11月27日 [2号窯] 1994年9月6日～12月19日	小石原村教育委員会
上畠窯跡	遠賀郡岡垣町	1994年1月8日～2月5日	岡垣町教育委員会
千石窯跡	宮若市	1994年11月24日～12月28日	宮田町教育委員会
西皿山窯跡	福岡市早良区	2005年2月17日～2005年5月17日	福岡市教育委員会
須恵燒窯 〔福岡藩器御用窯跡〕	糟屋郡須恵町	〈第1次〉2006年12月1日～2007年3月30日 〈第2次〉2007年12月4日～2008年3月31日 〈第3次〉2008年4月22日～2009年3月31日 〈第4次〉2009年7月1日～2010年3月31日	須恵町教育委員会

筑後

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
朝妻燒窯跡	久留米市	〈第1次〉1992年1月下旬～3月 〈第2次〉2015年2月12日～3月31日	久留米市教育委員会
東野爭燒窯	久留米市	1998年10月14日～12月28日	久留米市教育委員会

豊前

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
釜ノ口窯跡	田川郡福智町	1955年5月6日～5月15日	日本陶磁協会
菜園場窯跡	北九州市小倉北区	1982年12月9日～1983年9月30日	北九州市教育文化事業団

4. 近世窯業遺跡の史跡指定等

a. 福岡県内の事例

福岡県においてこれまでに、近世の窯跡等の遺跡として史跡等に指定されている事例は次のとおりである。

(福岡県) 市町村指定史跡

窯跡名	所在地	指定日
唐原焼窯跡	築上郡上毛町	昭和49年(1974)11月25日
田香焼窯跡	田川郡大任町	昭和51年(1976)10月1日
永満寺宅間窯跡	直方市	昭和63年(1988)3月15日
能古焼古窯跡	福岡市	平成2年(1990)3月29日

福岡県指定史跡

窯跡名	所在地	指定日
福岡藩器御用窯跡	糟屋郡須恵町	昭和55年(1980)3月1日
小石原窯跡群 釜床1号窯跡 一本杉2号窯跡	朝倉郡東峰村	平成8年(1996)5月31日

福岡県指定有形文化財（考古資料）

窯跡名	所在地	指定日
菜園場窯跡 附 出土遺物	北九州市	昭和 62 年（1987）5 月 9 日

b. 全国の事例

文化庁国指定文化財等データベースに拠ると、安土桃山時代末期から江戸時代に及ぶ窯跡等の国指定史跡の事例は次のとおりである。

窯跡名	所在地	指定日
肥前陶器窯跡	佐賀県唐津市・武雄市・多久市	昭和 15 年（1940）2 月 10 日 / 追加 平成 17 年（2005）7 月 14 日
備前陶器窯跡 伊部南大窯跡 伊部西大窯跡 伊部北大窯跡 医王山窯跡	岡山県備前市	昭和 34 年（1959）5 月 13 日 / 追加 平成 21 年（2009）2 月 12 日
元屋敷陶器窯跡	岐阜県土岐市	昭和 42 年（1967）12 月 11 日
瀬戸窯跡 小長曾陶器窯跡 瓶子陶器窯跡	愛知県瀬戸市	昭和 46 年（1971）7 月 13 日 / 追加 平成 27 年（2015）10 月 7 日
九谷磁器窯跡	石川県加賀市	昭和 54 年（1979）10 月 23 日 / 追加 平成 17 年（2005）3 月 2 日 / 追加 平成 18 年（2006）7 月 28 日
肥前磁器窯跡 天狗谷窯跡 山辺田窯跡 原明窯跡 百間窯跡 泉山磁石場跡 不動山窯跡	佐賀県西松浦郡有田町 武雄市・嬉野市	昭和 55 年（1980）3 月 24 日 / 追加 昭和 56 年（1981）2 月 25 日
柿右衛門窯跡	佐賀県西松浦郡有田町	平成元年（1989）9 月 22 日
肥前波佐見陶磁器窯跡	長崎県東彼杵郡波佐見町	平成 12 年（2000）9 月 6 日
大川内鍋島窯跡	佐賀県伊万里市	平成 15 年（2003）9 月 16 日

5. 皿山の地名

福岡県においては焼物が作られていた所を皿山と称する事例が多数存在する。

皿山の地名については、「『皿山』という言い方は肥前有田系統の窯で使われる」（須恵町 2003・大橋 2010）とされている。福岡県内（筑前・筑後・豊前）の皿山地名が全て肥前の影響下に生じたものか否かは俄かに判断できないが、窯や焼物がある所の多くが、下記に示すように皿山と称されていたことは間違いないといえる。

江戸期の事例として、明和4年（1767）11月の『近国焼物大概帳』には「筑前領焼物山三ヶ所」として、須恵皿山・西町皿山・山口皿山が示されているという（須恵町 2003）。

また、寛政8年（1796）9月の『近国焼物山大概書上帳』（肥後天草の庄屋・上田家に伝わる文書）で、「柳川領皿山之分」として黒崎皿山・星野皿山、「筑前領皿山之分」として須恵皿山・西町皿山、「豊前領皿山之分」として天野皿山・藤原皿山・添田皿山・今藤皿山・漆尾皿山・清水皿山・小石原皿山が挙げられている。なお、豊前の天野は上野、藤原は道（堂）原【どうばる】、今藤の今任とともに田香焼、漆尾は漆生で、上黒田の漆生を指すか。漆生と小石原は筑前だが、豊前の項に記されている。

【福岡県の皿山地名】

現時点での以下の場所が把握される。

所在地	窯名
福岡市南区皿山1～4丁目	野間焼窯
福岡市早良区西新5丁目	東皿山窯
福岡市早良区高取1～2丁目 西皿山	西皿山窯
糟屋郡須恵町上須恵 皿山	須恵焼窯
朝倉郡東峰村大字小石原字中野 皿山	小石原焼
宮若市大字宮田 千石皿山（宮田町 1995）	千石窯
宮若市山口 皿山（若宮町誌 2005）	浅ヶ谷窯
宮若市犬鳴 皿山（若宮町誌 2005）	犬鳴窯
飯塚市野間の高宮西側の小谷の通称（中山 1915.6）	白旗山窯
久留米市合川町隈山 皿山（水原 1992）	朝妻焼窯
久留米市城南町十三部 皿山	柳原焼窯？
八女郡広川町大字広川 皿山（佐々木 2006）	川瀬焼窯
八女市萩尾字池ノ窪 皿山（佐々木 2006）	糸形焼窯？
八女市黒木町鹿子生谷 皿山（浅野 1935）	鹿子生焼窯
大牟田市岬 黒崎皿山	黒崎焼窯
北九州市小倉北区皿山町	小倉清水焼窯？
北九州市小倉北区木町皿山	高保窯

田川郡福智町上野　皿山	上野焼
田川郡大任町今任原　皿山	今任田香焼窯
田川郡香春町高野 → 昔、皿山と言っていた	高野田香焼窯
築上郡上毛町上唐原　皿山	唐原焼窯
嘉麻市上黒田　漆生皿山	黒田窯
嘉麻市上山田　皿山	猪之鼻窯跡
田川郡添田町　添田皿山	不明
京都郡みやこ町豊津　錦原皿山	錦原皿山窯

※その他に、「甕焼山」「巣焼平」などの地名がある。

「甕焼山」は釧形焼窯跡の原料の白土を採集した山を指す。また、「甕焼殿」の墓などもある。

「巣焼平」については、八女市星野村の地名にあり、「巣焼」は「素焼」の転化した地名である。

男ノ子焼窯跡の推定地では「窯所」、周辺には「甕(瓶)焼・亀(窯)床・白岩・砥石場・崩窟(くえがま)・二竈(ふたかま)」などの小字名がある。

III 福岡県近世窯業関係遺跡調査

1. 第一次調査（悉皆調査）

まず事務局において、県内の近世窯業遺跡に関する基礎的な情報を集めるために、p8に先に記した文献以外にも巻末に掲載した参考文献より調査表を作成した。

調査表1は名称、読み、市町村名、所在地、現況（調査表記載時の現在の状況を記載する。例：現地保存、荒地・宅地・畠地など）、旧藩名（福岡藩・秋月藩・久留米藩・柳河藩・三池藩・小倉藩・豊津藩・中津藩など）、経営（藩によるものを藩窯、それ以外を民窯）、調査歴（発掘調査などが行われた年月日）、焼物名、製品（窯跡の出土遺物や表採遺物の器種名）、窯の状況（調査時や表面観察による窯本体の状況）、規模・傾斜角度（窯の計測値）、推定年代（出土遺物等による窯のおおよその操業年代）、備考（窯の特色や史料等による時代背景、窯に関する事柄等を記載する）、参考文献の15項目に設定した。地域は筑前、筑後、豊前の旧国に大別し、対象時代は江戸時代～明治4年（1871）の廢藩置県までを基本とするが、広く情報を集めるために昭和20年頃まで広げた。そのため、近世窯跡の表の後に、参考として明治時代～昭和時代にかけての窯業関係情報を記載している。

調査表2では、近世窯業遺跡に関わるもので、遺構などが現存又は地域の伝承により、現在もその場所が特定できるものを対象とした。以下、5つの種別について情報を収集した。

- 1 陶土の採取地・磁石場など原料の採集地や集積地
- 2 陶磁生産に関わる作業場所や碎石場・水碓小屋など、陶磁生産に関わる施設等
- 3 間屋跡・代官所・番所などの陶磁生産・販売・製陶管理などに係る施設
- 4 古陶磁生産に関連する神社・記念碑・墓地（墓碑）など
- 5 その他、上記以外の陶磁生産に関連する遺構・施設など

さらに表には、名称、読み、所在地、現況、種別、推定年代、備考の7項目に分け、ここでも調査表1と同様に旧国ごとに掲載した。

作成した調査表1と2は、県内60市町村に令和2年9月24日付「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」で照会し、令和2年11月30日付を締切として各物件の情報の確認を依頼した。照会で得られた情報を反映させ、令和3年1月19日開催の第1回福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会では「福岡県近世窯業関係遺跡調査表1（窯跡）、調査表2（関係遺構）」として、窯跡103件、関連遺跡25件を掲示した。

その後、報告書刊行に向けて最後の内容確認及び追補訂正について、令和5年9月13日付で各市町村へ再度照会を行い、各物件の情報の確認をお願いした。それらの情報を事務局で再整理し、窯跡106件、関係遺跡56件を把握した。

2. 第二次調査（重点調査）

第二次調査（重点調査）にあたり、(1)福岡という地域の特質を示す遺跡、(2)遺構の残りが極めて良く保存して価値を伝えるのに適した遺跡という二つの基準の下、調査指導委員会に諮り、対象とすべき窯跡25件を設定した。設定する上で、基本的に調査報告書が刊行されたものや所在不明なものについては除外した。調査では遺跡の位置の特定と現状の把握を行い、写真撮影等の記録作成を行った。

福岡県を代表する焼き物の窯跡として、高取焼の釜床1号窯跡、上野焼の釜ノ口窯跡、皿山本窯跡、岩屋高麗窯跡を調査した。

次に旧三国での地方窯として、筑前では小石原焼関連で一本杉窯跡、大明神窯跡、池の谷窯跡、金敷様裏窯跡、十文字窯跡、野間焼関連で福岡市南区にある野間焼窯跡、焼物名は不明であるが嘉麻市にある黒田窯跡を調査した。

筑後では軽形焼窯跡、鹿子生焼窯跡、池の本焼窯跡、文献史料に詳細に記述のあった筑後の赤坂焼窯跡、みやま市の二川焼窯跡、焼物名は不明であるが朝倉市にある淨満寺窯跡、野鳥窯跡も対象とした。なお、重点調査時に新たな情報を得た八女市本星野焼窯跡、星野十籠焼窯跡も追加調査した。

豊前では、調査報告書に遺物のみ掲載されたみやこ町乙子焼窯跡と上毛町の唐原焼窯跡、香春町教育委員会から情報のあった香春町田香焼窯跡を対象とした。

また、調査指導委員会において陶器・磁器窯跡以外の窯跡を調査対象とする必要があるとの指摘を受け、筑前で東峰村奥畑瓦窯跡、豊前でみやこ町の錦原皿山窯跡の瓦窯跡も追加した。

なお、報告書作成途中で嘉麻市野口窯跡、大牟田市黒崎焼窯跡、八女市男ノ子焼窯跡についての新しい情報を得たので、追加調査として令和5年度に調査を行った。最終的には28件を調査した。

3. 各遺跡の詳細

第二次調査（重点調査）の対象とした窯跡については、調査表と別にp48以降に掲載した。各窯跡については所在地、経営（藩又は民間）、焼物名、年代、現況、備考を列記し、当該窯跡の概要を記載した。また、位置図（国土地理院発行1/25,000地形図）、現況の写真、窯跡実測図、今回調査時に採集した遺物又は市町村所蔵の未報告資料の実測図（1/3又は1/4）を掲載した。実測図中の「陶」は陶器、「磁」は磁器であることを指す。それ以外のものは窯道具である。各窯跡の名称の横に付した番号は調査表1の番号に一致する。

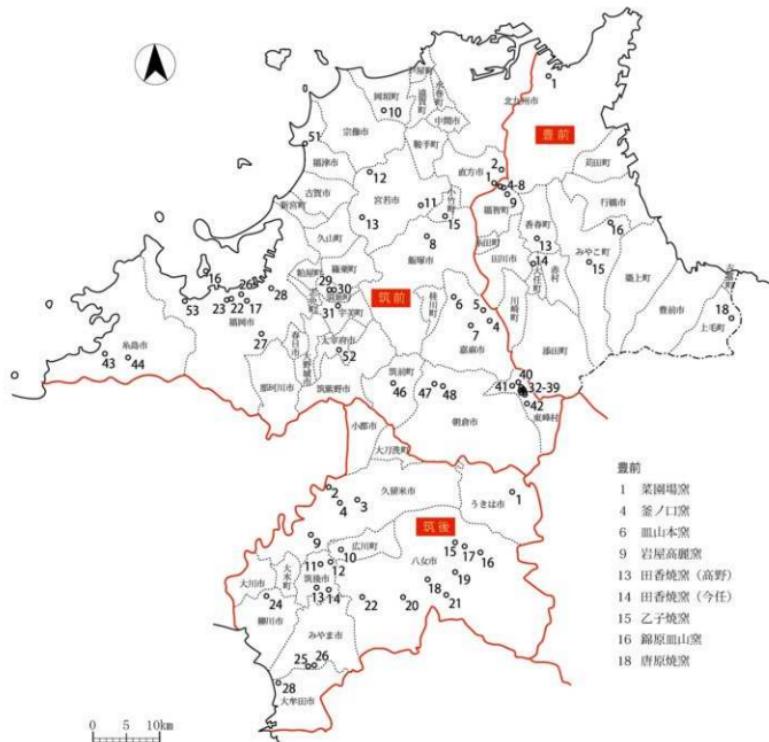
なお、第二次調査（重点調査）の対象以外にも、発掘調査による調査報告書が刊行されている窯跡について、数頁程に要約し掲載した。



第2回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



筑前

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 永満寺窯 | 17 大原谷窯 | 38 金数様裏窯 |
| 2 内ヶ磯窯 | 22 東皿山窯 | 39 一本杉窯 |
| 4 山田窯 | 23 西皿山窯 | 40 十文字窯 |
| 5 猪之鼻窯 | 26 今川高取窯 | 41 奥畠瓦窯 |
| 6 黒田窯 | 29 筋忠燒窯 | 42 笠床窯 |
| 7 野口窯 | 30 役所烟新窯 | 43 錦研窯 |
| 8 白鶴山窯 | 31 宇美障子岳窯 | 44 雷山窯 |
| 10 上畠窯 | 32 中野上の原窯 | 46 三並ヒエデ窯 |
| 11 千石窯 | 33 火口谷窯 | 47 沙満寺窯 |
| 12 渓ヶ谷窯 | 34 大明神窯 | 48 野鳥窯 |
| 13 犬鳴窯 | 35 旧下組窯 | 51 津屋崎人形 |
| 15 胜野峰烟窯 | 36 旧上組窯 | |
| 16 能古燒窯 | 37 池の谷窯 | |

筑後

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 一の瀬窯 | 18 今村燒窯 |
| 2 柳原燒窯 | 19 亂形燒窯 |
| 3 朝妻燒窯 | 20 鹿子生燒窯 |
| 4 東野亭燒窯 | 21 池の本燒窯 |
| 9 田川燒窯 | 22 男ノ子燒窯 |
| 10 川瀬燒窯 | 24 蒲池燒窯 |
| 11 坂東寺燒窯 | 25 二川燒窯 |
| 12 赤坂燒窯 | 26 バカツクラ窯 |
| 13 水田燒窯 | 27 黒崎燒窯 |
| 14 野町燒窯 | |
| 15 本尾野燒窯 | |
| 16 星野十龍燒窯 | |
| 17 田の原燒窯 | |

福岡県の近世窯業遺跡分布図

表1 福岡県近世窓業関係遺跡調査表 空跡

第1回		名稱	読み	市町村名	所在地	現況	旧藩名	経営	調査課題	特徴名
1	永満寺宅窓跡	えいまんじたくあと	直方市	直方市大字永満寺	山林 現地保存	福岡 藩窓?	福岡 藩	民衆	調査済み 1914 中山平次郎 直方市教育委員会 1982.1.15 ~ 12.11 (第2回)1983.2.15 ~ 1983.2.15 未記載	高取徳
2	内々窓跡	うちがそ	直方市	直方市大字穂野	水中保存	福岡 藩窓	福岡 藩	民衆	調査済み 1914 中山平次郎 直方市教育委員会 (第2回)1976.5.17 ~ 12.6 (第3回)1980.5.10 ~ 11.20 (第4回)1984.5.10 ~ 6.23 福岡市教育委員会 (第4回)1985.5.24 ~ 10.30 (第5回)1986.5.24 ~ 3.21 (第6回)1987.5.6 ~ 10.18 (第7回)1988.5.12 ~ 1988.3.19 (第8回)1989.6.18 ~ 2000.3.12	高取徳
3	山部窓	やまべ	直方市	直方市山形 多賀神社の西	未特定	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	
4	山田窓跡	やまだ	嘉麻市	嘉麻市上山田	山林 木9山	福岡 藩	福岡 藩	民衆	調査済み 1925 現内櫛次	高取徳
5	越ノ森窓跡	いののはな	嘉麻市	嘉麻市上山田	山林	福岡 藩	福岡 藩	民衆	調査済み 1967 福岡市教育委員会 1984.3 1985 再調査	高取徳 (上野系?)
6	星田窓跡	こうた	嘉麻市	嘉麻市上星田(生)	竹林	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	星田
7	野口窓跡	のぐち	嘉麻市	嘉麻市大野町	山林	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	上野系?
8	白旗山窓跡	しらはたやま	飯塚市	飯塚市中字野間	山林	福岡 藩	福岡 藩	民衆	調査済み 1914 中山平次郎 福岡市教育委員会 (弓削町) 1967.5.1 ~ 5.2 (2年期) 1988.5.1 ~ 5.9 (3年期)1990.1.10 ~ 3.22	高取徳 (遠州高取)
9	稻田窓跡	あいだ	飯塚市	飯塚市稻田	未特定	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	高取徳
10	上畠窓跡	じょうばた	岡垣町	遠賀郡岡垣町大字上畠字唐人山	果樹園	福岡 藩	福岡 藩	民衆	一期、調査 1982.8前 現内櫛次 1994.10~25 岡垣町教育委員会	高取徳
11	千石窓跡	せんごく	宮若市	宮若市宮川字唐人町(千石山)	浜崎	福岡 藩	福岡 藩	民衆	調査済み 福岡市教育委員会 1984.12.1 ~ 12.28	高取徳
12	浅ヶ谷(駿谷)窓跡	あさがたに	宮若市	宮若市山口字浅ヶ谷	山林 削除	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未記載	
13	大崎窓跡	いぬなき	宮若市	宮若市大字大崎字立山	水没	福岡 藩	福岡 藩	民衆	調査済み 1914 中山平次郎 福岡市教育委員会 (弓削町) (第1回)1988.9.30 ~ 11.15 (第2回)1987.4.14 ~ 5.19 (2年期)1987.5. ~ 7.	高取徳
14	上野窓		宮若市	宮若市宮田	未特定	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	
15	勝野峰窓跡	かつのみねはた	小竹町	小竹町大字勝野	消滅?	福岡 藩	福岡 藩	民衆	未調査	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

表1 福岡県近世窓業関係遺跡調査表 窓跡

	名稱	読み	市町村名	所在地	現況	旧屋名	経営	調査概要	地物名
26	今川萬取窓跡	いまがわのかと り	福岡市	福岡市中央区今川	宅地	福岡	民家	一般競争 福岡市都市整備委員会 1981.5.18～1981.6.2	
27	野間信窓跡	のま	福岡市	福岡市南区畠山2丁目	宅地 神社	福岡	(蔵家)～ 民家	未調査	野間信
	赤七信窓跡	あかし	福岡市	福岡市博多区祇園町	ビル	福岡	民家 (事務用 室)	未調査各部	赤(豊)七信 博多信
	博多 繁狭きもの	はかた すやきもの		福岡市博多区祇園町	ビル	福岡	民家	未調査	名無し
	博多 瓦	はかた かわら		福岡市博多区祇園町	ビル	福岡	民家 (事務用 室)	未調査	名無し
28	藤台信	はたい	福岡市	福岡市博多区祇園町	ビル	福岡	民家	一般競争 福岡市都市整備委員会 2017.5.5～ 2018.6.5 ※旧工場の周囲(営業部分)は隣地 のため未調査	藤台信
	博多人形	はかたにんぎょう	福岡市	福岡市博多区祇園町	ビル	福岡	民家	一般競争 福岡市都市整備委員会 2017.5.5～ 2018.6.5	当社戸屋に おいては特 定の名はない 。地上階は 事務室、 地下階は 作業場とある。 近代的には 「博多人形 作業場」から 「博多人形」 に改称。
29	西原信窓跡 〔西原信信御用窓跡〕	にしづかひはんじき こう	直原町	稚産郡直原町大字上須恵字東原(畠 山)	3基現地 保存	福岡	蔵家～ 民家	調査済 1980.12.1 落成歴推定 「西原信信御用窓跡」(西原信信御用窓 跡)として「新田舎台帳」「花立(花 鏡)1078.4.1」「和付鏡」「御酒御燈 利(2)」「御鏡(2)」(1982.4.1) / 「企劃案 付山口(企劃案付)」(企劃案付)調査 注記 1980.7.19	直原信 〔西原信〕

表1 福岡県近世窓業関係遺跡調査表 窓跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現状	旧番号	経営	調査履	機物名
30 我所田新窓跡	やくしょばた	糸島市	福岡県糸島市大字上須恵字東原(丘山)	山林	権用	複数	未調査	遺産供 (金網橋)	
31 千葉牌子田窓跡	うみしょうじだい	糸島市	福岡県糸島市千葉字2丁目	山林	権用	複数	未調査	昭和30年(1951)に、遺物(遺瓦棊の破片)が発見され、聞き取り調査等により、窓跡と見られる窓枠及び、昭和30年(1951)1月に現地踏査を行った。遺瓦棊の破片と窓枠に伴う遺物を表す記述。	遺産供 (金網橋)
32 中野上の原窓跡	なかの かみの はる	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	現地保存	権用	複数 汎用	未調査	調査済み 1989 小石原村教育委員会 (第1回)1989. 6.15 ~ 7.18 (第2回)1989. 9.22 ~ 12.12	小石原供 中野供
33 大口谷窓跡	ひぐちがに	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	山林	権用		[1号窓] 調査済み 小石原村教育委員会 (第1回)1988. 9.5 ~ 10.1 (第2回)1989. 8.2 ~ 12.21 [2号窓] 調査済み 小石原村教育委員会 (第1回)1988. 10.20 ~ 11.30 (第2回)1988.10.21 ~ 1989.2.24	小石原供	
34 大明神窓跡	だいみょうじん	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	宅地	権用		未調査		小石原供
35 田下船窓跡	きゅうしらふみ	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	食糧 畠地	権用	民衆	未調査		小石原供
36 右上船窓跡	きゅううさんぐみ	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	食糧	権用	民衆	未調査		小石原供
37 左の谷窓跡	いののたに	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	宅地	権用		未調査		
38 金敷移築窓跡	かなしきまうら	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	神社 山林	権用	民衆	[1~2号窓]未調査 [3号窓]調査済み 小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27		
39 一本杉窓跡	いっぽんすぎ	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中野(丘山)	現地保存 山林	権用		[1号窓]試掘調査 小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27 [2号窓]調査済み 小石原村教育委員会 1993.1.15 1993.5.31 歴史跡指定	高取供系?	
40 十文字窓跡	じゅうもんじ	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字中山	山林	権用		未調査		
41 美照瓦窓跡	びくわ	東峰村	福岡郡東峰村大字小石原字美照	山林	権用	民衆	未調査	近代の工業 製品?	
42 雷床窓跡	かまとこ	糸島市	糸島市二丈深江	現地保存	権用	複数		[1号窓] 調査済み 小石原村教育委員会 (第1回) 1990.12.14 ~ 1991. 2. 2 (第2回) 1991. 2. 14 ~ 10.14 (第3回) 1991. 5. 31 歴史跡指定 [2号窓]未調査	高取供
43 鋼窓窓跡	かまとぎ	糸島市	糸島市二丈深江		中潮		未調査 土地の所有者が未見		

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	目録番号	経営	調査歴	後続名
44	白明窯跡	ひあけ	糸島市	糸島市大字平瀬	廃止 中塗		未調査		
45	雪山窯跡	しゆざん	糸島市	糸島市	稻田		未調査		
46	三道七工子窯跡	みなしひえで	筑前町	朝倉郡筑前町大字三道	宅地	秋月	民窯?	未調査	
47	寺満寺窯跡	じょうまんじ	朝倉市	朝倉市長谷山	山林	秋月	遺構	復査	
48	野島窯跡	のじり	朝倉市	朝倉市秋月野島	山林	秋月	遺構	復査	
49	石崎焼	いしざき	筑紫野市	筑紫野市石崎	未特定	福岡	民窯	未調査	
50	櫛尾焼	かすお	不明		未特定			未調査	
51	津屋崎人形	つやざきにんぎょう	福津市	福津市	宅地	福岡	民窯	未調査	
52	平府 瓦	かいふ かわら	太宰府市	太宰府市五条1丁目	民家	福岡	民窯	未調査	
53	今宿人形	いまじゅくにんぎょう	福岡市	福岡市西区今宿1丁目	ビル	福岡	瓦窯	未調査	今宿人形

筑後

1	一の瀬(新田)窯跡	いちのせ(あさだ)	うきは市	うきは市新田瀬	山林	久留米	民窯	復査	一ノ瀬(新田瀬)
2	柳原燒窯跡	やなぎはら	久留米市	久留米市柳原町(久留米城内三の丸)	工場	久留米	お庭・砂場、池塘	未調査	柳原燒
3	新豊燒窯跡	あさづま	久留米市	久留米市合川町	山林	久留米	遺構	調査済み 久留米市教育委員会 (第1次)1992.1月7日～3月 (第2次)2013.2.12～3.31	新豊燒
4	東野亭(野中)燒窯跡	とうやてい(のなか)	久留米市	久留米市野中町	消滅	久留米	お庭・砂場、民窓	調査済み 久留米市教育委員会 1998.10.14～ 12.28	東野亭(野中焼)
5	十三郎燒窯跡	じゅうさんぶ	久留米市	久留米市合川町十三郎	消滅	久留米	民窓	2011年度に旧從業員の聞き取り調査を実施(未報告)	十三郎燒

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	目録番	経営	調査歴	後物名
6	日置焼窯跡	ひわたり ひわたりし?	久留米市	久留米市園田町日置	未特定	久留米	民家	未調査	日置燒
7	青木焼窯跡	あおき	久留米市	久留米市湯外町上口屋	未特定	久留米	民家	未調査	青木燒
8	久留米燒	くるめ	久留米市	久留米市近田	未特定	久留米	民家	未調査	久留米燒
9	田川燒窯跡	たがわ	久留米市	久留米市三瀬町田川	未特定	久留米	民家	採集	田川燒
10	川瀬燒	かわせやき	広川町	八女郡広川町大学広川	宅地	久留米	民家	未調査	川瀬燒
11	福寿寺焼窯跡〔熊野燒〕	ばんどうに(くま の)	筑後市	筑後市大学熊野	宅地	久留米	屋窓	採集	福寿寺燒 (熊野燒)
12	赤坂燒〔三原〕窯跡	あかさか〔みは ら〕	筑後市	筑後市藏敷字赤坂 赤坂神社(三原窯跡)	神社 宅地	久留米	屋窓	採集	赤坂燒
13	木田焼窯跡	みずた	筑後市	筑後市大学水田	宅地	久留米	屋窓	採集	木田燒
14	野町焼窯跡	のまち	筑後市	筑後市大学野町	廻轉	久留米	屋窓	採集	木田燒
15	本星野燒窯跡	ほんぼしの	八女市	八女市星野村大学本星野	畠地	久留米	屋窓一戸窓	未調査	星野燒
16	星野十輪燒窯跡	ほしのじゅうごも り	八女市	八女市星野村麻生・十輪	畠地 道路	久留米	屋窓	星野 十輪燒(打籠 一戸)(1994.12.22 村指定 有形文化財(工芸品)一帯指定)	星野燒
17	田の原燒	たのはら	八女市	八女市星野村田の原	未特定	久留米		未調査	田の原燒
18	今村燒窯跡	いまむら	八女市	八女市基本町今	未特定	久留米	民家	採集	今村燒

表1 福岡県近世窓業関係遺跡調査表 窓跡

名稱	読み	市町村名	所在地	現況	由番名	経営	調査歴	植物名
19 新形抜窓跡	しゃかたちやいがた	八女市	八女市嘉木町立園字新形	山林	久留米	藩室	採集 昭和5年(1930) 深野福吉宮跡見学	新形抜
20 鹿子生痕窓跡	かこお	八女市	八女市嘉木町鹿子生	消滅	柳河	民家	採集	鹿子生痕
21 地の本痕窓跡	いけのもと	八女市	八女市嘉木町木屋	山林	柳河	藩室	採集	地の本痕
22 児ノ子痕窓跡	おのこ	八女市	八女市立花町北山男ノ子	山林	柳河	民家	採集	児ノ子痕
23 清口【小保】痕	はまぐち【おほ】	大川市	大川市小保		柳河	藩室		清口(小保)痕
24 蘭池【柳河】残窓跡	かまち【やながわ】	柳川市	柳川市蘭池	水田 宅地	柳河	藩室	採集	蘭池(柳河)痕
25 二川【後田】残窓跡	ふたがわ(うしろだ)	みやま市	みやま市高田町大学上種田、上種田	山林	柳河	民家	採集 未調査	二川痕
26 ベカツクラ【跡ヶ原】窓跡	ばかつくら(うばがるところ)	みやま市	みやま市高田町上種田字迹ヶ原	未特定	柳河		田中橋三郎による調査 採集	
27 伏部痕窓跡	ふすべ	大牟田市	大牟田市伏部	未特定	柳河		未調査	
28 亂崎痕窓跡	くろさき	大牟田市	大牟田市御宇亂崎	山林	柳河	民家	採集	
29 赤石痕	あかいし						未調査	
30 鶴巣痕							未調査	
31 鶴山【水塚】痕							未調査	
32 鶴山痕							未調査	

豊前

1	栗園塗窓跡	きりんば(さいえんば)	北九州市	北九州市小倉北区栗園塗2丁目	解説保存	小倉	栗園塗(北九州市人北九州市教育文化事業団 指定文化財)1982.5 ~ 1983.9.30 1982.12.30指定有形文化財(考古資料)	上野痕(小倉 痕)
2	小倉渕水痕	こくらきよみず	北九州市	北九州市小倉北区渕水山 ※地にも高田2丁目、源町2丁目	未特定	小倉	藩室	未調査

馬鹿・福島 豪傑・若人・向付・木村・医師 水谷・木舟・候伏	割式式農業 豪傑・若人・向付・木村・医師 水谷・木舟・候伏		全長約16.8m 幅約2m の15隻	1640年代には植物が作られ削除する。 田園民族では豪長?~元和?(1602~21)。	三番目はたしの里と名乗る(元和14年)。豪長は田川忠昌が 作られた。豪長は豪傑の名前で、豪傑は豪長の名前で のことで、野原工野にいりかられたものであつた。 考:豪長は1640年代には1630~25年頃代田作業が終ら る。この豪長は豪傑の名前で、豪傑は豪長の名前で 受け取られる。考:豪長は豪傑の名前で、豪傑は豪長の 名前で受け取られる。考:豪長は豪傑の名前で、豪傑は豪長の 名前で受け取られる。(北九州市埋蔵文化第40集)	井上国廣「1640以前上野野跡研究 豪長と豪傑」、『歴史小論』第1号 小倉書店編著『歴史の歴史 豪長』
馬鹿 豪傑	平賀		文化年間(1804~1817)~嘉永	「馬鹿」(所川)、「小名豪傑三種物の容器が器にかかる。小倉 郡御用の御用」。 唐津市山の記載より。(大隈重信著「大隈重信文庫」)江戸時代の御用 と記載され、この水器は唐津市山の御用と記載される。(井上(1943) の記載より)、この水器は唐津市山の御用と記載される。(井上(1943) の大隈重信文庫、第三章、第10回)	「近世陶物の大潮流上巻」 佐藤義久著「2000研究室」第14号 佐藤義久著「江戸時代の御用品と 御用」(1997)、第1回	「近世陶物の大潮流上巻」 佐藤義久著「2000研究室」第14号 佐藤義久著「江戸時代の御用品と 御用」(1997)、第1回

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

名称	読み	市町村名	所在地	現況	目録番号	経営	調査履歴	機物名
1 高俣窯		北九州市	北九州市小倉北区木町豈山	未特定		民窯	未調査	上野機
4 墓ノ原窯跡	かまのへら	福智町	田川郡福智町上野	山林	小畠	藩窯	調査済み 上野機組合、田川郷土史会、日本陶磁器会による発掘調査が1955.5.6～5.15に行われる。	上野機
5 カンバ窯跡	かんば	福智町	田川郡福智町上野	未特定	小畠		未調査 (昭和12(1937)年2月に棚内這次が発見)	上野機
6 田山本窯跡	たらやまほん	福智町	田川郡福智町上野字田山	竹林	小畠	藩窯	一部、調査 ※測量図あり 上野機組合、田川郷土史会、日本陶磁器会による発掘調査が1955.5.10～5.15に行われる。	上野機
7 山ノ森/下原跡		福智町	田川郡福智町上野字山	未特定	小畠		未探?	上野機
8 かくし窯跡	かくし	福智町	田川郡福智町上野豈山	未特定	小畠		未調査	上野機
9 西原高麗窯跡	いわやこうらい	福智町	田川郡福智町大学井城前屋	山林	小畠		一部、調査 上野機組合、上野機組合及び学生 1955.5～5.6	上野機
10 吉右衛門谷窯跡	きらえもんだに	福智町	田川郡福智町大学井城	未特定	小畠	民窯?	未調査	
11 安賀燒(奉賀窯)		福智町	田川郡福智町	未特定	小畠	民窯	未調査	
12 麻秆	きゅうけん	春日町	田川郡春日町	未特定	小畠		未調査	
13 田香信窯跡	でんこう	春日町	田川郡春日町萬字常安	竹林	小畠	藩窯	未調査	高野田香信
14 田香信窯跡	でんこう	大任町	田川郡大任町堂原	山林	小畠	藩窯	調査済み 大任町教育委員会 (1号窯)1994.1.17～1997.3.31 (2号窯)1994.1.17～1997.3.31 101町史跡指定 / 「田香信花瓶」1976.10.1町史記念有形文化財(工芸品)	今任田香信
15 乙子燒窯跡	おとご	みやこ町	京都府みやこ町大字上高屋	山林	小畠	民窯	未調査	乙子燒
16 銀原島山窯跡	にしきばるさらやま	みやこ町	京都府みやこ町大字豊津	竹林	小畠→ 豊津	民窯	未調査	

製品	案の状況	選種・植栽角度	播種年代	備考	参考文献
			明治10年～20年頃？	小倉木町山、高保屋を記載する。吉田藤右衛門に依り借地されたか。	井上1942以前上野耕研究
施設 園芸・農・片口・桔利・土瓶・ 小・鉢・水指・茶器・高入・ 花入・立・灰皿・灰水・花器	雨段状造萬葉式登窓 （成窓15）・薪木間（火口） 保温	全長41m 幅2.5～3m 10～11度	慶長7年（1602）に幕替一派により、開業。山田屋6年～萬永9年（1601）～ 1602）没あり。（久川馬鹿大に延2010）	上野保屋源（日川郡赤坂町上野）として昭和30年 に登録。元治10年（1877）に「高保屋」（吉田）と改められ たが、施用地定は変更なかった。該建修理工事（佐藤 1955）による。	佐藤三左雄1955同上28 佐藤ほか1955上野古賀調査報告書 小林省吾2006筑波だより124号 九州文化館2010玉の九州 周辺
茶碗・豆・片口・斜・椎鉢・瓶				昔の人々が「萬々」とか言ひてゐている。 但羅糸によると、萬永30年（1605）時には家跡はなく、萬 片の跡跡もほとんどない。	井上1942以前上野耕研究 佐藤糸ほか1955万野古賀調査報告書 佐治町史1877
物置から便利・打合・油舟・ 油桶・桶・便鉢・瓶・土瓶（井 上1942）			元和10年（1622）～萬永元年（1602）から 明治10年（1877）	吉と、圓筒形で利きの良い付口鉢及び便鉢3か所を有する。 主に小舟の荷物置き場所として使用した。	佐藤1955施設28 佐藤ほか1955上野古賀調査報告書 小林省吾2006筑波だより124号 大庭10号油舟附28 船習2010豊前小倉高屋上野耕 周辺
硯・櫛鉢・瓶・片口・花盆・圓 花生			文政12年（1829）～天保（1831）～1845	家文書に「山の神ノ森之下小塙様へへ候學」に記載あ り。	井上1842以前上野耕研究 小林省吾2006筑波だより124号
浅鉢				土地は「時兵五郎、十才者八郎貞甫の一人族で阿子サ ノ氏」の所では、常に脚を仰せかづらうと種のために要い な蔓などに。	井上1942以前上野耕研究 赤堀町史1877
表抜？で既・園鉢・春・豆・ 鏡・便利か（井上1942）			慶長12年（1607）～元和8年（1602）から 寛永16年（1642）～1644	別名唐人豆、豆井上が家を主とし、上野侍組合及び生 仁に之、物屋の一族、通称呼す。開成後から墨田（船橋） 元和8年（1602）から、通称呼す。元和8年（1602）～元 和12年（1606）に「船橋豆井」、元和13年（1608）に「上 圓筒、和利豆井」、通称呼す。（井上・美濃は此豆井の主に記 載）。元和14年（1609）に「阿子豆井」、元和15年（1610）に「 阿子豆井」、元和16年（1611）に「阿子豆井」が記載する。（佐藤 1955）	佐藤1955施設28 佐藤ほか1955上野古賀調査報告書 大庭10号油舟附28 船習2010豊前小倉高屋上野耕 周辺
			明治末～大正元年（1912）	河内村、非常を記す。（井上1942） 一代代下、曾川一郎の経営する。作風は上野を模倣す る。非常貿易と平賀貿易との関連ありか？	井上1942以前上野耕研究 横川1908土本耕生川田 No.13 大庭2006筑波だより124号 横川1908土本耕生川田 No.13
			慶政年闇（1789～1801） 享和年闇（1801～1804）（横川1935）	歴数、エラード＝ミーなどの銘のある深瀬を貯蔵の 所とし、平賀貿易と連絡せよとする。	黑色陶器大辞典 横川1935日本語版第1巻
施設？ 硯・豆・便利・水槽・花器・茶 器・盆・鉢・大	施設状造萬葉式登窓 （成窓25）・物置2ヶ所（大庭2010）	天保年闇（1831～1845）～明治	物置が一部残るので、貯水槽は溝である。 施設は既に既に解消して、天保10年（1830）にはすでに開 業か。由来の「便利販賣」は開成後一般に香料を貯蔵す る「貯蔵所」の意である。（井川1908） 現物では、長い約3m、幅約1mの鉢型貯蔵槽が複数個。 西側の下部には田畠と並んで、裏垣が敷在す る。田畠の直隣には田畠と並んで、裏垣がある。	大庭10号油舟 佐藤1955上野古賀調査報告書 大庭2006筑波だより124号 大庭10号油舟附28 船習2010豊前小倉高屋上野耕 周辺	
陶器・半磁器・磁器 硯・豆・便利・水槽・花器・茶 器・盆・鉢・大	施設状造萬葉式登窓 （成窓25）・物置2ヶ所（大庭2010）	1号窓 全長12～15 m、幅1.5～2.4m、 薪木間、焼成室4～5 各室1基、焼成室6、6～7 物置2ヶ所（大庭2010）	地磁気年代測定により、1号窓1810±25、2号窓1820±20 という結果が出る。後述、今田酒造は「野村の十和田酒 造」の名で、元和8年（1602）に開業した。元和8年（1602）～ 17年（1796）までの「近藤酒造」は大和屋と重複する。記 載があるので、改めて年号で記載する。在籍地には「東印」が入 る。現在、山田屋（道山・笠置）山の記載あり。（大庭 2010） 「豊田名所記」に香田家の花器・鉢・水注が記載される。	星川町註 星川町史第2集 星川町史第3集 星川町史第4集 みやこ町史第5集 郷土紹介がわ刊行号	
角鉢・漆器・茶道具 硯・豆・ハマトシ	雨段状造萬葉式登窓 （成窓25）	江戸時代	御朝天山屋に所在し、遺物の出土がある。近世の豪農免許 記載あり。	星川町註 星川町史第2集 星川町史第3集 星川町史第4集 みやこ町史第5集 郷土紹介がわ刊行号	
瓦敷在			江戸後闇？～明治	昭和20年（1950）に、豊津町酒井缺妻で発見。鍋町と石走り西 山川に位置するがその名は甚野の村。石走りと通じて「鍋町」とい う地名で呼ばれていた。大正10年（1921）に、豊津町に改称され、昭和20年（1945）に、豊津町開港の必要で瓦を倒したよう小片數 井上1899	豊津町註 豊津町史第2集 豊津町史第3集 豊津町史第4集 みやこ町史第5集 郷土紹介がわ刊行号

表1 福岡県近世窓業関係遺跡調査表 窓跡

名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧藩名	経営	調査履	積物名
17 長田昌山		長田町	田川郡長田町	未特定	小倉	米穀販		
18 唐原信良跡	とうばる	上毛町	豪上郡上毛町上唐原	治	中津		大正15年(1926)8月1日 玉泉大発 玉泉大発-高崎正之-野村道治ら 1974.11.25 町史跡指定	唐原信
19 東山城	じょうざん			未特定		米穀販		
20 太郎助窓跡	たろうすけらじく	北九州市	北九州市	未特定	小倉	米穀販		
21 木町信	みずまち	北九州市	北九州市小倉南区木町	未特定	小倉	民家	米穀販	

【参考】

窓跡

名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧藩名	経営	調査履	積物名
1 稲島製陶所		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
2 鹿井陶器製造工場		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
3 山村製陶所		福岡市	福岡市早良区野間山	福岡	米穀販			
4 旗野製陶工場		福岡市	福岡市早良区野間山	福岡	米穀販			
5 旗製陶所		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
6 朝本真物質製造所		福岡市	福岡市南武野間山	福岡	米穀販			
7 高周素機物製造所		福岡市	福岡市南武野間山	福岡	米穀販			
8 七輪注加		福岡市	福岡市中央区住吉	福岡	米穀販			
9 蒼谷信	きざたに	福岡市	福岡市中央区伊地須	福岡	民家	米穀販		
10 土器	かわらけ	福岡市	福岡市早良区飯塚	福岡	米穀販			
11 土器	かわらけ	福岡市	福岡市博多区	福岡	米穀販			
12 西新陶管製造所		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
13 伊佐陶管製造所		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
14 開取土器		福岡市	福岡市早良区西新町	福岡	米穀販			
15 [土管窯]		古賀市	古賀市古賀停車場附近	福岡	米穀販			
16 [土管窯]		筑紫野市	筑紫野市二日市	福岡	米穀販			
17 [土管窯]		糸島市	糸島市	福岡	米穀販			
18 断層窓	おりお	北九州市	北九州市八幡西区	福岡	民家	米穀販		
19 土器	かわらけ	朝倉市	朝倉市甘木	福岡	米穀販			
20 土器	かわらけ	古賀市	古賀市花島	福岡	米穀販			
21 土器田	かわらけ	宗像市	宗像市大井	福岡	米穀販			
22 日本耐火煉瓦株式会社芦田工場		北九州市	北九州市戸畠区御島通	福岡	米穀販			
23 高崎窓業株式会社		北九州市	北九州市八幡西区藤田	福岡	米穀販			
24 東筑跡工場		北九州市?	北九州市若松区中川	福岡	米穀販			

製品	窓の状況	規様・種斜角度	推定年代	備考	参考文献
					大堀2010東洋陶磁第39号
階段状連窓式窓室?	江戸初期? 幕末(在藤1995)			上野原と下野原の後の丸山(ランボル)の東方を山並みといい、音便あり。高尾八山の最初の駿河か。付近一帯は平「吉田屋屋敷造跡」に連窓式窓室の遺物を利用する。長方形以上、幅2m以上の窓の跡跡あり 久保木玉井長吉氏によって監修を必要 久保木玉井長吉氏にて監修を必要	豊上郡史下 大字平井の文化財 昭和20年1月16日登録 昭和20年1月16日登録(5116.2) 佐藤1955年版図 28 「吉田屋屋敷跡遺跡」 「吉田屋屋敷跡跡」
	天保頃			上野原の影響を受けた窓、経常山と日本諸国窓一覧に記載。	横河1935日本諸国窓一覧
			慶長年間(1596~1615)~寛永年間(1624~1644) 幕末(在藤1995)	太郎介が製した茶器、太郎介は上野の工人久義の弟子。 吉田屋は太郎介傳説として残る。吉田屋は太郎介の名前で作られた茶器である。吉田屋(1915) 「三藩の向太郎介と半人衆」とあって吉田屋窓の こと?「本朝御器物」 吉田屋は太郎介の弟子、向太郎介が、小笠窓で作られた 窓の窓枠を取り替えたもの。半人衆は、水井をいたし、そば 糸の織物を手業としてしたのでこの物を太郎勤物といった。 「吉田屋窓」	黒色地大皿舟 横河1935日本諸国窓一覧 御器物集 吉田屋窓 吉田屋窓 吉田屋窓 吉田屋窓 吉田屋窓
			明治年(1875)~(落色陶器大辞典)	(吉田屋窓が創った窓の跡)吉田屋窓 吉田屋窓の窓の内側は、同じ高浜の土と同郷上城 町の土とどおり、少少の砂を混じて、黒物の陶器を表 す。」(在藤1992)	横河1935日本諸国窓一覧 吉田屋窓 吉田1922日本近世窓史

製品	窓の状況	規様・種斜角度	推定年代	備考	参考文献
絵木軸			慶長元年(1596)開闢	代表者は桜島喜三郎	全国工場通鑑
絵木軸			慶長2年(1597)開闢	代表者は久井伊勢太郎	全国工場通鑑
絵木軸			明治23年(1890)10月開闢	代表者は小林林蔵	全国工場通鑑
絵木軸			明治23年(1890)10月開闢	代表者は久野野田三郎	全国工場通鑑
絵木軸			大正元年(1912)3月開闢	代表者は源幸六	全国工場通鑑
絵木軸			大正元年(1912)3月開闢	代表者は岡本萬蔵	全国工場通鑑
絵木軸			大正12年(1923)3月開闢	代表者は高尾萬吉	全国工場通鑑
七輪・土瓶・土瓶・炉蓋類・竹籠・火鉢・火盆・高浜・火盆・土瓶・米漬臼・爐 ・水瓶				鍋土は高浜産土とし、その中に野賀田・五六十川・野野 土を使用。福田工場営業は其窓室をあわせて2窓あり	工学院土井北村撰一部窓室全集第2 卷1929
煎茶器・花器			明治末~大正初め	平野賀谷のついた陶器、賀谷は元伊予国人の人、二六傳窓 窓の窓口部に使った。当時の子守歌「うさぎの窓口」に このらしき窓口部に記された。当時の子守歌「うさぎの窓口」 を作っている。	黒色陶器大辞典
				「早瀬新宿村にて作成所の土器よしとの記載あり(筑 前國新宿土記)」 本稿に「早瀬新宿村にて作成所の土器よしとの記載あり。今 筑前國新宿村にて作成所の土器よしとの記載ある」筑前國新 宿土記附下巻	筑前國新宿土記 筑前國新宿土記附下巻
陶器			明治40年(1907)2月開闢	代表者は桜島喜三郎	全国工場通鑑
陶器			明治43年(1910)3月開闢	代表者は伊佐良之吉	全国工場通鑑
高政土管				北政土管が大正3年(1913)3月に調査見聞。製造業者は 工井で、西脇市立警察署所(明治20年(1887)7月創始)・鬼 子井(在藤1995)の内側のものとされる。石井東は明治44年末に 登記はなされておらず、石井東は明治44年末に 登記はなされておらず。	工学院土井北村撰一部窓室全集第3 卷1929
土管				北政土管・一部が大正3年(1913)3月に調査見聞。土管の粗 い壁は土管の内側のものとされる。	工学院土井北村撰一部窓室全集第3 卷1929
土管				北政土管・一部が大正3年(1913)3月に調査見聞。土管の粗 い壁は土管の内側のものとされる。	工学院土井北村撰一部窓室全集第3 卷1929
土管				北政土管・一部が大正3年(1913)3月に調査見聞。土管の粗 い壁は土管の内側のものとされる。	工学院土井北村撰一部窓室全集第3 卷1929
土管			明治20年(1887)~明治末年	土管を引いていた裏、大正初年(1912)に汽車用の粗土管 を供給する。	黒色大辞典 黒色地大器皿 工学院土井北村撰一部窓室全集第3 卷1929
				「佐野市高根町甘利村の内在池淵家後頭甘利家中にて多 く土管を供給する。」(筑前國新宿土記)「佐野市高根町 土管、高根町の内側のものとされる。(筑前國新宿土記附下巻)	筑前國新宿土記附下巻
				「土管引くカハケラ上作所、高根社の祭の土管を製せし 所と云ふ。」(筑前國新宿土記附下巻) 村ノ北一町隣アリの田代ナリ、高根神社の祭の二丸土 管引く所と云ふ。田代間鶴井像跡上巻に記載あり。(筑前國新 宿土記附下巻)	筑前國新宿土記附下 田代間鶴井像跡上巻
耐火煉瓦			大正5年(1916)12月開闢	代表者は吉武小三郎	全国工場通鑑
荷子・耐火煉瓦			大正8年(1919)6月開闢	代表者は高良洋	全国工場通鑑
煉瓦			大正11年(1922)3月開闢	代表者は松崎フサ	全国工場通鑑

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現状	旧屋名	経営	調査履	復物名
25 尾張焼瓦製造所			北九州市	北九州市芦屋区芦屋	掘開		未調査		
26 長者落窯瓦製造所	ちょうじやくわうせいざなぐら	ちよぢやくわうせいざなぐら	船尾町	福岡市早良区船尾町	掘開		未調査		
27 龜山焼瓦工場	かめやまやせんが	かめやまやせんが	志免町	福岡市早良区志免町(福岡市早良区志免)	掘開		未調査		
28 和田焼瓦工場			嘉麻市	嘉麻市和田村	掘開		未調査		
29 田藤赤瓦瓦工場			篠栗市	嘉麻市篠栗村	掘開		未調査		
30 中川焼瓦工場			若宮市	福岡市東区若宮町	掘開		未調査		
31 善光興業所名島工場			相間市	福岡市東区名島	掘開		未調査		
32 正(芦屋瓦)	かわら(あしやがわ)	かわら(あしやがわ)	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
33 佐々木瓦製造工場	ささきわらせいじょう	ささきわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
34 萩野瓦製造工場	はぎのわらせいじょう	はぎのわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
35 佐多瓦製造工場	さたかわらせいじょう	さたかわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
36 伊藤瓦製造工場	いとうわらせいじょう	いとうわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
37 斎村瓦製造工場	さいむらわらせいじょう	さいむらわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
38 和田瓦製造工場	わだかわらせいじょう	わだかわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
39 失野瓦製造工場	ゆののかわらせいじょう	ゆののかわらせいじょう	芦屋町	遠賀郡芦屋町	掘開	民家	未調査		
40 瓦	かわら	かわら	太宰府市	太宰府市三条	宅地	掘開	民家	未調査	
41 瓦	かわら	かわら	太宰府市	太宰府市五条	宅地	掘開	民家	大字府内分譲100次調査	
42 瓦	かわら	かわら	太宰府市	太宰府市五条丁目	宅地	掘開	民家	未調査	
43 瓦	かわら	かわら	太宰府市	太宰府市国分丁目	宅地	掘開	民家	未調査	
44 瓦	かわら	かわら	太宰府市	太宰府市五条？	掘開	民家	未調査		
45 瓦焼窯	かわらやきかま	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町大学別府、浅木	掘開	民家	未調査		
46 瓦焼窯	かわらやきかま	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町	掘開	民家	未調査		
47 瓦焼窯	かわらやきかま	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町浅木	掘開	民家	未調査		
48 瓦焼窯	かわらやきかま	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町鳥津、鳥津、別府、木守	掘開	民家	未調査		
49 瓦	かわら	かわら	福岡市	福岡市博多区	掘開		未調査		
50 瓦	かわら	かわら	福岡市	福岡市早良区西新町	掘開		未調査		
51 瓦	かわら	かわら	福岡市	福岡市東区高見男	掘開		未調査		
52 瓦町陶			福岡市	福岡市博多区筑紫町	掘開		未調査		
53 瓦	かわら	かわら	福岡市	福岡市西区今宿	掘開		未調査		
54 瓦町陶			福岡市	福岡市東区高見男	掘開		未調査		
55 黒原瓦製造所			福岡市	福岡市東区多々良	掘開				
56 脊田瓦工場	せきだかわらこうじょう	せきだかわらこうじょう	水巻町	遠賀郡水巻町吉田	掘開		未調査		
57 瓦工場	かわらこうじょう	かわらこうじょう	水巻町	遠賀郡水巻町植樹	掘開		未調査		
58 瓦工場	かわらこうじょう	かわらこうじょう	水巻町	遠賀郡水巻町机	掘開		未調査		
59 瓦工場	かわらこうじょう	かわらこうじょう	水巻町	遠賀郡水巻町下二	掘開		未調査		
60 瓦	かわら	かわら	朝倉市	朝倉市甘木	掘開		未調査		
61 瓦	かわら	かわら	朝倉市	朝倉市久泰宮	掘開		未調査		
62 五町陶			朝倉市	朝倉市甘木	掘開		未調査		

製品	業の状況	規格・種別年度	権利年代	備考	参考文献
耐火煉瓦			明治20年(1897)5月開業	代表者は林伸男	全国工場通観
煉瓦				件主は上野理三。創業は明治20年(1897)4月(農商務省「工場通観」)	農商務省1904工場通観
煉瓦				件主は大村春一。創業は明治26年(1893)9月(農商務省「工場通観」)	農商務省1904工場通観
煉瓦			明治28年(1895)5月開業	代表者は中島義兵衛	全国工場通観
煉瓦			明治30年(1897)3月開業	代表者は田中義兵衛	全国工場通観
煉瓦・瓦			明治42年(1909)3月開業	代表者は中川忠太郎	全国工場通観
瓦			大正10年(1921)4月開業	代表者は無記名	全国工場通観
瓦				瓦業者は大正11年(1922)度に13工場を数え、生産高は25,000枚	方錐形地図上九州の名物 戸屋の瓦
屋根瓦			明治25年(1902)8月開業	代表者は佐々木市郎	全国工場通観
屋根瓦			明治28年(1905)1月開業	代表者は瀧野庄次郎	全国工場通観
屋根瓦			大正4年(1915)10月開業	代表者は佐多茂太郎	全国工場通観
屋根瓦			大正6年(1917)1月開業	代表者は井澤吉吉吉	全国工場通観
屋根瓦			大正9年(1920)12月開業	代表者は岡村口市	全国工場通観
屋根瓦			大正15年(1926)4月開業	代表者は和田作作	全国工場通観
屋根瓦			昭和2年(1927)4月開業	代表者は矢野虎	全国工場通観
瓦			江戸・昭和30年代	平井家営業の瓦業	筑前国地圖上記録地全誌 平井家文書(六座瓦目録)
瓦	業の実業土瓦	未報告	江戸後期	平井家営業の瓦業瓦業施設	筑前国地圖上記録地全誌 平井家文書(六座瓦目録)
瓦			江戸・近代	大東京瓦瓦業連鎖施設の所用瓦「太宰府/れんがや町/石川屋敷」瓦瓦	「筑跡だより」第2号1992太宰府市教育委員会
			近現代	「洗出山川製」瓦瓦	「筑跡だより」第2号1992太宰府市教育委員会
			江戸	「奉行志/越瓦」	「筑跡だより」第2号1992太宰府市教育委員会
瓦				瓦の生産量と販路。製作のみ記され詳細は不明別所「瓦10,700枚、別府森四郎」、下邊井原「瓦120,000枚、下邊井原、神津勝次製」。	福岡県地圖全誌 諸窓記録
瓦				瓦業者の戸数、人口は一戸は一戸の勞働日数、瓦日数、又は一戸の貯金、貯蓄の高を記載され、他の詳細は不明。「瓦創造」10戸 34人、1人268円 7700円 450円 3,465,000円(円)	島木村は明治40年(1907)
瓦				瓦業者の戸数、劳働日数、貯金額の記載され、主に瓦屋敷宅の瓦被覆の施工を行っていた様子。	筑木村是供給45年(1912)
瓦				明治15年(1904)頃の「北九州地方瓦工業組合名鑑」に鬼塚2野、島崎2野、別府3野、木屋2野の瓦工場があつたと記され、主に瓦屋敷宅の瓦被覆の施工を行っていた様子。	福岡県地圖全誌 ふるさと
瓦				「種々に瓦をとて、瓦の工場がある第一店あり。屋瓦瓦も瓦の瓦器を作れる」(筑前国絵風土記)。	筑前国絵風土記
瓦				瓦師ありとの記載	筑前国絵風土記附録下巻
瓦				「瓦師師長といふ」を新する家六七戸あり。火鉢・火ちりん・火消等瓦器を賣す。瓦屋瓦と云ふ言えとなり、京都深草の街にもこれいと云う。(筑前国絵風土記)	筑前国絵風土記附録下巻
瓦				「祇園廿廿二、屋根瓦屋、祇園御屋などある所にてて居る。又近年瓦屋宿の宿にてて居る」(筑前国絵風土記)。	筑前国絵風土記
瓦				又瓦工三社あり。其製物に佳り(「筑前国絵風土記附録下巻」)	筑前国絵風土記附録下巻
瓦				「瓦屋屋を新すれど、博多の瓦器に及ハす」(筑前国絵風土記附録下巻)	筑前国絵風土記附録下巻
瓦			明治29年(1896)12月	件主は鷹原長作。創業は明治29年(1896)12月(農商務省「工場通観」)	農商務省1904工場通観
黒色漆喰瓦			嘉永4年(1851)4月開業	代表者は羽田口「瓦・瓦子吹き前印の平型と瓦の着物としてあげている。幕末から明治初年の着物で古伊丹郷地石瓦を用いて始めたものらしい。後に吉野宇摩山の瓦谷でも同じめの瓦業者らが出来たらしい」と記載	全国工場通観 水槽部誌
瓦				「瓦屋屋がけ、漆喰屋がけ、漆喰屋が瓦などと記して居る。又近年瓦屋屋宿の宿にてて居る」(筑前国絵風土記)	水槽部誌
瓦				瓦師ありとの記載	水槽部誌
瓦				「瓦屋屋を新すれど、博多の瓦器に及ハす」(筑前国絵風土記附録下巻)	水槽部誌

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧藩名	経営	調査権	権利名
63	瓦	かわら	古賀市	古賀市青柳	現用		未調査		
64	瓦	かわら	古賀市	古賀市古賀	現用		未調査		
65	伊藤製瓦工場		島原市	島原市前原	現用		未調査		
66	伊藤製瓦工場		島原市	島原市波多江	現用		未調査		
67	瓦	かわら	飯塚市	飯塚市飯塚	現用		未調査		
68	瓦	かわら	宗像市	宗像市赤鳥	現用		未調査		
69	瓦	かわら	篠栗町	篠栗郡篠栗町仲原・大川	現用		未調査		
70	美瓦製造工場		久山町	篠栗郡久山町山田	現用		未調査		
71	瓦	かわら	北九州市	北九州市八幡西区折尾	現用		未調査		
72	瓦	かわら	大野城市	大野城市白木原	現用	民家	未調査		

筑

1	黒崎平		八女市	八女市黒崎村黒崎平	久留米		未調査		
2	小野陶器製造所		久留米市	久留米市小森野?			未調査		
3	三島製陶所(火煉瓦)		大牟田市	大牟田市森町			未調査		
4	松田焼瓦製造所	まつだれんがせ いぞうしょ	久留米市	久留米市森溝町	久留米		未調査		
5	荒木窯業株式会社	あらきやうぎょう	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民家	未調査	
6	荒木焼瓦株式会社	あらきやくわ	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民家	未調査	
7	久留米窯業株式会社	とうあようぎょう	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米市	民家	未調査	
8	安徳焼瓦工場	あんとく	久留米市	久留米市中町	消滅?	久留米	民家	未調査	
9	九州窯業株式会社荒木工場	きゅうしやうぎょうこう あらき	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民家	未調査	
10	肥筑窯業株式会社	ひちくようぎょう	久留米市	久留米市城島町青木		久留米	民家	未調査	
11	柳木焼瓦工場		柳川市	柳川市三郎町		柳河	未調査		
12	田和高窯合販賣社焼瓦工場	みやまち	みやまち瀬高町			柳河	未調査		
13	荒砥焼瓦工場	あらと	みやまち瀬高町			柳河	未調査		
14	早瀬焼瓦工場		大牟田市	大牟田市早瀬		柳河	未調査		
15	三井藍山株式会社三井製陶所焼瓦工場		大牟田市	大牟田市新開町		柳河	未調査		
16	久留米御用瓦廠	くるめごんごう かわら	久留米市	久留米市灘ノ下町	消滅	久留米	蔵室	未調査	
17	日産瓦廠	ひわたしかわら かわらと	久留米市	久留米市西分町日産	消滅	久留米	民家	未調査	
18	善導寺瓦窯(兔屋家)	ぜんどうじにわわら (うさぎやけ)	久留米市	久留米市善導寺町	消滅	久留米	民家	未調査	
19	善導寺瓦窯(久保山家)	ぜんどうじにわわら (くぼやけ)	久留米市	久留米市善導寺町	消滅	久留米	民家	未調査	
20	吉田瓦製造所	よしだわらせ いぞうしょ	久留米市	久留米市善導寺町		久留米	未調査		
21	柳瓦製造工場	はなごしかわらせ いぞうしょ	久留米市	久留米市大原		久留米	未調査		
22	鍋瓦	じょうじまかわら	久留米市	久留米市城島町		久留米	民家	未調査	
23	荒巻瓦工場(瓦製造 所)	あらまきかわらこ うじょ	久留米市	久留米市城島町城島		久留米	民家	未調査	

製品	裏の状況	機種・組合会社	推定年代	備考	参考文献
瓦				「夜須郡甘木、難波郡曾根郷、京都市あらなと所今にて作る。又近年近摩郡今宿にて作る。(民前国民風土記)」	民前国民風土記
瓦				西向三瓦屋・舟七助瓦作・船長三郎瓦屋・経路屋瓦屋・三輪瓦屋・長善瓦屋・源宗一郎瓦屋・古百合會社瓦屋・山片瓦屋等	滋田書2009近代化に際した人間関係
藍色釉陶瓦	明治23年(1890)3月開業	代表者井仲義又次郎		全国工場通販	
唐草瓦・半瓦・丸瓦	明治7年(1874)2月開業	代表者吉甲山一秀		全国工場通販	
瓦				瓦師あらのの櫻坂	民前国民風土記附録下巻
瓦				「夜須郡甘木、難波郡曾根郷、京都市あらなと所今にて作る。又近年近摩郡今宿にて作る。(民前国民風土記)」	民前国民風土記 民前国民風土記附録下巻
瓦				「仲澤・大川両窯は、むかしから負貴の軽土が差出し瓦屋町にて作成され、其の瓦は、大川村で「瓦」、仲澤瓦窯がかかるとした。現在古びてその瓦はさみしことがきません」として、大川村の瓦の特徴が記載されている。(松阪町誌)」	松阪町誌
屋根瓦	明治40年(1907)4月開業	代表者吉良庄吉			全国工場通販
瓦				対は焼瓦をもつって居る。富数3基、焼料は石炭	工学博士北村篤一郎窯業全集第3巻1929
瓦	不明		近代(明治~大正)	「大野城市の中心に、難波川河口の難波の里、大正時代に白浜町・瓦窯があつたとい記載があり、近畿道42号線SP03出土遺物の中に「白木浜村新七號屋」銘の瓦片あり。	大野城市役場大野市役場 大野城市役場大野市役場 大野城市文化財課 昭和市修復会計集

				「真徳」は「真徳」の転化か	佐野1935筑後陶芸考 陶器大辞典
陶管			大正13年(1924)8月開業	代表者は大堀作次	全国工場通販
磁管			大正7年(1918)2月開業	代表者吉小田謙	全国工場通販
煉瓦			大正13年(1924)12月開業	代表者は松田源太郎	全国工場通販
煉瓦・瓦その他			大正13年(1920)1月26日~ 全国工場通販では大正13年2月開業とする	資本金1万円 稲田33名 後期、高崎市山本町に工場を設置 平成26年(2014)3月28日 に笠置町に自己生産	福岡県三潴郡筑紫野 全国工場通販
煉瓦			大正14年(1917)7月~	資本金1万円 大正10年(1921)には80万個を製造	福岡県三潴郡
煉瓦			大正9年(1920)1月28日~	資本金1万円 千葉33名 全国工場通販では東亜事業大運工場とし、代表者は吉寅 次郎とある	福岡県三潴郡筑紫野 全国工場通販
煉瓦と瓦			大正時代?	大正13年(1924)時点では生産額13,840円、資本金10,000円 の記載	福岡県久留米市入島町 の分譲
煉瓦その他			大正7年(1918)8月1日~	職工45名	福岡県三潴郡
煉瓦			大正7年(1918)12月30日設立	資本金5万円	福岡県三潴郡
普通煉瓦			大正2年(1913)1月開業	代表者は麻木利男	全国工場通販
普通煉瓦			大正13年(1924)11月開業	代表者は飯田龜太郎	全国工場通販
普通煉瓦			大正13年(1923)3月開業	代表者は高橋義造	全国工場通販
煉瓦			大正7年(1923)3月開業	代表者は江口日平	全国工場通販
耐火煉瓦			大正7年(1918)11月開業	代表者は山田通	全国工場通販
瓦類			元和7(1621)年~不明	兵庫の瓦屋町・三牧支右衛門が高麗室に賃貸し販売へ移 住。瓦屋直貢としての小松原に信傳屋等が見えらる。慶 長25名石井、享和3年(1703)より3人持株、延宝10年(1732) より3人持株、延宝11年(1733)より3人持株、延宝12年(1734) より3人持株、延宝13年(1736)より3人持株、延宝14年(1738) より3人持株、延宝15年(1739)より3人持株、延宝16年(1740) より3人持株、延宝17年(1741)より3人持株、延宝18年(1742) より3人持株、延宝19年(1743)より3人持株、延宝20年(1744) より3人持株、延宝21年(1745)より3人持株、延宝22年(1746) より3人持株、延宝23年(1747)より3人持株、延宝24年(1748) より3人持株、延宝25年(1749)より3人持株、延宝26年(1750) より3人持株、延宝27年(1751)より3人持株、延宝28年(1752) より3人持株、延宝29年(1753)より3人持株、延宝30年(1754) より3人持株、延宝31年(1755)より3人持株、延宝32年(1756) より3人持株、延宝33年(1757)より3人持株、延宝34年(1758) より3人持株、延宝35年(1759)より3人持株、延宝36年(1760) より3人持株、延宝37年(1761)より3人持株、延宝38年(1762) より3人持株、延宝39年(1763)より3人持株、延宝40年(1764) より3人持株、延宝41年(1765)より3人持株、延宝42年(1766) より3人持株、延宝43年(1767)より3人持株、延宝44年(1768) より3人持株、延宝45年(1769)より3人持株、延宝46年(1770) より3人持株、延宝47年(1771)より3人持株、延宝48年(1772) より3人持株、延宝49年(1773)より3人持株、延宝50年(1774) より3人持株、延宝51年(1775)より3人持株、延宝52年(1776) より3人持株、延宝53年(1777)より3人持株、延宝54年(1778) より3人持株、延宝55年(1779)より3人持株、延宝56年(1780) より3人持株、延宝57年(1781)より3人持株、延宝58年(1782) より3人持株、延宝59年(1783)より3人持株、延宝60年(1784) より3人持株、延宝61年(1785)より3人持株、延宝62年(1786) より3人持株、延宝63年(1787)より3人持株、延宝64年(1788) より3人持株、延宝65年(1789)より3人持株、延宝66年(1790) より3人持株、延宝67年(1791)より3人持株、延宝68年(1792) より3人持株、延宝69年(1793)より3人持株、延宝70年(1794) より3人持株、延宝71年(1795)より3人持株、延宝72年(1796) より3人持株、延宝73年(1797)より3人持株、延宝74年(1798) より3人持株、延宝75年(1799)より3人持株、延宝76年(1800) より3人持株、延宝77年(1801)より3人持株、延宝78年(1802) より3人持株、延宝79年(1803)より3人持株、延宝80年(1804) より3人持株、延宝81年(1805)より3人持株、延宝82年(1806) より3人持株、延宝83年(1807)より3人持株、延宝84年(1808) より3人持株、延宝85年(1809)より3人持株、延宝86年(1810) より3人持株、延宝87年(1811)より3人持株、延宝88年(1812) より3人持株、延宝89年(1813)より3人持株、延宝90年(1814) より3人持株、延宝91年(1815)より3人持株、延宝92年(1816) より3人持株、延宝93年(1817)より3人持株、延宝94年(1818) より3人持株、延宝95年(1819)より3人持株、延宝96年(1820) より3人持株、延宝97年(1821)より3人持株、延宝98年(1822) より3人持株、延宝99年(1823)より3人持株、延宝100年(1824) より3人持株、延宝101年(1825)より3人持株、延宝102年(1826) より3人持株、延宝103年(1827)より3人持株、延宝104年(1828) より3人持株、延宝105年(1829)より3人持株、延宝106年(1830) より3人持株、延宝107年(1831)より3人持株、延宝108年(1832) より3人持株、延宝109年(1833)より3人持株、延宝110年(1834) より3人持株、延宝111年(1835)より3人持株、延宝112年(1836) より3人持株、延宝113年(1837)より3人持株、延宝114年(1838) より3人持株、延宝115年(1839)より3人持株、延宝116年(1840) より3人持株、延宝117年(1841)より3人持株、延宝118年(1842) より3人持株、延宝119年(1843)より3人持株、延宝120年(1844) より3人持株、延宝121年(1845)より3人持株、延宝122年(1846) より3人持株、延宝123年(1847)より3人持株、延宝124年(1848) より3人持株、延宝125年(1849)より3人持株、延宝126年(1850) より3人持株、延宝127年(1851)より3人持株、延宝128年(1852) より3人持株、延宝129年(1853)より3人持株、延宝130年(1854) より3人持株、延宝131年(1855)より3人持株、延宝132年(1856) より3人持株、延宝133年(1857)より3人持株、延宝134年(1858) より3人持株、延宝135年(1859)より3人持株、延宝136年(1860) より3人持株、延宝137年(1861)より3人持株、延宝138年(1862) より3人持株、延宝139年(1863)より3人持株、延宝140年(1864) より3人持株、延宝141年(1865)より3人持株、延宝142年(1866) より3人持株、延宝143年(1867)より3人持株、延宝144年(1868) より3人持株、延宝145年(1869)より3人持株、延宝146年(1870) より3人持株、延宝147年(1871)より3人持株、延宝148年(1872) より3人持株、延宝149年(1873)より3人持株、延宝150年(1874) より3人持株、延宝151年(1875)より3人持株、延宝152年(1876) より3人持株、延宝153年(1877)より3人持株、延宝154年(1878) より3人持株、延宝155年(1879)より3人持株、延宝156年(1880) より3人持株、延宝157年(1881)より3人持株、延宝158年(1882) より3人持株、延宝159年(1883)より3人持株、延宝160年(1884) より3人持株、延宝161年(1885)より3人持株、延宝162年(1886) より3人持株、延宝163年(1887)より3人持株、延宝164年(1888) より3人持株、延宝165年(1889)より3人持株、延宝166年(1890) より3人持株、延宝167年(1891)より3人持株、延宝168年(1892) より3人持株、延宝169年(1893)より3人持株、延宝170年(1894) より3人持株、延宝171年(1895)より3人持株、延宝172年(1896) より3人持株、延宝173年(1897)より3人持株、延宝174年(1898) より3人持株、延宝175年(1899)より3人持株、延宝176年(1900) より3人持株、延宝177年(1901)より3人持株、延宝178年(1902) より3人持株、延宝179年(1903)より3人持株、延宝180年(1904) より3人持株、延宝181年(1905)より3人持株、延宝182年(1906) より3人持株、延宝183年(1907)より3人持株、延宝184年(1908) より3人持株、延宝185年(1909)より3人持株、延宝186年(1910) より3人持株、延宝187年(1911)より3人持株、延宝188年(1912) より3人持株、延宝189年(1913)より3人持株、延宝190年(1914) より3人持株、延宝191年(1915)より3人持株、延宝192年(1916) より3人持株、延宝193年(1917)より3人持株、延宝194年(1918) より3人持株、延宝195年(1919)より3人持株、延宝196年(1920) より3人持株、延宝197年(1921)より3人持株、延宝198年(1922) より3人持株、延宝199年(1923)より3人持株、延宝200年(1924) より3人持株、延宝201年(1925)より3人持株、延宝202年(1926) より3人持株、延宝203年(1927)より3人持株、延宝204年(1928) より3人持株、延宝205年(1929)より3人持株、延宝206年(1930) より3人持株、延宝207年(1931)より3人持株、延宝208年(1932) より3人持株、延宝209年(1933)より3人持株、延宝210年(1934) より3人持株、延宝211年(1935)より3人持株、延宝212年(1936) より3人持株、延宝213年(1937)より3人持株、延宝214年(1938) より3人持株、延宝215年(1939)より3人持株、延宝216年(1940) より3人持株、延宝217年(1941)より3人持株、延宝218年(1942) より3人持株、延宝219年(1943)より3人持株、延宝220年(1944) より3人持株、延宝221年(1945)より3人持株、延宝222年(1946) より3人持株、延宝223年(1947)より3人持株、延宝224年(1948) より3人持株、延宝225年(1949)より3人持株、延宝226年(1950) より3人持株、延宝227年(1951)より3人持株、延宝228年(1952) より3人持株、延宝229年(1953)より3人持株、延宝230年(1954) より3人持株、延宝231年(1955)より3人持株、延宝232年(1956) より3人持株、延宝233年(1957)より3人持株、延宝234年(1958) より3人持株、延宝235年(1959)より3人持株、延宝236年(1960) より3人持株、延宝237年(1961)より3人持株、延宝238年(1962) より3人持株、延宝239年(1963)より3人持株、延宝240年(1964) より3人持株、延宝241年(1965)より3人持株、延宝242年(1966) より3人持株、延宝243年(1967)より3人持株、延宝244年(1968) より3人持株、延宝245年(1969)より3人持株、延宝246年(1970) より3人持株、延宝247年(1971)より3人持株、延宝248年(1972) より3人持株、延宝249年(1973)より3人持株、延宝250年(1974) より3人持株、延宝251年(1975)より3人持株、延宝252年(1976) より3人持株、延宝253年(1977)より3人持株、延宝254年(1978) より3人持株、延宝255年(1979)より3人持株、延宝256年(1980) より3人持株、延宝257年(1981)より3人持株、延宝258年(1982) より3人持株、延宝259年(1983)より3人持株、延宝260年(1984) より3人持株、延宝261年(1985)より3人持株、延宝262年(1986) より3人持株、延宝263年(1987)より3人持株、延宝264年(1988) より3人持株、延宝265年(1989)より3人持株、延宝266年(1990) より3人持株、延宝267年(1991)より3人持株、延宝268年(1992) より3人持株、延宝269年(1993)より3人持株、延宝270年(1994) より3人持株、延宝271年(1995)より3人持株、延宝272年(1996) より3人持株、延宝273年(1997)より3人持株、延宝274年(1998) より3人持株、延宝275年(1999)より3人持株、延宝276年(2000) より3人持株、延宝277年(2001)より3人持株、延宝278年(2002) より3人持株、延宝279年(2003)より3人持株、延宝280年(2004) より3人持株、延宝281年(2005)より3人持株、延宝282年(2006) より3人持株、延宝283年(2007)より3人持株、延宝284年(2008) より3人持株、延宝285年(2009)より3人持株、延宝286年(2010) より3人持株、延宝287年(2011)より3人持株、延宝288年(2012) より3人持株、延宝289年(2013)より3人持株、延宝290年(2014) より3人持株、延宝291年(2015)より3人持株、延宝292年(2016) より3人持株、延宝293年(2017)より3人持株、延宝294年(2018) より3人持株、延宝295年(2019)より3人持株、延宝296年(2020) より3人持株、延宝297年(2021)より3人持株、延宝298年(2022) より3人持株、延宝299年(2023)より3人持株、延宝300年(2024) より3人持株、延宝301年(2025)より3人持株、延宝302年(2026) より3人持株、延宝303年(2027)より3人持株、延宝304年(2028) より3人持株、延宝305年(2029)より3人持株、延宝306年(2030) より3人持株、延宝307年(2031)より3人持株、延宝308年(2032) より3人持株、延宝309年(2033)より3人持株、延宝310年(2034) より3人持株、延宝311年(2035)より3人持株、延宝312年(2036) より3人持株、延宝313年(2037)より3人持株、延宝314年(2038) より3人持株、延宝315年(2039)より3人持株、延宝316年(2040) より3人持株、延宝317年(2041)より3人持株、延宝318年(2042) より3人持株、延宝319年(2043)より3人持株、延宝320年(2044) より3人持株、延宝321年(2045)より3人持株、延宝322年(2046) より3人持株、延宝323年(2047)より3人持株、延宝324年(2048) より3人持株、延宝325年(2049)より3人持株、延宝326年(2050) より3人持株、延宝327年(2051)より3人持株、延宝328年(2052) より3人持株、延宝329年(2053)より3人持株、延宝330年(2054) より3人持株、延宝331年(2055)より3人持株、延宝332年(2056) より3人持株、延宝333年(2057)より3人持株、延宝334年(2058) より3人持株、延宝335年(2059)より3人持株、延宝336年(2060) より3人持株、延宝337年(2061)より3人持株、延宝338年(2062) より3人持株、延宝339年(2063)より3人持株、延宝340年(2064) より3人持株、延宝341年(2065)より3人持株、延宝342年(2066) より3人持株、延宝343年(2067)より3人持株、延宝344年(2068) より3人持株、延宝345年(2069)より3人持株、延宝346年(2070) より3人持株、延宝347年(2071)より3人持株、延宝348年(2072) より3人持株、延宝349年(2073)より3人持株、延宝350年(2074) より3人持株、延宝351年(2075)より3人持株、延宝352年(2076) より3人持株、延宝353年(2077)より3人持株、延宝354年(2078) より3人持株、延宝355年(2079)より3人持株、延宝356年(2080) より3人持株、延宝357年(2081)より3人持株、延宝358年(2082) より3人持株、延宝359年(2083)より3人持株、延宝360年(2084) より3人持株、延宝361年(2085)より3人持株、延宝362年(2086) より3人持株、延宝363年(2087)より3人持株、延宝364年(2088) より3人持株、延宝365年(2089)より3人持株、延宝366年(2090) より3人持株、延宝367年(2091)より3人持株、延宝368年(2092) より3人持株、延宝369年(2093)より3人持株、延宝370年(2094) より3人持株、延宝371年(2095)より3人持株、延宝372年(2096) より3人持株、延宝373年(2097)より3人持株、延宝374年(2098) より3人持株、延宝375年(2099)より3人持株、延宝376年(2000) より3人持株、延宝377年(2001)より3人持株、延宝378年(2002) より3人持株、延宝379年(2003)より3人持株、延宝380年(2004) より3人持株、延宝381年(2005)より3人持株、延宝382年(2006) より3人持株、延宝383年(2007)より3人持株、延宝384年(2008) より3人持株、延宝385年(2009)より3人持株、延宝386年(2010) より3人持株、延宝387年(2011)より3人持株、延宝388年(2012) より3人持株、延宝389年(2013)より3人持株、延宝390年(2014) より3人持株、延宝391年(2015)より3人持株、延宝392年(2016) より3人持株、延宝393年(2017)より3人持株、延宝394年(2018) より3人持株、延宝395年(2019)より3人持株、延宝396年(2020) より3人持株、延宝397年(2021)より3人持株、延宝398年(2022) より3人持株、延宝399年(2023)より3人持株、延宝400年(2024) より3人持株、延宝401年(2025)より3人持株、延宝402年(2026) より3人持株、延宝403年(2027)より3人持株、延宝404年(2028) より3人持株、延宝405年(2029)より3人持株、延宝406年(2030) より3人持株、延宝407年(2031)より3人持株、延宝408年(2032) より3人持株、延宝409年(2033)より3人持株、延宝410年(2034) より3人持株、延宝411年(2035)より3人持株、延宝412年(2036) より3人持株、延宝413年(2037)より3人持株、延宝414年(2038) より3人持株、延宝415年(2039)より3人持株、延宝416年(2040) より3人持株、延宝417年(2041)より3人持株、延宝418年(2042) より3人持株、延宝419年(2043)より3人持株、延宝420年(2044) より3人持株、延宝421年(2045)より3人持株、延宝422年(2046) より3人持株、延宝423年(2047)より3人持株、延宝424年(2048) より3人持株、延宝425年(2049)より3人持株、延宝426年(2050) より3人持株、延宝427年(2051)より3人持株、延宝428年(2052) より3人持株、延宝429年(2053)より3人持株、延宝430年(2054) より3人持株、延宝431年(2055)より3人持株、延宝432年(2056) より3人持株、延宝433年(2057)より3人持株、延宝434年(2058) より3人持株、延宝435年(2059)より3人持株、延宝436年(2060) より3人持株、延宝437年(2061)より3人持株、延宝438年(2062) より3人持株、延宝439年(2063)より3人持株、延宝440年(2064) より3人持株、延宝441年(2065)より3人持株、延宝442年(2066) より3人持株、延宝443年(2067)より3人持株、延宝444年(2068) より3人持株、延宝445年(2069)より3人持株、延宝446年(2070) より3人持株、延宝447年(2071)より3人持株、延宝448年(2072) より3人持株、延宝449年(2073)より3人持株、延宝450年(2074) より3人持株、延宝451年(2075)より3人持株、延宝452年(2076) より3人持株、延宝453年(2077)より3人持株、延宝454年(2078) より3人持株、延宝455年(2079)より3人持株、延宝456年(2080) より3人持株、延宝457年(2081)より3人持株、延宝458年(2082) より3人持株、延宝459年(2083)より3人持株、延宝460年(2084) より3人持株、延宝461年(2085)より3人持株、延宝462年(2086) より3人持株、延宝463年(2087)より3人持株、延宝464年(2088) より3人持株、延宝465年(2089)より3人持株、延宝466年(2090) より3人持株、延宝467年(2091)より3人持株、延宝468年(2092) より3人持株、延宝469年(2093)より3人持株、延宝470年(2094) より3人持株、延宝471年(2095)より3人持株、延宝472年(2096) より3人持株、延宝473年(2097)より3人持株、延宝474年(2098) より3人持株、延宝475年(2099)より3人持株、延宝476年(2000) より3人持株、延宝477年(2001)より3人持株、延宝478年(2002) より3人持株、延宝479年(2003)より3人持株、延宝480年(2004) より3人持株、延宝481年(2005)より3人持株、延宝482年(2006) より3人持株、延宝483年(2007)より3人持株、延宝484年(2008) より3人持株、延宝485年(2009)より3人持株、延宝486年(2010) より3人持株、延宝487年(2011)より3人持株、延宝488年(2012) より3人持株、延宝489年(2013)より3人持株、延宝490年(2014) より3人持株、延宝491年(2015)より3人持株、延宝492年(2016) より3人持株、延宝493年(2017)より3人持株、延宝494年(2018) より3人持株、延宝495年(2019)より3人持株、延宝496年(2020) より3人持株、延宝497年(2021)より3人持株、延宝498年(2022) より3人持株、延宝499年(2023)より3人持株、延宝500年(2024) より3人持株、延宝501年(2025)より3人持株、延宝502年(2026) より3人持株、延宝503年(2027)より3人持株、延宝504年(2028) より3人持株、延宝505年(2029)より3人持株、延宝506年(2030) より3人持株、延宝507年(2031)より3人持株、延宝508年(2032) より3人持株、延宝509年(2033)より3人持株、延宝510年(2034) より3人持株、延宝511年(2035)より3人持株、延宝512年(2036) より3人持株、延宝513年(2037)より3人持株、延宝514年(2038) より3人持株、延宝515年(2039)より3人持株、延宝516年(2040) より3人持株、延宝517年(2041)より3人持株、延宝518年(2042) より3人持株、延宝519年(2043)より3人持株、延宝520年(2044) より3人持株、延宝521年(2045)より3人持株、延宝522年(204	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

名稱	読み	市町村名	所在地	現況	旧藩名	経営	調査権	債物名
24 ニノ宮瓦製造所	にのみやかわらせいぞうしょ	久留米市	久留米市城島町大字内野	久留米	未調査			
25 由川清製瓦工場		久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
26 由田製瓦工場		久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
27 伊幡瓦製造工場	いとばかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
28 田中瓦製造工場	たなかかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
29 中村鍛瓦製造工場	なかむらかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
30 中村瓦製造工場	なかむらかわらせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
31 今村津屋製瓦工場	いまむらつやせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
32 須江瓦製造工場	すえかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
33 田中虎屋瓦工場	たなかとらやせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
34 今村作五郎瓦工場	いまむらさくごろうせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
35 今村史三郎瓦工場	いまむらしさんろうせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
36 鐘屋製瓦工場	かねやせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
37 今村甚五郎瓦工場	いまむらじんごろうせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
38 銀井勝瓦工場	ぎんいちかちやせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
39 岩倉瓦製造工場	いわくらかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
40 岩林製瓦工場	いわばやしきわらせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
41 田所喜製瓦工場	たのせきせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
42 銀井種瓦工場	ぎんいちくわらせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
43 田田瓦工場	たいたわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
44 西川創瓦工場	にしかわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
45 江藤鐵助瓦工場	えとうてつすけせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
46 古賀朝助瓦工場	こがあさひせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
47 古賀米助瓦工場	こがべいすけせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
48 古賀市助瓦工場	こがしすけせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
49 市原製瓦工場	いちはらせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
50 森方瓦工場	もりがたわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
51 田(新)船越瓦工場	たん(しん)ふなこしせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
52 下坂瓦製造工場	しもさかかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
53 中村勘助瓦工場	なかむらかんすけせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
54 中村智製瓦工場	なかむらちせいせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
55 岩山瓦製造工場	いわやまかわらせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
56 奥瓦製瓦工場	おくわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
57 鹿志瓦工場	しかじわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
58 中村龟助瓦工場	なかむらかめすけせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
59 由田瓦製造工場	ゆだわせいぞうこうじょ	久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
60 田中龍吉瓦工場	たなかりゆきちわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
61 中園製瓦工場	ちゅうえんせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
62 田中商店瓦工場	たなかしょうてんわせいぞくこうじょ	久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
63 中村喜八		久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
64 今村喜次郎		久留米市	久留米市城島町	久留米	未調査			
65 中村新八		久留米市	久留米市城島町江上	久留米	未調査			
66 金田瓦製造工場	かなたわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
67 美瓦製造工場	みわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
68 久瓦製造工場	くわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
69 清瓦製造工場	きわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
70 佐瓦製造工場	さわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
71 長園瓦製造工場	ながぞのわせいぞうこうじょ	大木町	三瀬郡大木町大瀬	久留米				
72 瓦		柳川市	柳川市佐世保ほか	柳川	未調査			
73 瓦		柳川市	柳川市大野町明野ほか	柳川	未調査			
74 瓦		柳川市	柳川市三橋町柳河ほか	柳川	未調査			
75 利田瓦製造工場	りだわせいぞうこうじょ	柳川市	柳川市三橋町	柳川				
76 幸安田製瓦工場	こうやすだせいわこうじょ	柳川市	柳川市東水	柳川				
77 古賀瓦工場	こがわいわこうじょ	柳川市	柳川市東水	柳川				

製品	薬の状況	規格・種別年度	検定年代	備考	参考文献
瓦				特生は二ノ宮勘助、創業は明治31年(1898)5月(慶典特省 工場通販)	慶典特省1904工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治5年(1872)4月開業	代表者は市川源太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治8年(1875)10月開業	代表者は近田寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治14年(1881)1月開業	代表者は伊藤勘次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治14年(1881)2月開業	代表者は中田中次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治14年(1881)3月開業	代表者は今村寅次	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治20年(1887)1月開業	代表者は中村利松	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治20年(1887)8月開業	代表者は今村寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治20年(1885)5月開業	代表者は瀧江吉吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治30年(1897)1月開業	代表者は田中吉吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治30年(1897)7月開業	代表者は今村寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治30年(1897)10月開業	代表者は今村寅	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治10年(1886)1月開業	代表者は口橋久次	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治10年(1886)5月開業	代表者は今村寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治33年(1900)2月開業	代表者は坂井清造	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治34年(1901)2月開業	代表者は源次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治36年(1903)10月開業	代表者は柳林龍吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治7年(1904)1月開業	代表者は田中源吉、久保米市十間壁敷設第3次認定で (筑波城口)特製、田中製、スタンプがある平瓦出土 品2016	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治7年(1904)12月開業	代表者は坂井清造	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治8年(1906)1月開業	代表者は近田寅正郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治42年(1910)6月開業	代表者は市川寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治43年(1910)3月開業	代表者は江藤寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治43年(1910)4月開業	代表者は古賀寅次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治43年(1910)12月開業	代表者は古賀寅蔵	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治44年(1911)2月開業	代表者は古賀寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治44年(1911)4月開業	代表者は源次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			明治45年(1912)2月開業	代表者は坂井清造	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正2年(1913)2月開業	代表者は御船寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正2年(1913)9月開業	代表者は下坂吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正3年(1914)8月開業	代表者は中村勘助	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正3年(1914)10月開業	代表者は田中吉吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正4年(1915)12月開業	代表者は森山寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正7年(1918)3月開業	代表者は島重喜	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正7年(1918)8月開業	代表者は源次郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正7年(1920)1月開業	代表者は今村吉吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正10年(1921)2月開業	代表者は近田寅吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			大正12年(1923)9月開業	代表者は中田寅太郎	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			昭和2年(1927)3月開業	代表者は中澤重野吉	全国工場通販
瓦錠(黒色系鏡物)			昭和1年(1928)10月開業	代表者は田中重三郎	全国工場通販
瓦錠				久保米市十間壁敷設第2次認定で「特別改良版(江 角・中手八八式)」(スタンプがある)平瓦出土	久保米市第323集
瓦錠				今村吉吉(中手八八式)、(スタンプがある)平瓦出土	久保米市第366集
瓦錠				久保米市十間壁敷設第3次認定で「城島瓦」(製造中村 八八式)、(スタンプがある)平瓦出土	久保米市第366集
瓦(黒色系鏡物)			明治23年(1890)1月開業	代表者は中田寅次郎	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			明治34年(1901)1月開業	代表者は森山寅蔵	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			明治34年(1901)1月開業	代表者は野口久次郎	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			大正2年(1913)12月開業	代表者は坂井清造	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			大正2年(1913)12月開業	代表者は森山寅次郎	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			大正11年(1922)3月開業	代表者は森山寅太郎	全国工場通販
瓦(黒色系鏡物)			沖縄川	沖縄川	
瓦(黒色系鏡物)			江崎洋瓦店前舟、文久2年創業(史料)	江崎洋瓦店前舟	
黑色瓦			明治45年(1912)5月開業	代表者は村田寅太郎	全国工場通販
黑色瓦			明治30年(1897)3月開業	代表者は宇摩良徳	全国工場通販
黑色瓦			大正7年(1918)2月開業	代表者は吉賀貞	全国工場通販

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 空跡

名稱	読み	市町村名	所在地	現況	田舎名	経営	調査権	地物名
76 瓦		柳川市	柳川市大和町中島		柳河			
79 瓦		みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
80 瓦		みやま市	みやま市高田町		柳河			
81 瓦		みやま市	みやま市		柳河			
82 田中瓦工場	たなかかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
83 実吉瓦工場	じつきちかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
84 小宮瓦工場	こみやかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
85 大津瓦工場	おおづかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
86 畠田瓦工場	かただかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
87 西田瓦工場	にしだかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
88 幸川瓦工場	ひがわいかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
89 大津瓦工場	おおづかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
90 大木瓦工場	おおきかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
91 実吉瓦工場	じつきちかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
92 武末瓦工場	たけすえかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
93 有緒瓦工場	いしゆかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
94 和藤瓦工場	わとうかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
95 佐藤瓦工場	さとうかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
96 齋富瓦工場	さいとのかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
97 佐藤瓦工場	さとうかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
98 大鏡瓦工場	おおばなかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
99 豊藤瓦工場	とよとうかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			
100 金田口瓦工場	かなでとかわらこう じょう	みやま市	みやま市瀬高町		柳河			

豊前

1 東洋陶器株式会社	北九州市	北九州市小倉区鹿崎	小倉	米國産			
2 門司總化成瓦製造所	北九州市	北九州市門司区森江	小倉	米國産			
3 文化瓦工場	北九州市	北九州市門司区大星門屋町	小倉	米國産			
4 住村商店瓦工場	北九州市	北九州市門司区大星	小倉	米國産			
5 大里瓦製所	北九州市	北九州市門司区大裏町	小倉	民窯	米國産		
6 小保祿瓦工場	おぶくろんが	大任町	田川郡大任町	宅地	小倉	米國産	
7 川西櫛瓦工場	かわにしきわ	高田町	田川郡高田町				
8 瓦	豊前市	豊前市大利・魚屋(記録には堤とある)	小倉	民窯	米國産		
9 瓦	豊前市	豊前市吉木	道路	小倉	民窯	米國産	

製品	窓の状況	規格・種別年度	推定年代	備考	参考文献
瓦(黒色素焼物)		明治13年(1880)3月開業	代表者は田中久次郎		工学博士北村彌一郎著業全集第3巻1929
瓦(黒色素焼物)		明治25年(1892)3月開業	代表者は末吉吉次郎		工学博士北村彌一郎著業全集第3巻1929
瓦(黒色素焼物)		明治25年(1892)2月開業	代表者は小宮家太郎		工学博士北村彌一郎著業全集第3巻1929
瓦(黒色素焼物)		明治25年(1902)2月開業	代表者は大津栄松		三池鉱業1926
瓦(黒色素焼物)		明治25年(1902)2月開業	代表者は高田三太郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		明治25年(1902)3月開業	代表者は西田吉吉		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		明治40年(1907)7月開業	代表者は平川吉太郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		明治41年(1908)6月開業	代表者は大津栄松		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		明治45年(1912)2月開業	代表者は大木		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正2年(1913)3月開業	代表者は末吉重		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正7年(1918)3月開業	代表者は武来家三郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正10年(1921)2月開業	代表者は石橋栄太郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正12年(1923)3月開業	代表者は松藤達人		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正12年(1923)3月開業	代表者は桂賀巳		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正13年(1924)3月開業	代表者は夏富福松		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正13年(1924)3月開業	代表者は佐藤栄太郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正13年(1924)3月開業	代表者は大橋栄次郎		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		大正14年(1925)3月開業	代表者は夏富福松		全国工場通観
瓦(黒色素焼物)		昭和2年(1927)3月開業	代表者は幸田口虎次		全国工場通観

衛生器		大正6年(1917)5月開業	代表者は無記名	全国工場通観
煉瓦		昭和6年(1931)6月開業	代表者は無記名	全国工場通観
耐火煉瓦		大正14年(1925)12月開業	代表者は高山祐	全国工場通観
耐火煉瓦		大正12年(1923)12月開業	代表者は辻村良助	全国工場通観
		大正7年(1918)10月～	労働者の方々が全国工場通観には飲食用陶磁器製造業の代表者として玄富藤九郎が掲載される	全国工場通観
煉瓦・耐候瓦		昭和8年(1933)4月開業	代表者は小島義	全国工場通観
煉瓦		昭治37年(1904)3月開業	代表者は川西義吉	全国工場通観
瓦		昭治2年(1869)～昭和中期	明治二年六月四日頃墨書き「無い串る口上の覚」、「瓦屋 吉井尚、巻枕、巻枕、に業者手のひでいた時刻、瓦屋を手行いた。 1912年6月4日」の墨書きが瓦の裏面に残されています。この墨書き は、いわゆる「墨書き」といわれる墨書きで、瓦屋の名前や年 代、瓦の出荷年などを記すもので、墨書きが瓦の裏面に残 されている。この墨書きにある瓦屋の墨書きが地図の大矢天 神林道跡2号と対応される。県指定史跡墨書き団(東京都)の 瓦は大矢で製作されたもの。、陶土、豊前市大矢町？	友枝文書史料集(一)商業
瓦		近世～近代	近世まで瓦屋は墨書きされた奉帳と伝えられ、誤字では近代 瓦屋ともいわれる。墨書きが瓦の裏面に残されています。この墨書き が地図の大矢天神林道跡2号と対応される。県指定史跡墨書き団(東京都)の 瓦が大矢で製作されたもの。	友枝文書史料集(一)商業

表2 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 関係遺跡

番号	名称	読み	種別	所在地	現状	推定年代	備考	参考文献	
1	土取り跡	どとりあと	1 太宰府市吉富留7丁目	駐車場					
2	土取り跡	どとりあと	1 太宰府市吉富留7丁目	店舗	江戸末～近代	平良真其の屋の屋根取地[西山]		「佐野を園む」向い野原口道 山川(佐野)「都御道」第8号 1885年(明治18年)1月1日付 日本近世窯業史	
3	土取り跡	どとりあと	1 太宰府市吉松3丁目	宅地	江戸末～近現代	中の子家の博多美術、博多多人形の屋根採地		「博多人形の屋根採地」博多人形 山川(佐野)「都御道」第8号 1885年(明治18年)1月1日付 日本近世窯業史	
4	植物用の土		1 深志大字上須恵				文獻記載	「深志の創始者重吉安が築の私山にかかる アーチ型の石垣と、重吉の墓碑」(昭、深志町 重吉字山みどりわらふるで植物用の土を発見し たとされる。(昭和2年)」	
5	釉薬用の原料の土		1 深志大字木本				開き石記載	「開き石の記載により、釉薬用の原料の土を生 産する所とされる。釉薬用の土を生産してい た」(博多人形歴史)	
6	陶器土採土場		1 船倉市杷木赤谷					「村ノ東ノ山は云處より陶器の裏(裏)用の白土を出 す」(筑前国志土記地圖)	
7	陶器土採土場		1 直方市森田					「直方、竹原の山の松山の下より白土をす。 平良町近山の山の頭に熱ゆる白土也。海に運 船へ出す。」(筑前国志土記地圖)	
8	土工(保謹地)		1 福岡市城南七隈	宅地	明治～			「直取使の花崗・青石・赤堀口 現在700人から3000人が入る資料として保 謹地」	
9	土工(保謹地)		1 福岡市南区野間	宅地	江戸～			日本近世窯業史 古史記(福岡)	
10	土工(保謹地)		1 福岡市南区河内	宅地	明治～			日本近世窯業史	
11	土工(保謹地)		1 福岡市南区久留	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
12	土工(保謹地)		1 福岡市南区高宮	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
13	土工(保謹地)		1 福岡市南区猪手	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
14	土工(保謹地)		1 福岡市南区五十川	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
15	土工(保謹地)		1 福岡市南区名島側	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
16	土工(保謹地)		1 福岡市博多区青木	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
17	土工(保謹地)		1 福岡市博多区糸野	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
18	陶料(保謹地)		1 福岡市早良区有田	宅地	明治～			日本近世窯業史	
19	陶料(保謹地)		1 福岡市南区多賀	宅地	明治～			日本近世窯業史	
20	陶石(保謹地)		1 福岡市西区武志		江戸～			日本近世窯業史	
21	陶石(保謹地)		1 福岡市城南区馬場	宅地	江戸～			日本近世窯業史	
22	土工(保謹地)		1 鶴見市東峰村		江戸～			日本近世窯業史	
23	廻堰土場		1 岩屋		江戸～			西昌山の萬徳の裏石	
24	瓦製石器専用地 水溝も含め窯業地(保謹)	えんじんじたくまあ と	4 直方市	原野	平成19年(2007)1 月			日本近世窯業史	
25	高取伝内・織部記念 碑	たかとりややくちがそ まねひん	4 直方市	山林	平成22年(2010)4 月				
26	高取八山墓(碑)	たかとりやまざはかあ た		福岡市田代山公園 村白塚山の西にある「墓は高取郡中 高取山の西の邊にありて墓碑立てなし 高取山の北の邊にありて墓碑立てなし 高取山の北の邊にによって…」がある	宅地	昭和41年(1966)8 月建立		昭和8年(1933)新地の墓石について、昭 和41年(1966)に瓦製石器専用地のために被 削された。但しその墓碑に記されては置 かれていない。昭和41年(1966)8月建立 小原(新地)へ 住吉佐喜式 昭和41年 8 月 石碑 異いなし 名作重要 瓦製石器 瓦製石器専用地の墓碑は、瓦製石器専用地 でなく、瓦製石器専用地の墓碑ではないこと から、これは新地村に在するものと考え られる。	日本近世窯業史
27	古高取山田跡記念碑	こかうとりやまだかまあと せんじんひ	4 直方市上山田	山林	昭和11年(1936)			昭和11年(1936)8月19日	
28	古跡・高取八仙堂遺 跡	たかとりやまさんじやい	4 直方市上山田	山林	昭和54年(1979)			高取僊(1)代元高取八仙建立	
29	大庭道太夫、矢橋の 墓	おおばけだゆうかうらふ のほか	4 直方市上山田	山林				山田宮に墳した大庭の五郎にちなんで立 つ。大庭道太夫は、元豊前守、官至左衛門 尉(1617年)2月22日(慶長22年1月22日)、 享保21年(1736)11月1日(正徳2年10月1日)没 した。道太夫の名は、矢橋と呼ばれていた ことから、これは矢橋村に在するものと考え られる。	坂井街道
30	芦武天神社 式日御 燈	じんむてんのうししゃき じつけんとう	4 速賀郡芦屋町正門町	神武天皇御在 内八人引石に置 存	嘉永2年(1849)1月 1日			「第一灯の石灯籠」基礎まで入れた高さ5m 台石には奥院八人石などの名が刻まれる。	
31	同上	おみみなどんじやしき じつけんとう	4 速賀郡芦屋町船町	同上	天保3年(1832)1月 1日			伊万里・芦屋の商人人と共同して樹立した一月 二月正月燈	
32	同上	おみみなどんじやしき じつけんとう	4 速賀郡芦屋町船町	同上	天保10年(1839) 1月			伊万里・芦屋の商人人と共同して樹立した一基 の正月燈	

番号	名稱	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
33	陶工小山田家墓跡	とうこうおやまだけのはかと	4	浜原町大字上須真	丘陵地の台地部 西側の急斜面 地。整備され、 開拓され、 1981年墓碑新 設を実施	天明2年(1782)以 降	歴史古跡資料館に保存の調査記録及び副葬品 (遺物)収蔵	
34	松永古右衛門の墓	まつながきらえもんのはか	4	西原郡須若和大学上須真	共団地の中に位置する		須真町から天草に渡った陶工松永家の墓	須真町誌p1140
35	佐土塙跡	さどづな	1	朝倉郡東峰村			「陶土を復元時に出土した石などに円溝に埋つもののか所などある」とする。「日本近世窯業史」のものと同じく佐土塙	東峰村誌p3集
36	南神	なんじん	4	朝倉郡東峰村			「祭日は10月10日。自然石で高さ132cm、幅60cm、厚さ44cm、小石造工芸體で作成してあり」とする	東峰村誌p6集
37	火の神釋	ひのしゆ	4	朝倉郡東峰村			村田園64で、「右間に祀られる」とある	
38	火之神釋	ひのしゆ	4	朝倉郡東峰村				小石原村史 東峰村誌p3集
39	高取家墓代墓地	たかとりけいぼしめいじ	4	朝倉郡東峰村			災害のため不明	高取家大書
40	天照太神宮	あまてらすたいじんぐう	4	朝倉郡東峰村			延宝9年(1681)に高取八尾彦吉が高取家がこの地に移り住んだときに天照太神の神を勧請して天照太神宮を創建したとされる。	小石原村史 高取家大書
41	荒山山王神社	あらさんさんおうじんしゃ	4				佐々木モ七・須若山の裏にあったとされる神社	
42	須田舟山の墓	すだふねやまのほか	4					須真町誌p1139

筑後

番号	名稱	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
1	赤坂寺社境内 墓石	あかさかじんぐうちまこと	4	筑後市大字鹿敷	墳地保存	大正10年(1921)	三面露頭に建立された赤坂寺社境内の鉄火台の前に「百年記念碑」大正10年にある。	
2	須東本信昌元記念碑	すとうほんしんじょうげんきねんひ	4	筑後市大字野野	墳地保存	昭和48年(1973)5月2日	須東寺境内大門の脇に建立された平谷春の墓碑である。碑文に「廿二年六月先祖の碑がある。	筑後市寺社仏閣調査書 須東寺
3	水田信記念碑	みずたにしきねいひ	4	筑後市大字水田	墳地保存	昭和48年(1973)8月	水田信が水田信義の跡を承継した時の石碑。筑後本土安政院によつて設置される。	
4	舟ノ子供墓跡 (石碑)	ふねのこよめいぼしげ	4	八女市立花町北山			墓碑の内の水田氏子の碑(舟石碑)に「舟ノ子供墓跡」とある。碑文は昭和42年。	
5	カメヤキ丁の墓	かめやきどこのほか	4	八女市基本町芦原			八女郡源井村赤坂山のカメヤキ丁の地にあり。(參照)高見の墓止ること	高見7355筑後周遊考
6	舟の本墓跡	ふねのほんぼしけ	4				本製の標柱 滅滅	
7	舟名川(川傍合室)(碑)	ふねながわ(かわわせ)(ひ)	4	みやま市高田町下越田			直対室と角室にある。	
8	森松家之墓	もりまつけのはか	4	八女市星野村	墓地		森松家之墓の後に、「森松姓墓記」の碑があ	

豊前

番号	名稱	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
1	上野本多勝綱	あげのほんのがむかと	4	福智町高山	山林	平成14年(2002)10月25日	12代熊谷直造により開闢400年を記念し建立	
2	古墓	こぼ	4	福智町畠畠?	山林	江戸期	地元では大友赤穂の領分討ち難易の墓と伝えられる。蓋の口より百~萬の墓標上	
3	御厨高麗密食群の地	ごくりこうらいみつぐんのぢ	4	福智町若原	山林	平成21年(2009)8月27日		
4	美田橋三郎大夫墓	みだばしやさぶろうだいふのま	4	田川郡春日井大字高野	墓地	慶長元年(1685)8月	「日書」底の陶工を考えられる美田橋三郎とその妻の墓標。	
5	須土(保園地)	すど	1	田川市?		江戸~	上野原	日本近世窯業史
6	須土(保園地)	すど	1	田川市夏吉		江戸~	上野原	日本近世窯業史 大分県立郷土資料館蔵室野井の資料 の資料(その資料) 稲土田川 44号 p25「萬代時代 本多御内 所の「足利工・船系奈良、 猪豆」

筑前1 永満寺宅間窯跡

所在地：直方市大字永満寺

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

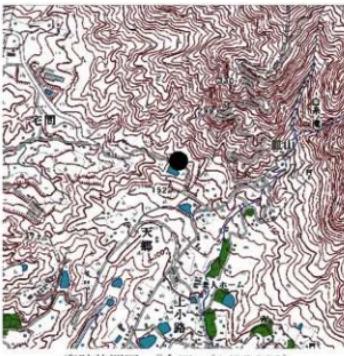
年代：慶長11年(1606)～慶長19年(1614)

現況：山林

備考：市94、県050117として周知化

『高取歴代記録』には慶長5年(1600)の黒田長政入国後、文禄・慶長の役により朝鮮半島から日本へ渡來した八山により鷹取山の麓で製作をはじめたとあり、これが永満寺宅間窯とされる。すなわち高取焼の起源となる窯と評されるが、具体的な開窯年代には慶長11年(1606)や慶長9年(1604)等の諸説がある。慶長19年(1614)の一國一城令による鷹取城廃城により閉窯し、内ヶ磯窯に移ったとされる。

窯は鷹取山南麓に位置する。豊前国境に近い地にあり、豊前上野焼の皿山本窯とはおよそ750mしか離れていない。昭和57年(1982)に直方市教育委員会による発掘調査が行われ、全長16.6mの焚口と焼成室6室からなる割竹式登窯が検出された。小皿や碗、瓶など日常製品が多く、茶陶は発掘調査資料には含まれない。釉薬は薺灰、土灰、褐釉が多く、海鼠釉となるものが目立つ。窯道具にはハマとトチンがある。



窯跡位置図『金田』(1/25,000)

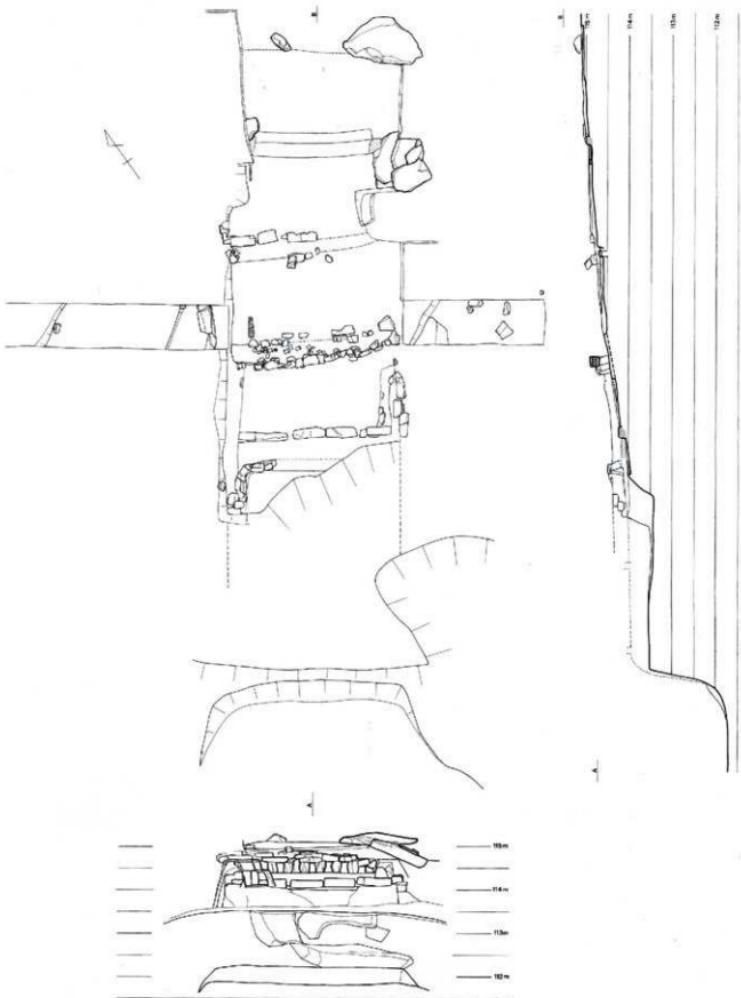


窯跡現況(近景)



窯跡(調査時)

直方市教育委員会提供



永満寺宅間窓跡実測図（1/100）

筑前2 内ヶ磯窯跡

所在地：直方市大字頬野

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：慶長19年（1614）～寛永元年（1624）

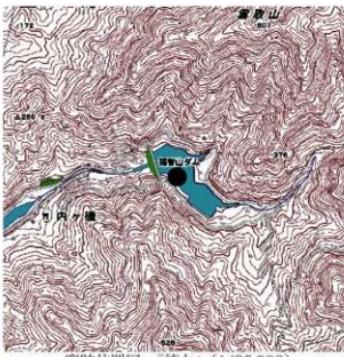
現況：ダム水没

備考：市55、県050118として周知化

『筑前国続風土記』によると朝鮮出兵により渡來した八山により慶長19年（1614）に開窯。『高取家文書』は寛永元年（1624）に、八山父子の帰國願いが二代藩主黒田忠之の勘気に触れ、山田村へ蟄居させられたとある。『筑前国続風土記』には寛永7年（1630）に白旗山に移ったとあることから、その時期まで続いたとする説もある。

窯跡は鷹取山北麓の比較的狭い谷に位置する。昭和54年（1979）から56年（1981）、平成7年（1995）から平成11年（1999）に計8次の発掘調査が行われ、全長46.5mの焚口と焼成室14室からなる階段状連房式登窯が検出され、前面域を中心工房跡もまた検出された。窯の両脇には厚い物原が形成される。皿や擂鉢など日常製品が多く生産されたが、茶入・茶碗・手指・付など多様な茶陶もまた生産された。藁灰釉、アメ釉を中心に、多種多様な釉薬が用いられ、掛け分け・イッチン掛け等の技法もみられた。

窯本体は調査後に保存措置が講じられた上で、福智山ダムの湖底に水没している。



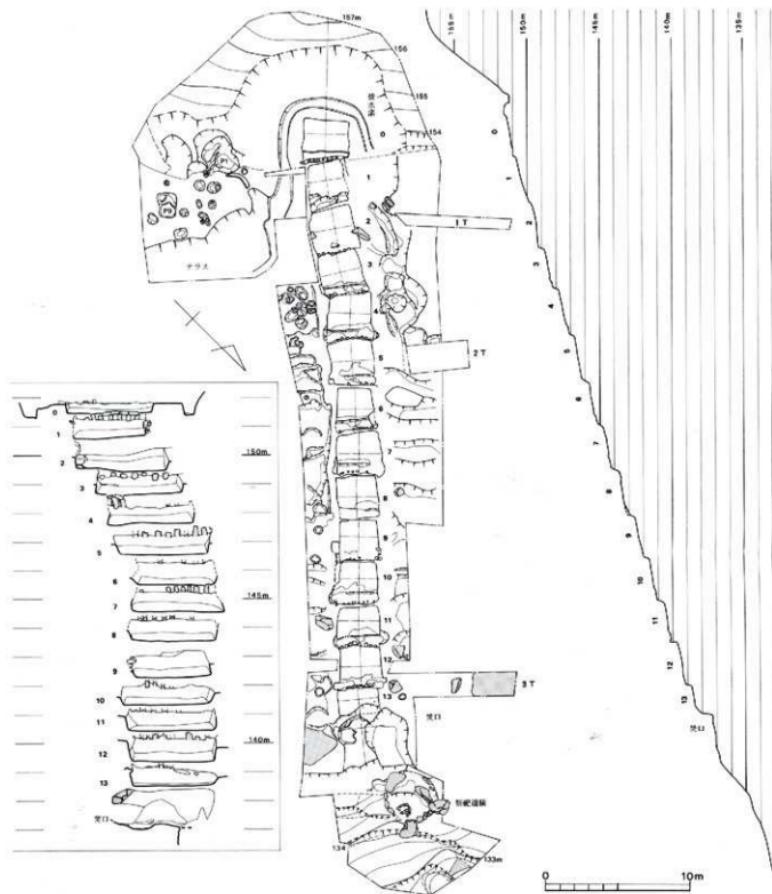
窯跡位置図 『徳力』 (1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡遠景（調査時）



内ヶ磯窯跡実測図 (1/150・1/300)

筑前4 山田窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：寛永元年（1624）～寛永7年（1630）

現況：山林、ボタ山埋没

備考：市2078、県090013として周知化

高取焼初代八山が、黒田忠之が二代藩主になったことを機に帰国を願い出たところ、その怒りに触れて蟄居を命じられ、山田に住むことになり（『高取家文書』）、製陶した窯である。皿・壺・鉢・片口等の日用雑器を焼いたとされる。

筑前と豊前を分ける低い丘陵が続く地にあり、谷の奥部に築かれる。現在はボタ山の堆積下にあり窯跡を確認することはできないが、現地近くには八山の慰靈碑と調査後の昭和11年（1936）に建立された古高取山田窯跡碑が立つ。

昭和10年（1935）に地元有志により発掘調査が行われ、柄内禮次氏により調査成果がまとめられた。陶器の皿や碗、瓶等が出土している。側壁と思われる高まりが残る状況であったとされるが、発掘調査当時の聞き取りでは、かつては1尺程度の側壁と幅2～3尺程度の焚口が残り、窯床は階段状をなしていたとされる。

現在知られている出土品は少ないが、一部は根津美術館に所蔵されている。また近隣にある大庭源太夫の墓所から出土した碗は山田窯で焼かれた可能性が高く、嘉麻市指定文化財（工芸品）に指定されている。



窯跡位置図 『金田』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（古高取山田窯跡碑）

筑前5 猪之鼻窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：元文年間～

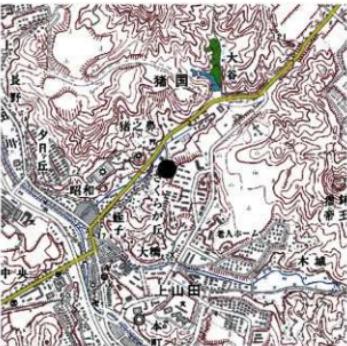
現況：山林

備考：市2076として周知化

『筑前国続風土記拾遺』には「猪之鼻に陶工二戸ありて元文の頃より陶器を製せしも近年絶えたり」とある。付近の土地は皿山と呼ばれている。

山田川に近い標高約45mの丘陵地に位置する。昭和42年(1967)3月に山田市教育委員会(現、嘉麻市教育委員会)により調査がなされ、窯の位置や規模が判明したとされるが、その具体的な内容は今回の調査では確認出来なかった。また、大師堂付近の山林が想定される地点と考えられるが、窯跡を示す状況は確認出来なかった。

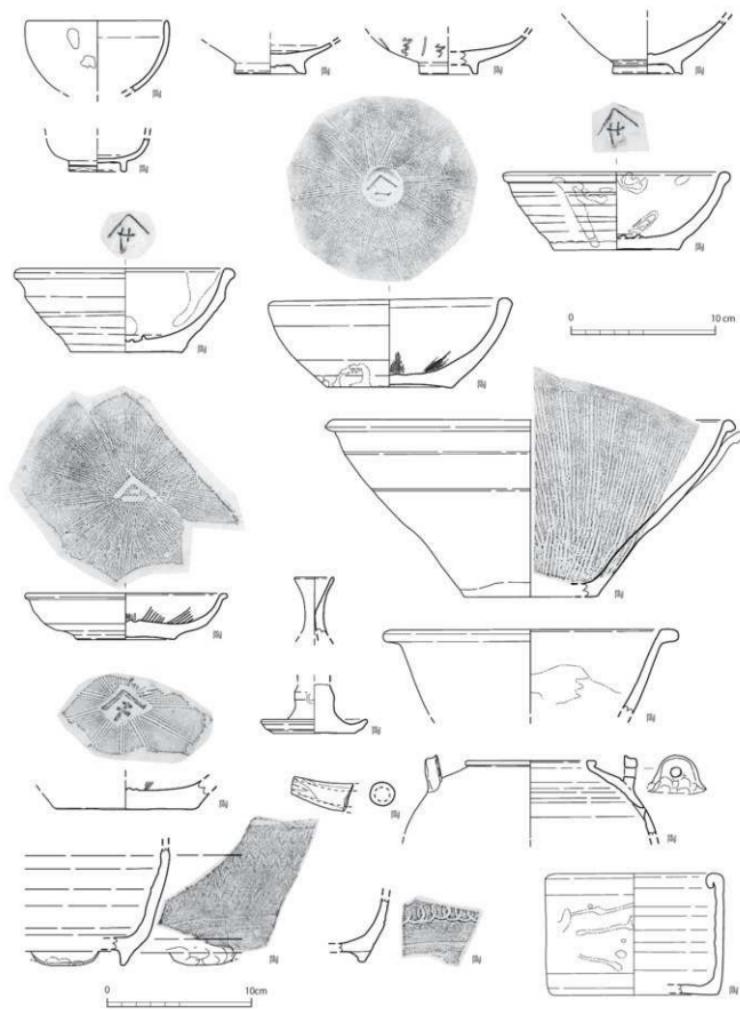
出土品は嘉麻市教育委員会で保管されている。鉢・すり鉢が最も多く、小皿・碗・土瓶・ひょうそく・土管が含まれている。屋号の陽刻・陰刻がある小形の鉢・すり鉢が特徴的である。またトチンやタコハマ等の窯道具が出土している。



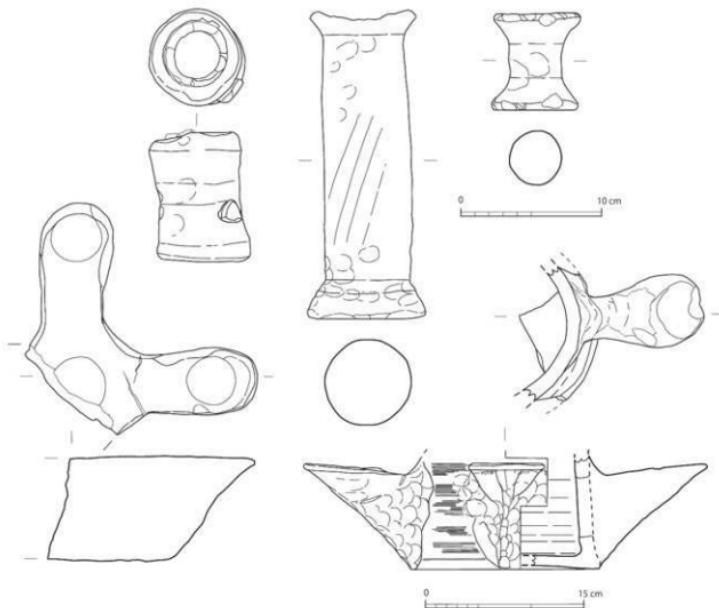
窯跡位置図『筑前山田』(1/25,000)



窯跡現況（推定地遠景）



猪之鼻窺跡出土遺物実測図 1 (1 / 3 • 1 / 4) 嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窯跡遺物実測図2（1/3・1/4） 嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窯跡出土遺物

筑前6 黒田窯跡

所在地：嘉麻市上黒田（漆生）

経営：民窯

焼物名：黒田焼

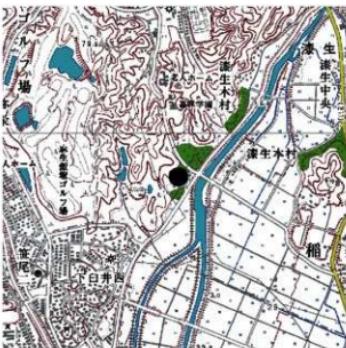
年代：江戸時代末期～明治20年（1887）頃

現況：竹林

備考：市2036として周知化

1979年刊行の『稲築町誌』に江戸時代末期開窯、明治20年（1887）頃閉窯の記載があるが、詳細を追うことはできなかった。

遠賀川に近い標高約49mの尾根先端部に位置する。尾根先端の斜面中段に平坦面があり、窯壁や窯道具、陶片が散乱する。尾根方向と直交する東西方向に0.5～1m程度の比高差で3面が連続して観察されることから、東側を焚口とする窯本体を想定したが、『稲築町誌』では、「上り窯で9個あった」というとの記述があり、窯の向きや室数は現状では正確に判断できないと考える。平坦面は南北（幅）3.3～3.6m、東西（奥行）4.5m程度の規模を測る。窯本体推定位置から南に向かった斜面には碗・皿等の陶器片や窯道具（足付サヤ・トチン）、焼土が多量に堆積し、物原を形成している。製品には「黒」の刻印があるとされるが、採集資料では確認できなかつた。



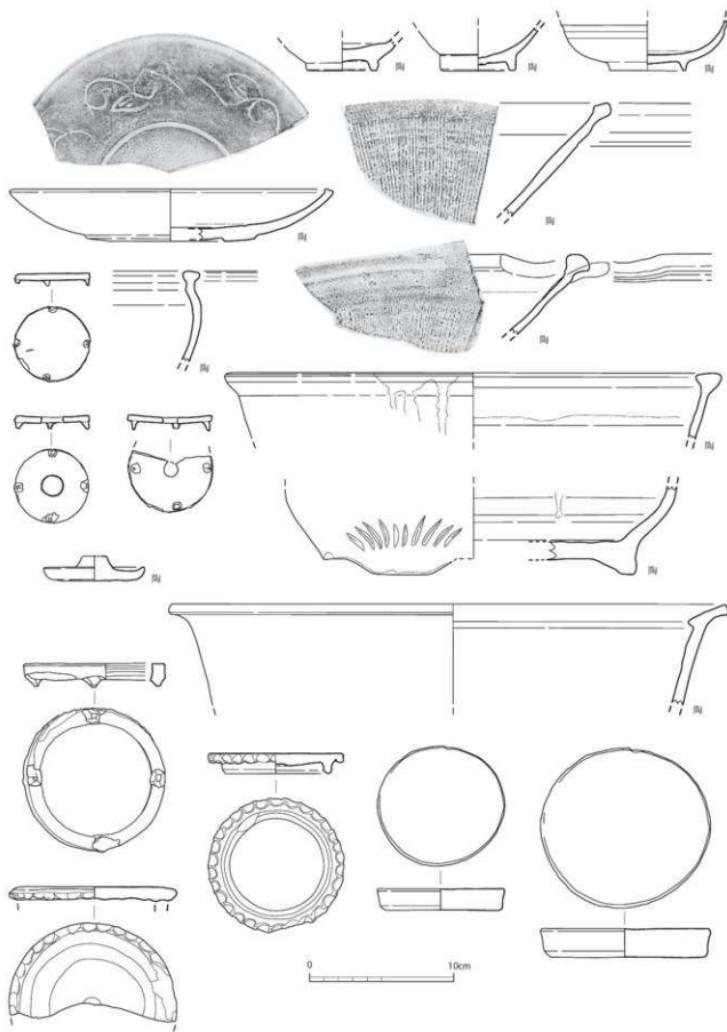
窯跡位置図『飯塚・大隈』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

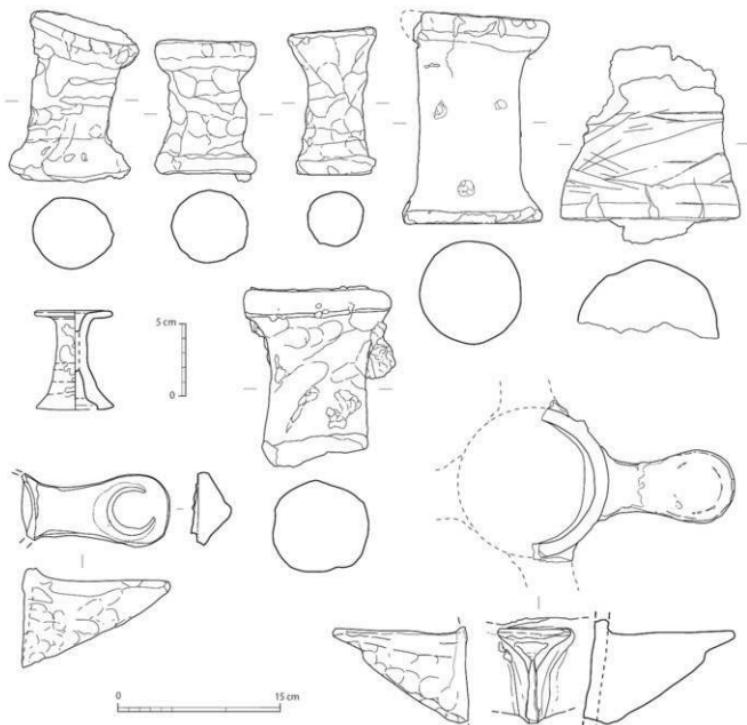


窯跡現況（近景）



黒田窯跡出土遺物実測図1 (1/3)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡遺物実測図 2 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡出土遺物

筑前7 野口窯跡

所在地：嘉麻市大隈町

経営：民窯

焼物名：

年代：19世紀？

現況：山林

備考：市2169として周知化

文献等の記録類にあらわれない窯跡。

大隈集落を外れた丘陵斜面に位置し、旧山田市へ抜ける旧道に近い場所にある。急傾斜地を斜めに登る幅約4mの古道があり、標高約90mの地点において道に沿って石垣が築かれている。石垣の上面は狭い平坦面をなしており、南側は急傾斜地となる。窯道具は、この古道の周辺に散布しており、石垣を含む造成地に窯を築いていた可能性があるが、現状で窯の構造は確認できない。散布する量は少量で、小規模な窯であった可能性がある。散布地の北側斜面上にも平坦面は見られるが、窯に伴うであろう遺物の散布はみられなかった。

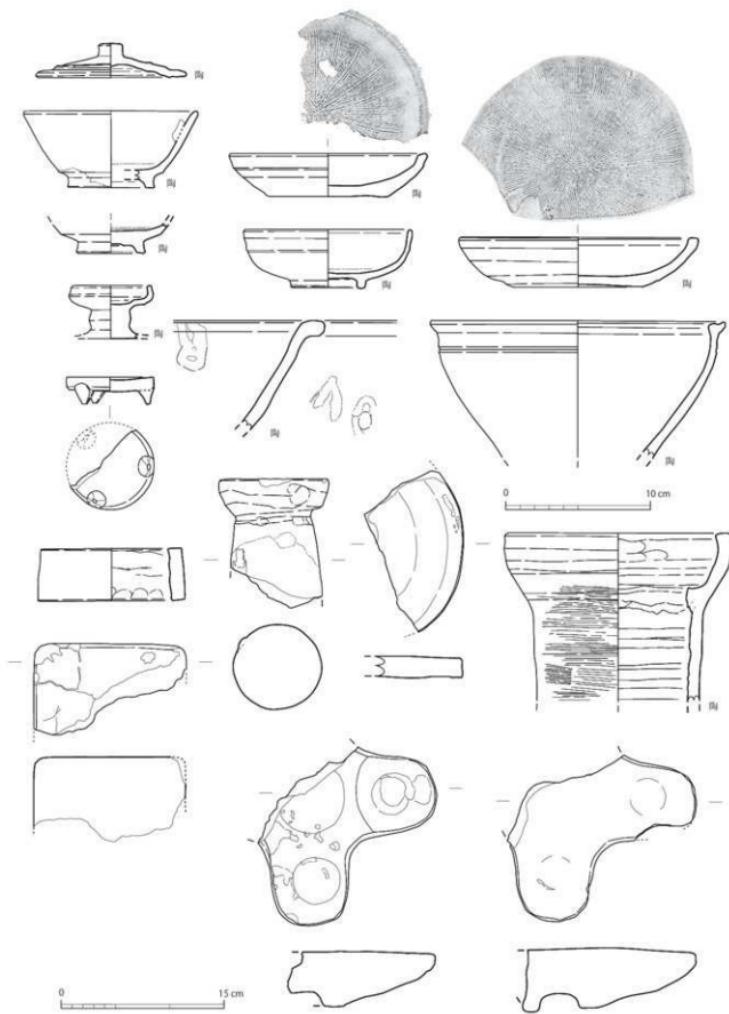
嘉穂市教育委員会に採集資料がパンケース1箱保管されている。



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



野口窯跡遺物実測図（1/3・1/4）

嘉麻市教育委員会所蔵

筑前8 白旗山窯跡

所在地：飯塚市中字野間

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：寛永7年(1630)～寛文5年(1665)

現況：山林

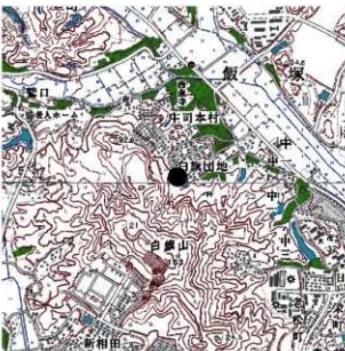
備考：市414、県070335として周知化

『高取歴代記録』によると、寛永7年(1630)、山田へ蟄居させられていた八山父子の帰参が許され開窯したとされる。寛文5年(1665)に上座郡鼓村に移るまでの間、操業された。その間、八山父子は小堀遠州のもとへ派遣され、指導を受け、遠州好みの茶陶を作製した。

窯は白旗山北麓の東斜面に位置する。昭和62・63年(1987・88)、平成2年(1990)に発掘調査が行われ、3基の窯跡が発見された。1号窯は階段状連房式登窯で、住宅造成のため消滅している部分もあり焼成室7室を検出したが、本来は10室前後と推定され、25mほどの全長に復元される。2・3号窯は1号窯の南約70mに位置し、重複するような形で検出された。2号窯は1室、胴木間、焚口のみ検出され、1号窯と同規模同式の窯と推測される。

1号窯は物原が失われており、出土遺物は少ない。多くがサヤ鉢を中心とした窯道具である。製品はすり鉢等の雑器が多く、茶入・碗等の茶陶もみられる。2号窯からもサヤ鉢を中心に窯道具が多く出土している。すり鉢等の雑器の他、茶入・水指等の茶陶が出土している。また、少数ながら磁器(青磁)片が出土している点は、本県の磁器生産の開始を考える上で重要である。

なお、八山は承応3年(1654)にこの地で没し、近隣に葬られた。八山夫妻、長男の八郎衛門夫妻、孫の善七夫妻の墓所は昭和42年(1967)に改葬されたが、その折に出土した28点の陶磁器は飯塚市指定有形文化財となっている。

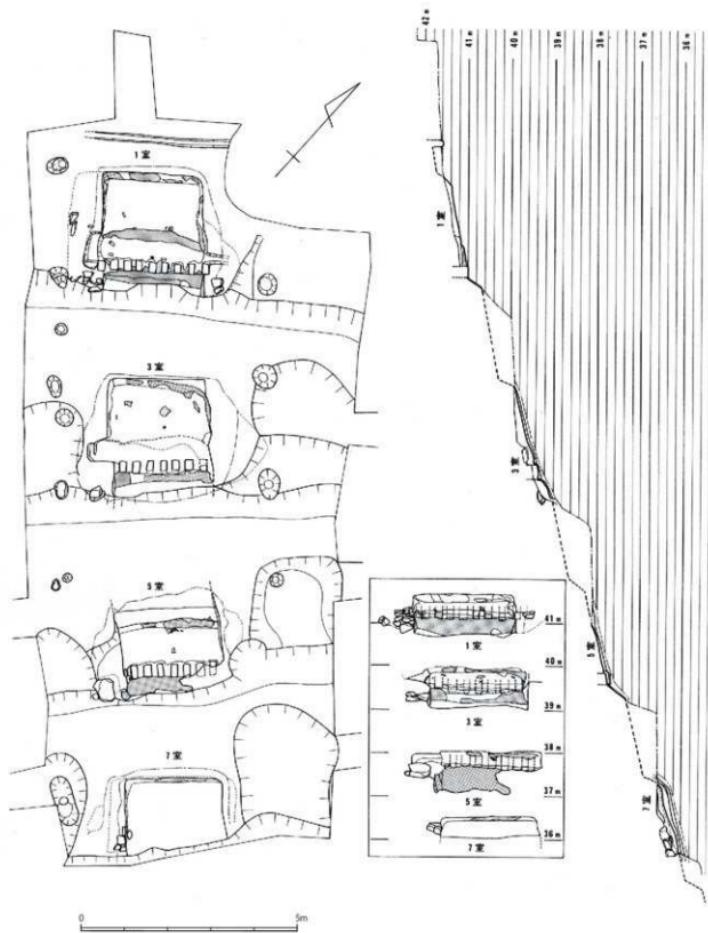


窯跡現況（遠景）



1号窯跡（調査時）

飯塚市教育委員会提供



白旗山1号窑跡実測図 (1/100)

筑前 10 上畠窯跡

所在地：遠賀郡岡垣町大字上畠字唐人山

経営：

焼物名：高取焼

年代：17世紀初頭か

現況：果樹園

備考：町 390163、県 390163 として周知化

記録類にはあらわれないが、『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。この記事は慶長 12 年(1607)頃と考えられ、陶片は高取焼の中でも古式の要素が多く、永満寺窑・千石窑と近い時期に位置付けられる。

窯跡は城山（標高 369 m）から北東に延びる尾根が緩斜面となる標高約 100 m の地点に位置する。窯がある土地の字名は唐人山であり、周辺には土取や灰ヶ谷、火渡といった字名が残る。唐人墓があつたとされるが、踏査では確認できなかった。

平成 6 年(1994)に岡垣町教育委員会により確認調査が実施され、焼成室 1 室を検出した。縦長形で傾斜角約 6 度を測る。陶器の碗・皿・鉢・小壺が出土。窯道具にはトチンとハマがある。



窯跡位置図『筑前東郷』(1/25,000)

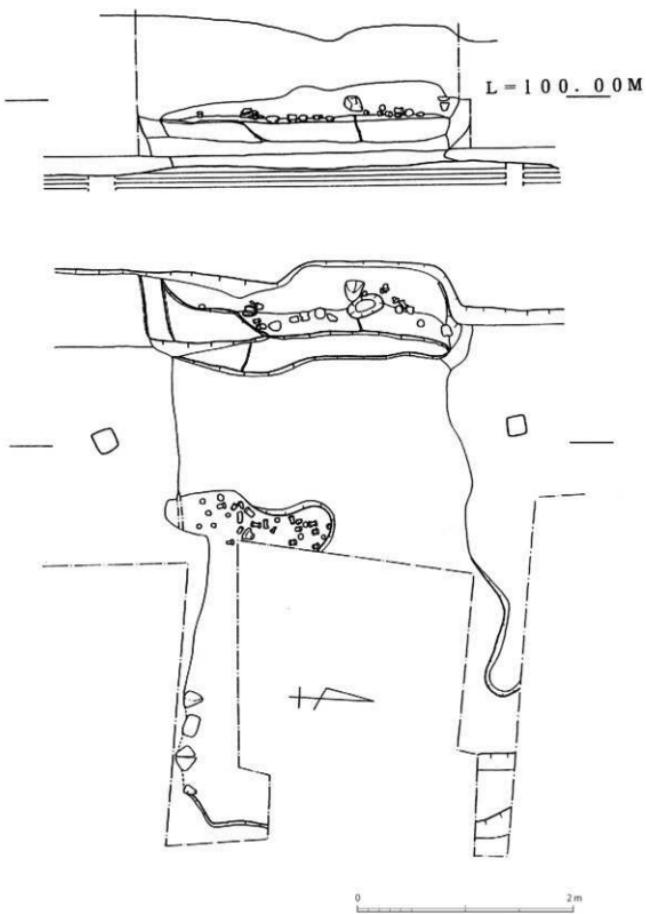


窯跡近景



窯跡（調査時）

岡垣町教育委員会提供



上烟窑跡実測図 (1/40)

筑前 11 千石窯跡

所在地：宮若市宮田字唐人町（千石皿山）

経 営：

焼物名：高取焼

年 代：17世紀初頭か

現 況：消滅

備 考：県 410348 として周知化

記録類にはあらわれないが、上畠窯と同様に『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。初期に位置付けられる窯として注目されてきた。

窯跡は八木山川右岸の標高約33mの地点で、背後や周辺に急峻な山塊が点在する狭い谷に位置する。

平成6年(1994)に宮田町教育委員会(現、宮若市教育委員会)により確認調査が実施され、ほぼ正方形プランの焼成室1室を検出した。陶器の碗・皿・すり鉢等が出土。窯道具にはトチンとハマがある。陶器の皿はイッチン掛けを多用する点に特徴がある。

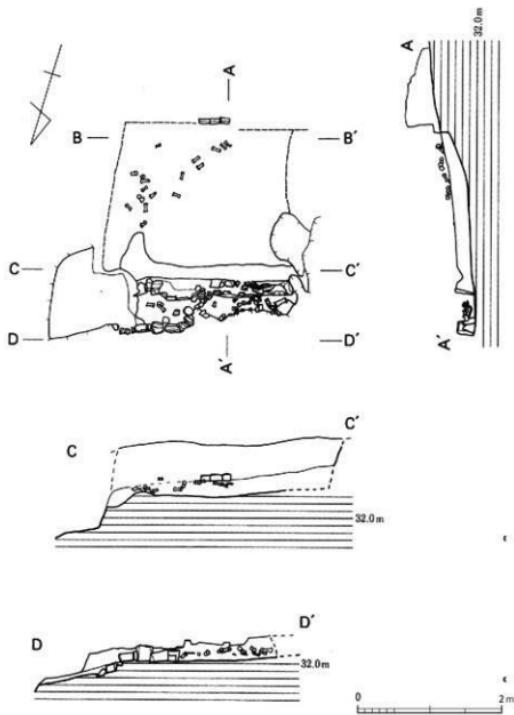
かつては残存が良いとされたが、周辺の採石が進み、窯跡は消滅している。



窯跡位置図 『直方』(1/25,000)



窯跡遠景



千石窯跡実測図（1/60）



窯跡（調査時）

宮若市教育委員会提供

筑前 12 浅ヶ谷 [朝谷] 窯跡

所在地：宮若市山口字浅ヶ谷

経営：民窯

焼物名：

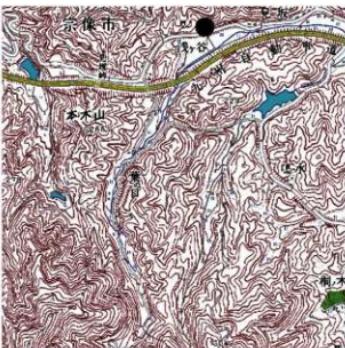
年代：明和 4 年 (1767) ~

現況：山林・削平

中村伝五郎編『年代記』(桑野家文書 文政 8 年 (1825))によれば、明和 4 年 (1767) の条に、鞍手郡山口村（宮若市若宮大字山口）で百姓惣兵衛が屋敷内に窯を造り伊万里焼風の焼き物を焼成したとある。

窯跡は「皿山」と呼ばれ、三坂峠に近い標高約 170m の南斜面に位置する。公民館建設により破壊を受けるが、奥壁の一部が残るとされる。表採遺物には、染付の皿、徳利などが見える。高台内面に「山」の文字が書かれた碗が知られる。また、窯道具にトチン、ハマがある。

須恵焼創始とほぼ同時期であるが、短期間の操業とみられる。



窯跡位置図『脇田』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景

筑前 13 犬鳴窯跡

所在地：宮若市大字犬鳴字皿山

経営：

焼物名：高取焼

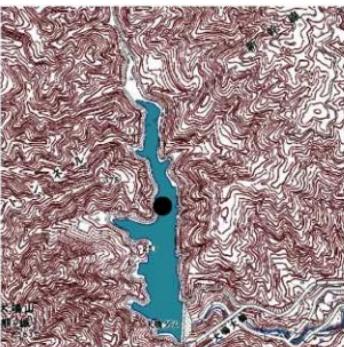
年代：寛文年間～貞享年間

現況：ダム水没

備考：県 440255 として周知化

貝原益軒『筑前国続風土記』(1710) に犬鳴山にて陶器を生産するとの記述があり、『犬鳴山古実』(1729) には「皿山の新四郎」という人物が開窯したと記される。

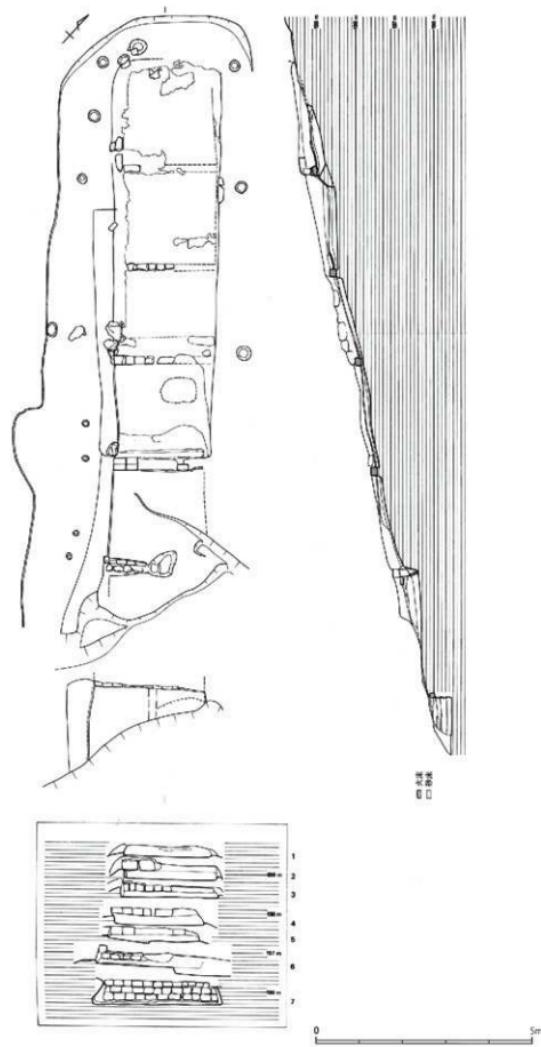
西山山系から発する犬鳴川の渓谷にあり、川を挟んだ東西に 2 基築かれた。昭和 61 ～ 62 年（1986 ～ 87）に犬鳴ダム建設に係り福岡県教育委員会により発掘調査が行われた。削平や自然崩壊により全長は明らかでないが、1 号窯は焚口と焼成室 8 室 + α からなる割竹式登窯で、残存長 18.5m を測る。2 号窯は焼成室 5 室 + α からなり、残存長 13 m を測る。いずれも 1660 ～ 80 年代の短い期間に、陶器の碗やすり鉢、甕等の日常製品などを焼いた。窯道具ではトチン、ハマが見られ、サヤ鉢も少ないながら確認された。



窯跡位置図『脇田』(1/25,000)



1号窯跡（調査時）



犬鸣1号窑址实测图 (1/100)

筑前 16 能古焼窯跡

所在地：福岡市西区能古

経営：民窯

焼物名：能古焼

年代：明和年間～天明年間

現況：現地保存

『筑前国続風上記附録』に明和の頃から陶器がつくられていた旨の記述がある。また、有田の工人・佐十郎が磁器生産を始めたが、天明7年(1787)頃に逮捕のために役人が赴くとすでに本人は逃していたという記録が有田の『皿山代官旧記覚書』に記される。これらの記録から、明和・天明頃(18世紀後半)の一時期に操業した期間の短い窯だと推測できる。

窯は博多湾に浮かぶ能古島の南東の緩斜面に位置する。昭和63年(1988)に発掘調査が行われており、焚口と焼成室7室からなる全長22mの階段状房式登窯が検出された。各室のしきりにトンバイが用いられる。肥前系磁器の碗・皿・蓋や高取系陶器の碗などが出土しているが、出土品の大半は窯道具である。

平成2年(1990)に市史跡に指定され、覆屋がかけられた上で保存されている。



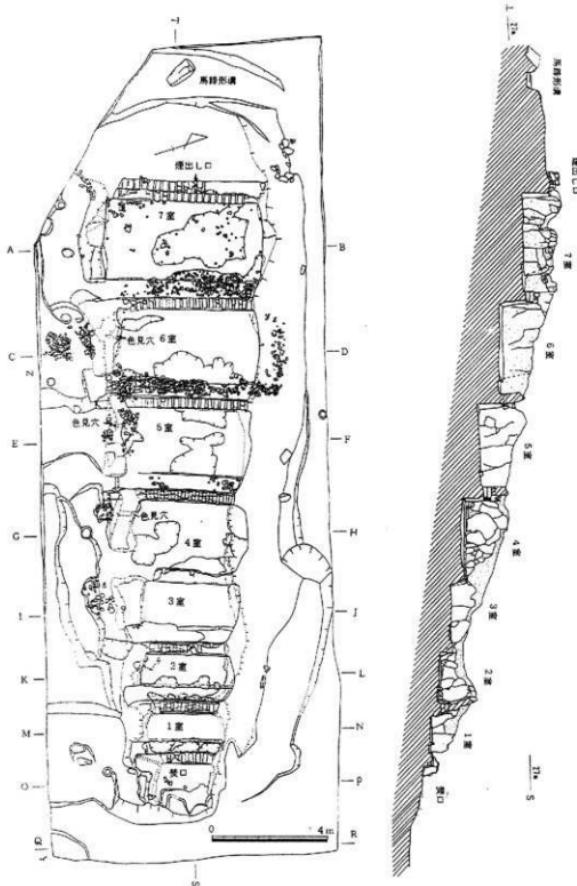
窯跡位置図 『福岡西部』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景



能古焼窯跡実測図 (1/150)

筑前 22 東皿山窯跡

所在地：福岡市早良区西新 5 丁目

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：享保元年(1716)～明治4年(1871)

現況：宅地

享保元年(1716)に開窯した。明治4年(1871)の廃藩置県まで続き、高取焼の諸窯のなかでは一番操業期間が長く、150年の歴史がある。文化13年(1816)に描かれた見取図から、焼成室8室からなる全長24mの規模であったことがわかる。藩窯であり、茶入・碗・水指・香炉といった茶陶のほか生活全般にわたる多種多様な器種を焼き、贈答用の置物もみられる。文政6年(1823)以降、「高」銘が義務付けられ、藤巴の印文もある。

窯は博多湾沿岸の標高約21mの独立丘陵に位置するが、宅地化しており窯跡は確認されず、陶片や窯道具が採取されるのみである。北に近隣する西新町遺跡から福岡県教育委員会による発掘調査で窯道具が大量に出土しており、東皿山窯に関係するものと考えられる。



窯跡位置図 『福岡西南部』(1/25,000)



窯跡近景

筑前 23 西皿山窯跡

所在地：福岡市早良区高取 2 丁目

経営：藩窯→民窯

焼物名：高取焼

年代：寛保元年（1741）～

現況：宅地

西新窯ともいい、寛保元年（1741）に開窯した。東皿山窯が茶陶を主とする御用窯だったのに対し、本窯では日常製品を焼いており、殖産興業的側面が強い。東皿山窯が大破した際には御用品を焼いていたとされる。「近国焼物山大概書上帳」には「西町皿山 窯二登 此数参拾間」とあり、200 人に及ぶ陶業者が從事し、御道具焼物師として知行を受けている。廃藩置県後には民間窯として存続し、現在は亀井味楽窯が操業を続け、登窯 1 基が保存されている。

博多湾沿岸の独立丘陵である紅葉山の北麓に位置する。周辺は大規模に開発され、旧地形が大きく損なわれている。

平成 17 年（2005）の福岡市教育委員会による発掘調査（藤崎遺跡 35 次）で、物原を掘削した整地面が確認され、多量の陶器が出土した。碗・皿・鉢・瓶・徳利・仏具・灯明皿・甕等、日用雑器が主であるが、高級食器も少量ながら出土した。文政 11 年（1828）や天保 9 年（1838）の年号を刻むものもあり、当地点については 19 世紀前半に位置付けられる。



窯跡位置図 『福岡西南部』 (1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景

筑前 27 野間焼窯跡

所在地：福岡市南区皿山

経営：

焼物名：野間焼

年代：安政2年(1855)～明和3年(1870)

現況：宅地・神社境内

福岡藩の殖産興業政策に基づき、安政3年(1856)年には京都の陶工であった佐々木与三らを招致し、陶土を柳河内で採集し、野間皿山に開窯した。明治8年(1875)、京都から須恵に来た名工の澤田舜山を招致し、頗りかけた窯を立て直した。京焼に似た土瓶・急須・茶碗などの日用雑器や汽車土瓶は需要が大きく、生産が拡大した。

しかし、生活様式の変化に伴い規模が縮小し、近年まで存続したものの現在は操業されていない。窯跡は複数箇所にわたるとされるが、トンパイによる窯壁が残る地点を確認した。また山王神社は陶工が大山眞神と火産靈神を京都から勧請して建てたものであるが、境内で筑前野間焼の銘がある縁起物の土鉢やトンパイ等が採取され、窯の存在が想定された。

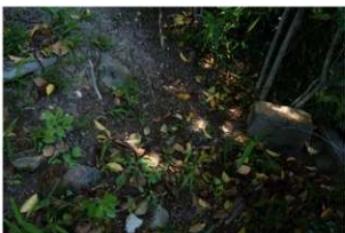
なお、澤田舜山の墓は野間窯から近い南区野間2丁目の野間墓地にある。



窯跡位置図『福岡南部』(1/25,000)



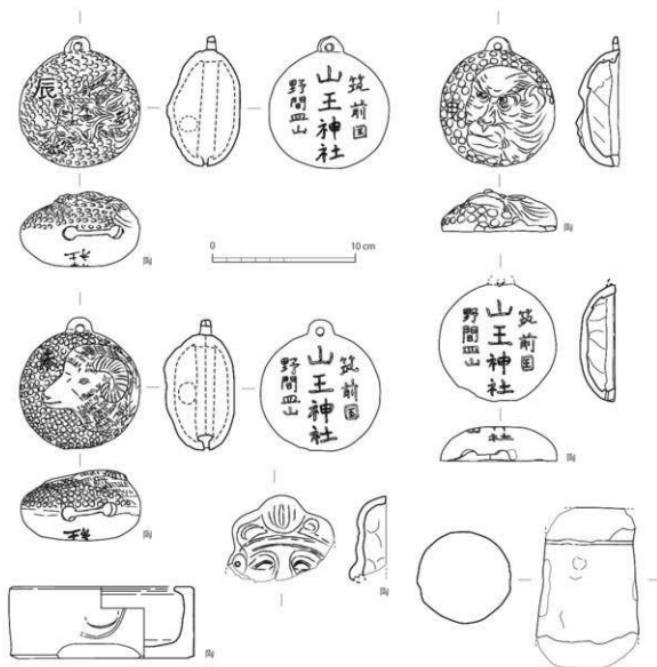
窯跡現況（窯壁残存地）



窯跡現況（山王神社）



澤田舜山の墓



野間焼窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

九州歴史資料館所蔵



野間焼窯跡出土遺物

筑前 29 須恵焼窯跡 [福岡藩磁器御用窯跡]

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経営：藩窯（福岡藩）→民窯

焼物名：須恵焼

年代：宝曆年間（1751～64）～明治35年（1902）

現況：3基現地保存

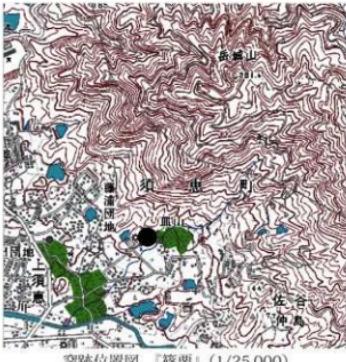
備考：町290154として周知化

福岡藩寺社司の下吏、新藤安平が須恵村金山問屋で白土を発見し、焼き物に詳しいものを肥前南川原山で陶法の指導を受けさせて始まったとされる。福岡藩より皿山奉行所が置かれるが、文政12年（1829）に藩の保護が中断した。安政7年（1860）までは民窯へ移行するが、その後、明治3年（1870）までは再度藩窯となり、皿山奉行が設置された。廃藩後は井上伊作・松永吉藏・金森嘉助により引き継がれる。明治20年（1887）には株式会社が組織され、金銷焼を作成する。明治30年（1897）頃数年の間、朝倉郡廿木の玉ノ井謙一郎、藩窯を再興し金銷釉の雑器を製造するが、明治35年（1902）には終焉したかとみられる。

窯は若杉山の南西山麓に位置する。幅が広く長大な窯が残り、上層には7室からなる明治期の窯が築かれた窯が残る。

筑前国統風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では、本窯、試験窯、陶器所のほかに薪小屋、水簾施設、瓦葺建物（製品を保管する蔵と想定される）、一字一石塔（創始者新藤安平の50回忌を供養して孫が建立）、その他建物（付属施設や工人の住居）等が描かれる。

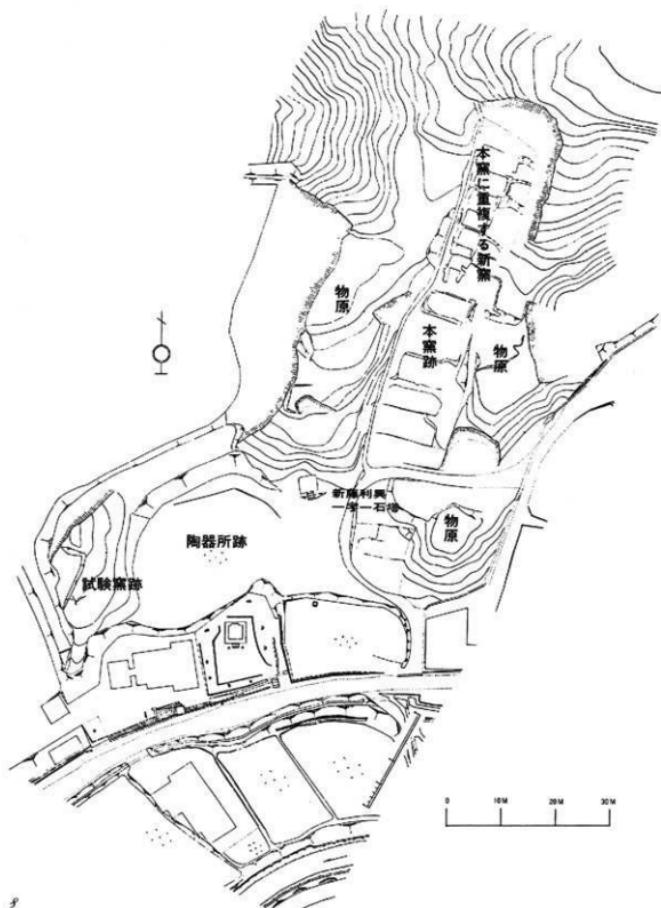
本窯跡は、昭和56年（1981）に県指定史跡に、また町指定有形文化財（工芸品）として「釀造像台座」・「花立（仏花器）（1978年4月1日指定）」「染付鉢」・「御酒器德利」2点・「御供鉢」（1982年4月1日指定）／「金銷染付山水文花生」・「金銷染付酒注」（2005年7月19日指定）が指定されている。



窯跡位置図『篠栗』(1/25,000)



須恵陶器所圖（筑前国統風土記附録 平岡本）



須恵焼窯跡遺構配置図（1/800）

筑前 30 役所畠新窯跡

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経営：福岡藩

焼物名：須恵焼

年代：江戸時代

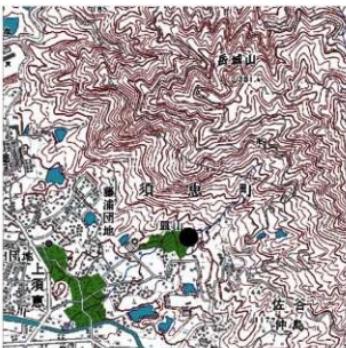
現況：山林

備考：町290161として周知化

「役所畠」の地名が残り、隣接する村山家は「新窯」の屋号を持つ。筑前国続風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では「平原陶丘」と記載がある。

若杉山から西に延びる丘陵裾にあり、福岡藩磁器御用窯から皿山川を挟む対岸に位置する。西斜面が幅広い段々に造成されており、福岡藩磁器御用窯と類する構造とみられる。西に隣接する平坦地には水礎が残る。

周辺には焼き損じた磁器や窯道具が散布する。採集した窯道具のタコハマやトチンには、「役」「山井」の字が陰刻されていた。



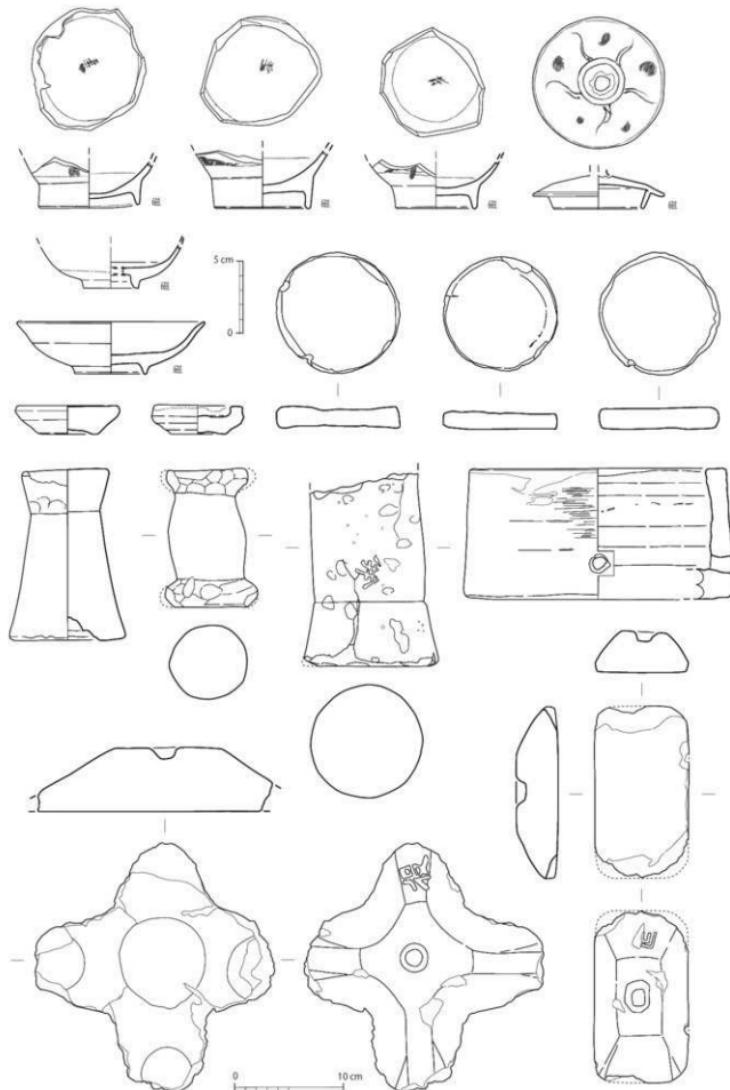
窯跡位置図『篠栗』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



役所畠窯跡遺物実測図（1/3・1/4）

九州歴史資料館所蔵

筑前 31 宇美障子岳窯跡

所在地：糟屋郡宇美町障子岳

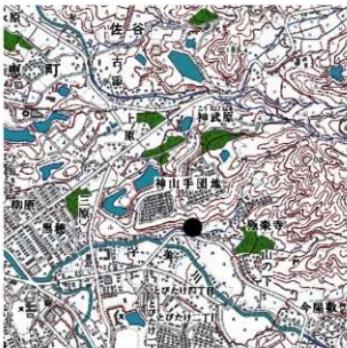
経営：民窯

焼物名：須恵焼

年代：明治期

現況：山林

三郡山系から西に長く伸びた丘陵の裾（標高約80m）に位置する。昭和56年（1981）の宇美町歴史民俗資料館の踏査により磁器（碗・皿）片や窯道具が表採され、同館に所蔵されている。明治期の須恵焼と共に通する特徴をもつ。この地は須恵焼きの登窯に使うための薪山として安永3年（1774）に藩から認められたとされており、須恵焼との関係が深い地域であった。



窯跡位置図『篠栗』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

筑前 32 中野上の原窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：

焼物名：小石原焼・中野焼

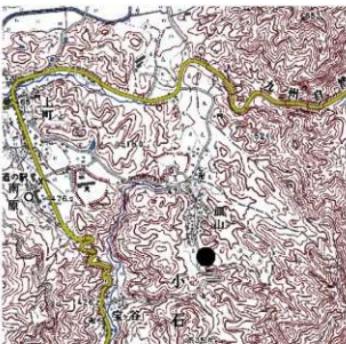
年代：天和 2 年 (1682) ~ 享保 7 年 (1722)

現況：現地保存

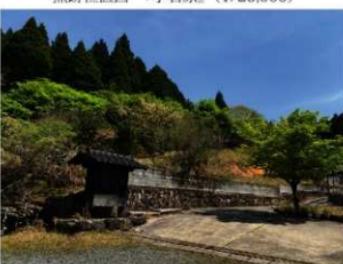
備考：村 80、県 550052 として周知化

『筑前国統風土記』の記述に、天和 2 年 (1682) に伊万里から陶工を小石原中野に呼び磁器を焼成したとある。昭和 62 年 (1987) から平成元年 (1989) に小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により行われた中野上の原窯の発掘調査で多量の磁器が出土し、記録を裏付ける形となった。

窯は残存長 38.7m の階段状連房式登窯（推定全長：45 m 程）で、焚口のほか燃焼室 10 室が検出された。出土遺物は陶器の他に白磁、染付、色絵がある。陶器は碗・皿・鉢が大部分を占め、他に壺・壺・甕・瓶・水注・香炉・仏具・すり鉢・陶管等がある。窯道具にはサヤ鉢・トシン・ハマ、チャツ、シノ（ナンキン）が見られる。特に享保 7 年 (1722) 紀年銘のある陶管が出土しており、閉窯時期を考える資料となっている。



窯跡位置図『小石原』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

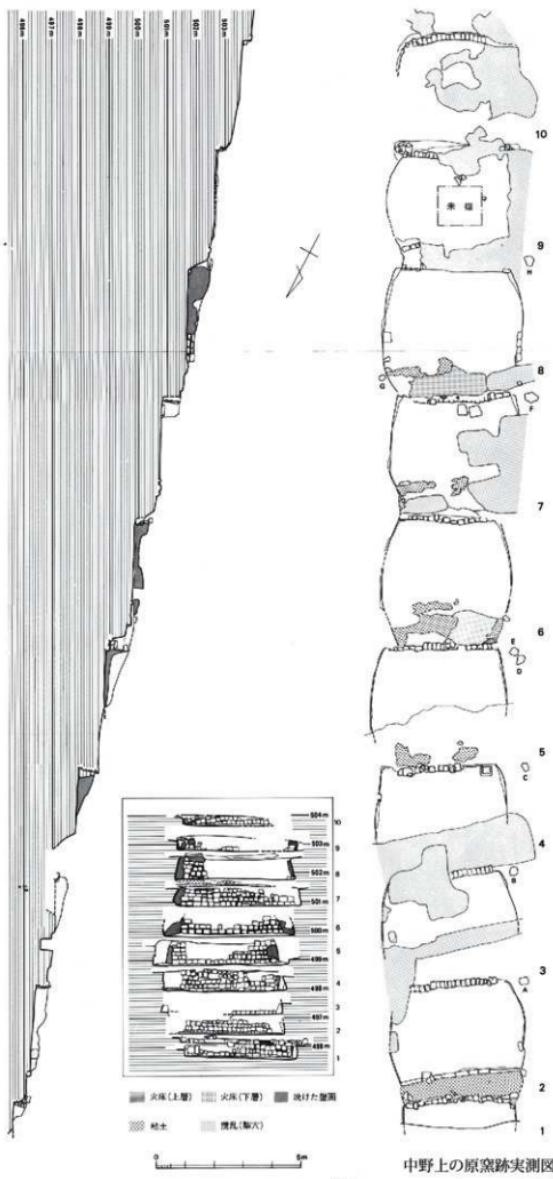


窯跡現況（近景）



窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



中野上の原窯跡実測図 (1/150)

筑前 33 火口谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：

焼物名：小石原焼

年代：〔1号窯〕18世紀前半～中頃

〔2号窯〕1号窯より僅かに先行するか。

現況：山林

備考：〔1号窯〕村77、県550053として周知化

〔2号窯〕村78、県550054として周知化

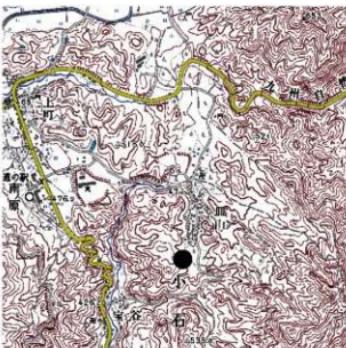
中野上の原窯の西に谷を挟んで位置する。1号窯と2号窯は小さい谷を挟み南北に築かれる。小石原村教育委員会（現・東峰村教育委員会）により、1号窯は平成5年（1993）、2号窯は平成7年（1995）に調査が行われた。

〔1号窯〕

胴木間と10の焼成室からなる全長約42mの階段状連房式登窯。各室の奥壁には2～3段のトンバイが残る。出土品は皿・碗・鉢・すり鉢・仮飯具等で、中野上の原窯の製品に近似する。しかし磁器が含まれないことから、中野上の原窯で磁器焼成を止めてから操業されたものと想定される。

〔2号窯〕

昭和30年（1955）頃に掘られた目砂採りにより、窯の大半は削平される。京焼風の陶器碗の出土が知られる。



窯跡位置図『小石原』(1/25,000)

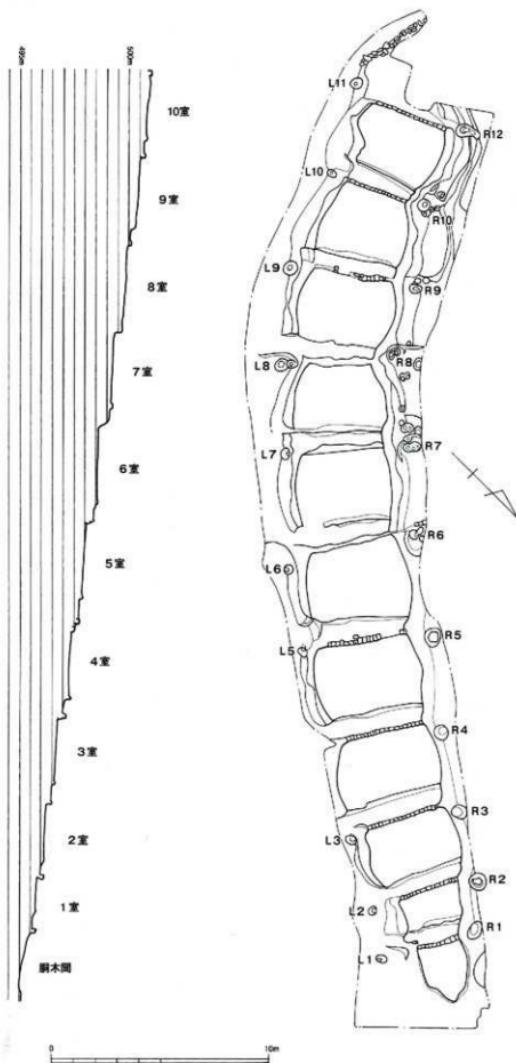


窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



窯跡現況（近景）



火口谷 1号窯跡実測図 (1/200)

筑前 34 大明神窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

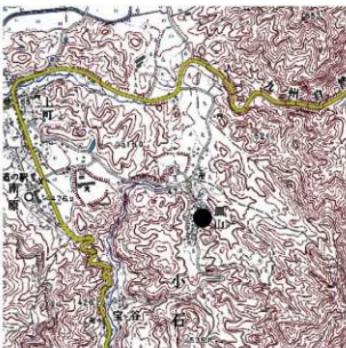
焼物名：小石原焼

年代：19世紀代か

現況：宅地

備考：村 68、県 550056 として周知化

旧下組窯に近い丘陵西斜面に位置する。個人宅地内にあり、聞き取りにより窯は横壁・天井にトンパイを使用したとされる。今回の調査では、小石原村誌に記述される位置や大明神が祀られる周辺を踏査したが、窯道具が散布する状況は確認されるものの、窯本体に関する情報は得られなかった。



窯跡位置図『小石原』(1/25,000)



窯跡推定地（近景）



窯跡推定地（近景）

筑前 35 旧下組窯跡

筑前 36 旧上組窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

焼物名：小石原焼

年代：〔旧下組〕～昭和 36 年（1961）

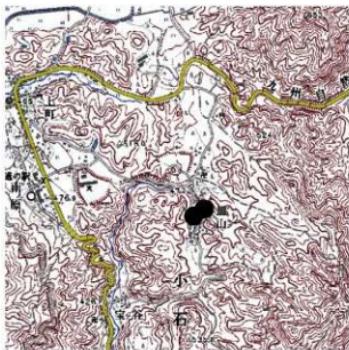
〔旧上組〕～昭和 32 年（1957）

現況：〔旧下組〕倉庫・畑地

〔旧上組〕窯

備考：〔旧下組〕県：550055・村 59

〔旧上組〕県：550057・村 73



開窯年代は不明だが、かなり古くから操業していると考えられる。上の原窯等が位置する谷を挟み対峙する位置にある。いずれも焼成室 4 室からなり、それぞれ 4 軒で管理運営された共同窯である。昭和 30 年代まで使用されていた。

〔旧下組〕倉庫や畑地となり、窯跡は確認できない。

〔旧上組〕現在、個人宅に窯があった。



旧下組窯 小石原村誌



旧下組窯跡現況（近景）



旧上組窯 小石原村誌

筑前 37 池の谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

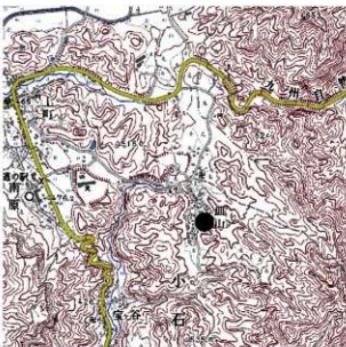
焼物名：小石原焼

年代：18世紀前半か

現況：宅地

備考：村72

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵に南接する斜面に位置する。平成6年(1994)6月合併浄化槽建設中に大量の陶片が出土した。現在の宅地部分に窯があったかと考えられ、現状で窯体に関する情報は得られない。出土品は陶器が多く、火口谷窯と同時に位置づけられる可能性がある。



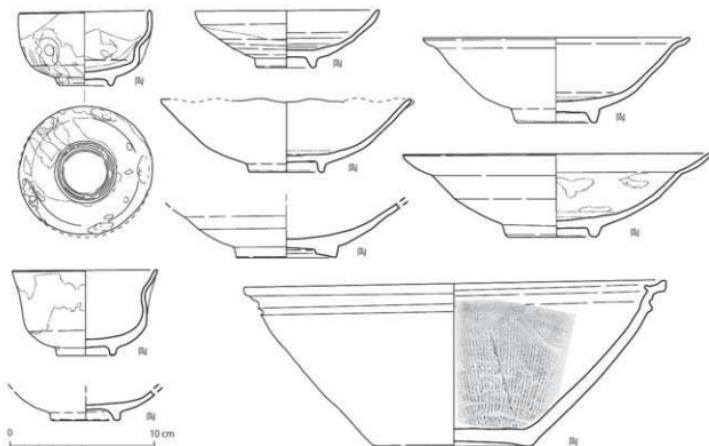
窯跡位置図『小石原』(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



窯跡現況(近景)



池の谷窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

東峰村教育委員会所蔵



池の谷窯跡出土遺物

筑前 38 金敷様裏窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

焼物名：小石原焼

年代：18世紀～幕末

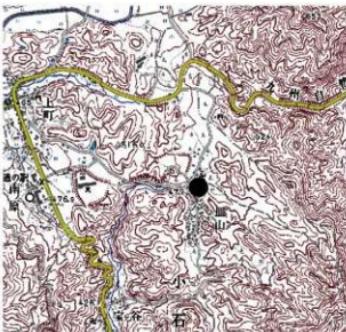
現況：神社・山林

備考：村 54～56、県 550058～550060 として周知化

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵の北側に小さい谷を挟んで位置し、窯跡が集中する皿山地区の北端にあたる。丘陵頂部には火の神を祭神とする金敷大明神が祀られている。

3基の窯が約50m間隔で位置するとされ、一番北側の3号窯の確認調査が平成5年（1993）度に小石原村教育委員会（現・東峰村教育委員会）により行われている。4室の焼成室をもつ全長約15mの連房式登窯が検出されている。物原は形成されておらず出土品の量は少ないが、陶器の碗・皿・鉢や窯道具が含まれる。

1・2号窯は藪となっており、踏査で陶片の散布は確認できるものの窯跡は特定できなかったが、かつて採集された陶片が東峰村教育委員会に保管されている。



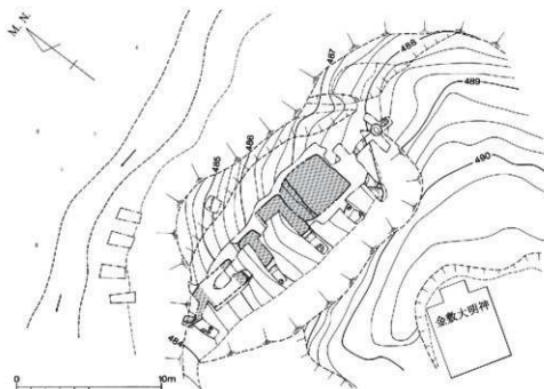
窯跡位置図『小石原』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



3号窯跡現況（近景）



金敷様裏3号窯跡実測図（1/300）



金敷様裏2号窯跡出土遺物実測図（1/3）

東峰村教育委員会所蔵